福 岡 市

埋蔵文化財年報 Vol. 8　1993年度

1 9 9 5

福岡市教育委員会

表紙は、博多区雀居遺跡調査区全景および大形建物検出状況

福岡市の概要

位置

この表は建設省国土地理院の２万５千分の１の地図から測定したものです。

方　　位	地　　点	東　経	北　経
市役所(本庁)	中央区天神一丁目８－１	130° 24′ 15″	33° 35′ 14″
極　東	東区大字蒲田字別府の浦	130° 29′ 50″	33° 38′ 34″
極　西(陸部)	西区大字西の浦字外蒔	130° 12′ 00″	33° 38′ 11″
極　西	西区大字小呂島字向	130° 02′ 06″	33° 51′ 49″
極　南	早良区大字板屋字苦笑	130° 25′ 13″	33° 42′ 33″
極　北(陸部)	東区大字三苫字牧山	130° 22′ 50″	33° 25′ 17″
極　北	西区大字小呂島字向	130° 02′ 17″	33° 52′ 17″

平成５年度福岡市当初予算

一般会計	5,925億9,200万円
特別会計	6,957億5,599万円
企業会計	2,414億1,378万７千円
合　　計	１兆5,297億6,177万７千円

平成５年度埋蔵文化財関係予算

開発事業審査費	14031千円
公共事業関係費	８億354万６千円
民間・国庫補助関係調査費	３億1525万９千円
合　　計	11億3283万６千円

面積、人口、土地利用状況（有租地面積など）

区	面積(㎢)	世帯数	人　口	有租地総面積(千㎡)	宅地				農地		山　林	原　野その他	免税点未　満
					総　数	商業地	工業地	住宅地	田	畑			
全　市	336.50	515,991	1,263,380	187,373	75,876	8,432	8,963	58,481	28,914	10,838	50,597	21,148	8,418
東　区	63.30	101,356	255,529	34,207	17,176	432	4,317	12,426	3,935	2,465	5,031	5,600	1,084
博多区	31.40	75,601	167,750	17,453	11,745	3,035	3,540	5,170	1,298	632	1,224	2,554	216
中央区	15.14	69,132	138,723	7,979	7,491	3,049	753	3,689	2	7	205	273	2
南　区	30.98	94,817	238,569	18,804	12,925	657	175	12,093	1,387	396	2,153	1,943	257
城南区	16.02	54,523	123,868	9,653	6,545	282	－	6,263	471	207	1,699	731	122
早良区	95.88	71,164	192,929	47,081	10,534	604	－	9,930	7,954	750	24,798	－	2,237
西　区	83.78	49,398	146,012	52,197	9,197	373	178	8,910	13,869	6,382	15,486	－	4,499

※人口は平成５年１月１日現在の推計人口。福岡市勢要覧－平成５年－による

序

平成５(1993)年度は、日本経済の停滞による不安定な社会状況のなかで、都市基盤整備・再開発など大形の公共プロジェクトおよび民間による中小規模の開発が推進されています。これらの開発に伴い発掘調査件数は昨年より増加し、脚光を浴びる新発見も数多くありました。

本書は、平成５年度の埋蔵文化財行政の概要を示しています。本書が文化財理解の一助となり、活用されることを希望いたしますとともに、調査費負担をはじめとする関係者各位のご協力に謝意を表します。

平成７年３月31日
福岡市教育委員会
教育長　　尾　花　　剛

例　言

1．本書は、教育委員会埋蔵文化財課が平成５年度に行なった事業のうち、各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査業務（文化財整備課調査を含む）について概要を記したものである。

2．調査報告収録分は、平成５年度に発掘調査を実施した遺跡で、整理報告について予算処置がないものである。

3．本書の作成は、平成６年度の事前審査担当（浜石哲也、山口譲治、長家伸、菅波正人）で行なった。なお、発掘調査の概要・報告は各調査担当者が分担執筆し、文化財調査の概要については、文化財整備課の三木隆行の執筆である。

目　次

I　開発事前審査 …… 1
　1）平成５(1993)年度の概要 …… 1
　2）試掘調査一覧 …… 3
II　発掘調査の概要 …… 23
　1）平成５（1993）年度の概要 …… 23
　2）発掘調査一覧 …… 25
　3）各調査の概要および調査報告 …… 27
III　文化財調査の概要 …… 105
附　平成５(1993)年度刊行報告書一覧 …… 107

平成5(1993)年度の組織

- 文化財部
  - 埋蔵文化財課
    - 第　1　係：早良・城南・西区内事業に係わる埋蔵文化財の発掘調査等
    - (主任文化財主事)：公共事業に係わる埋蔵文化財の事前審査等
    - 第　2　係：東・博多・中央・南区内事業に係わる埋蔵文化財の発掘調査等
    - (主任文化財主事)：民間事業に係わる埋蔵文化財の事前審査等
  - 主席文化財主事：大形公共プロジェクト事業に係わる埋蔵文化財の調整
  - 埋蔵文化財センター
    - 管理係：考古学的資料の収集・収蔵・保管・保存処理・展示
    - (主任文化財主事)：考古学資料の調査・収集・整理
  - 文化財整備課
    - 文化財管理係：考古学的資料の収集・保存・展示
    - 主査：史跡整備・鴻臚館跡発掘調査
- 博物館
  - 庶務課
    - 庶務係：博物館の庶務、連絡調査、施設の管理運営
    - 計画管理係：施設の管理運営、渉外
  - 学芸課 — 主査：博物館資料の収集・保存・展示・調査研究

埋蔵文化財課の構成

課長：折尾　學
主席文化財主事：塩屋勝利
第一係長：横山邦継
主任文化財主事：井澤洋一、飛高憲雄、濱石哲也、山崎龍雄
係員：（文化財主事）杉山富雄、荒牧宏之、加藤良彦、常松幹雄、池田祐司、長家　伸、榎本義嗣、屋山　洋、中村啓太郎
（事務）中山昭則、吉田麻由美、寺崎（入江）幸男
第二係長：山崎純男
主任文化財主事：山口譲治、松村道博
係員：（文化財主事）大庭康時、下村　智、佐藤一郎、宮井善郎、菅波正人、白井克也、加藤隆也

Ⅰ　開発事前審査

本市において、土木工事など各種開発にかかわる埋蔵文化財の事前審査は、昭和52年度から同57年度までの６年間にわたって実施した分布調査の成果（福岡市文化財分布地図）と、昨年度までの発掘調査および試掘調査の成果をもとにして行なっている。

文化財分布地図は、市役所各開発部局および関係公社・公団などに配布し、事業計画策定段階での活用をお願いしている。また、民間の各種開発関係、不動産取引関係者などには埋蔵文化財課窓口での分布地図閲覧や各種の相談にのっている。その際に文化財保護法の主旨および手続きなどの説明をするとともに、文化財保護についての協力をお願いしている。

1）　平成５(1993)年度の概要

平成５年度中に埋蔵文化財課に提出された公共および民間開発事業に伴う事前調査の申請(『埋蔵文化財事前審査願い』および『事業計画書』）は、下表に示すように公共事業751件、民間開発事業511件の計1,262件であった。また、事前審査窓口に備え付けた『文化財分布地図』の閲覧および相談は1,536件と、昨年度より63件減少しているが、大形開発予定の相談件数が多くなっている。

事業別割合では、公共事業が昨年比３％、民間事業が８％増加している。区別にみていくと西・博多・東・早良区が200件を越え、中央区が43件、城南区が70件と少なく、博多区は58％が民間事業と多いほかは公共事業が多く、西区は75％を公共事業が占めている。民間事業は、昨年度と同じく那珂川・御笠川に挟まれた地域の開発が主体となっており、早良区・東区の開発も増加しつつある。公共事業は、幹線道路建設など1995年開催予定のユニバーシアードに関連する事業が主体を占めている。

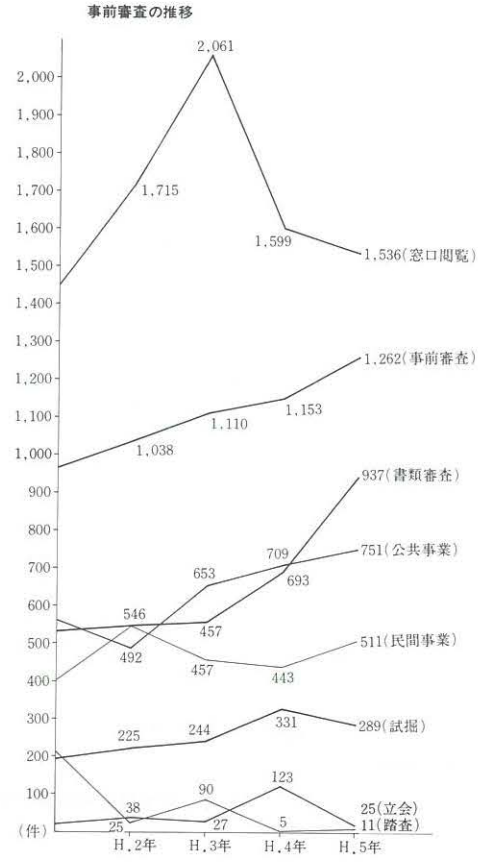
事業審査の内訳は、総件数の74％が書類による審査（要試掘となっており、試掘を実施していないもの、以前の試掘実施地を含む）と多く、試掘調査が23％で、立会・踏査と続く。また、試掘調査は昨年より13％減少している。

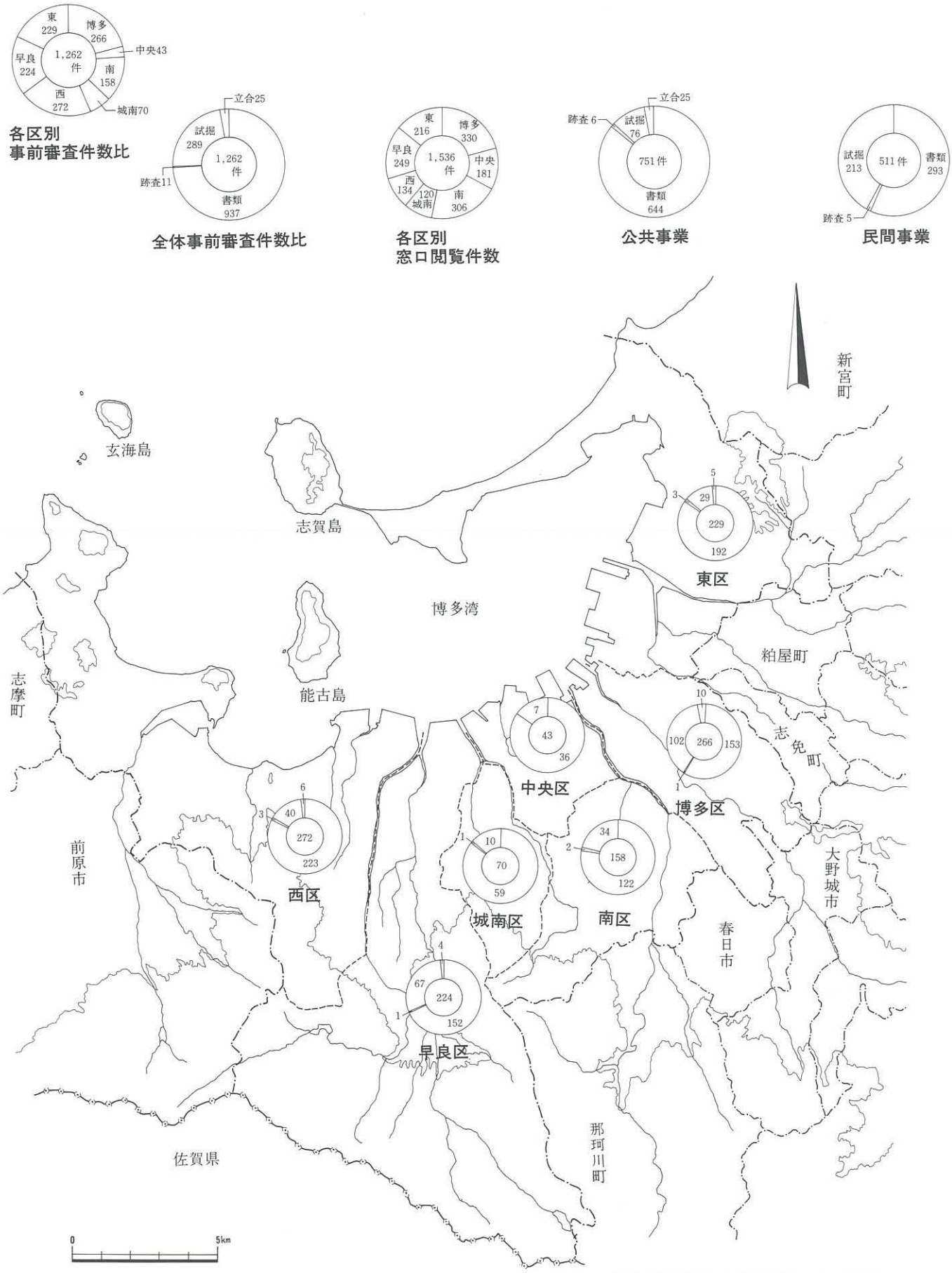
開発事前審査件数の推移　（件）

	H.1年	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年
民　間	404	546	457	443	511
公　共	560	492	653	709	751
計	964	1,038	1,110	1,152	1,262

事前審査の内訳　（件）

	H.1年	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年
書　類	534	546	457	693	927
踏　査	213	25	90	5	11
試　掘	195	225	244	331	300
立　会	22	38	27	123	25





平成５年度開発事業事前審査状況

各区の円内訳は、図上円グラフと一致する。

試掘調査一覧

ここに掲載する試掘調査は、平成５年度（1993年４月１日～1994年３月31日）に行なったものである。

東区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積(m²)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見（調査番号）	審査番号
1		和白一丁目1453-1	19930519	共同住宅	991.73	無		29塩浜	遺構・遺物なし	5-2-41
2		香椎二丁目814-3	19930526	共同住宅	1,246	無		17浜男	沖積地遺物なし	5-2-6
3		名子三丁目787-1外	19930510	公園	1,722	無		7八田	埋没谷遺物なし	5-1-83
4		松田三丁目686-1	19930513	公園	1,400	無		20津屋本町	旧河川遺物なし	5-1-84
5	（多々良大牟田）	八田	19930521	下水道		無		18松崎	削平を受けている	5-1-724
6		和白東一丁目1400-1外	19930601	分譲共同住宅	8,535.66	無		29塩浜	遺構・遺物なし	5-2-18
7	箱崎	箱崎三丁目2370	19930602	店舗兼住宅	208.26	有	工事立会	34箱崎	中世集落	5-2-92
8		大字蒲田字川崎910-1外	19930603	事務所兼倉庫	6,230	無		2蒲田	遺構・遺物なし	5-2-7
9		大字蒲田字別府ノ浦1334-1・3	19930618	老人ホーム	7,133.09	無		1森江山	遺構・遺物なし	5-2-112
10		青葉二丁目185-1外	19930630	店舗	4,558	無		18松崎	遺構・遺物なし	4-2-439
11		香住ケ丘一丁目8-1	19930602	体育館改築	1,295.37	無		16唐ノ原	削平をうけている	5-1-711
12		和白三丁目28	19930611	公民館建替	941.81	無		29塩浜	遺構・遺物なし	5-1-722
13		馬出三丁目1-1	19930722	九州大学施設	1,000	無		48千代・博多	遺構・遺物なし	5-1-32
14		西戸崎	19930730～19930731	道路	36,000	無		56奈多外海 57海の中道	遺構・遺物なし	5-1-130
15		青葉六丁目890-2外3筆	19930909	職員寮	1,217	無		7八田	遺構・遺物なし	5-2-177
16	永浦	大字三苫字平原及び三苫五丁目外	19930916	区画整理	139,438.92	有	発掘調査	27三苫北部	(9362)	5-2-185
17		三苫六丁目7-26	19931019	個人専用住宅	451.05	無		28三苫	遺構・遺物なし	5-2-159

18		青葉二丁目164-3外3筆	19931026	戸建住宅	2,630.07	無		18松崎	遺構・遺物なし	5-2-250
19	(名島城址)	名島四丁目2612-1外3	19931130	共同住宅	1,195.87	無		32名島	削平を受けている	5-2-311
20	蒲田部木原	大字蒲田542-1外22筆	19931130	倉庫	10,519	有	発掘調査	2蒲田	本調査時期協議中	5-2-321
21		下原一丁目692-2	19931110	消防局施設	93	無		16唐原	遺構・遺物なし	5-1-579
22		水谷一丁目2751外	19931119	財務支局施設	2,672	無		18松崎	干潟	5-1-4
23		西戸崎地内	19931221	子供の広場	0.4ha	無		68西戸崎北部	削平を受けている	6-1-7
24		西戸崎地内	19940114	海の中道海浜公園	1ha	無		78大岳	遺構・遺物なし	6-1-8
25		香椎三丁目883-1の一部, 884-1の一部	19940215	戸建住宅	1,198.80	無		17浜男	遺構なし	5-2-412
26		和白一丁目1465-1	19940218	分譲共同住宅	998	無		29塩浜	遺構・遺物なし	5-2-418
27		大字勝馬	19940210 ～ 19940218	圃場整備	3.2ha	無		96勝馬	削平を受けている	6-1-548
28		名島四丁目外	19940216 ～ 19940228	香椎区画整理	66.3ha	無			削平を受けている	5-1-42
29		箱崎3361-3外	19940308	店舗付住宅	217.87	無		34箱崎	近世以降の集落あり	5-2-256
30		松島一丁目4-4	19940203	共同利用施設	735	無		34箱崎	氾濫原	5-1-745

博多区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
	名称	所在地		種別	面積(㎡)					
1	(文珠谷古墳群)	大字立花寺589-1	19930401		1,387	無		11金隈	削平を受けている	4-2-424
2	比恵	博多駅南四丁目6-23	19930406	仮設建物	4,020	有	工事立会	37東光寺	包含層あり	4-2-414
3		板付七丁目3-3	19930406	戸建住宅	532			24板付		4-2-441

4	比恵甕棺	山王二丁目55-1	19930406	店舗	445	有	慎重工事	37東光寺	弥生時代包含層あり	4-2-422
5		大字金隈字石釜481-1	19930414	倉庫兼事務所	2,346.21	無		11金隈	遺構・遺物なし	4-2-430
6		井相田三丁目10-19・25,16-23	19930420	共同住宅	159.24			12麦野		4-2-420
7		西春町二丁目1	19930427	事務所	291.43	無		13雑餉隈	沖積地、遺物なし	4-2-355
8	比恵	博多駅南六丁目13-19	19930427	個人専用住宅	613.8	有	慎重工事	37東光寺	弥生時代包含層あり	5-2-13
9	博多	冷泉町237-1	19930427	個人専用住宅兼商業ビル	137.03	有	発掘調査	49天神	(9323)	5-2-20
10		大井二丁目	19930430	下水道		無		21下臼井	中世水田の可能性あり	4-1-710
11		那珂三丁目210	19930512	事務所	606	無		24板付	沖積地、遺物なし	5-2-44
12		麦野四丁目27-14	19930518・19930811	共同住宅	862.61	無		12麦野	谷部、遺物なし	5-2-2
13	那珂	竹下五丁目432-2	19930520	共同住宅	635.31	有	発掘調査	38塩原	(9347)	4-2-419
14	那珂	竹下五丁目112-2	19930521	事務所	391.16	有	発掘調査	38塩原	(9315)	5-2-75
15		山王一丁目1-31	19930521	事務所	297.9	無		37東光寺	台地周縁遺構なし	5-2-59
16	麦野A	麦野一丁目27-3,27-5	19930521	個人専用住宅兼事務所	228.32	有	発掘調査	12麦野	(9316)	5-2-60
17	博多	下呉服町475～477	19930526	事務所	552.55	有	慎重工事	48千代・博多	近世後半期の遺構あり	5-2-17
18	天神森	大字下月隈501-1外	19931125	公園	3,000	有	発掘調査	10下月隈	(9352)	5-1-721
19	雀居	雀居空港内	19920607～19930528	空港西側整備		有	発掘調査		(9319)	5-1-68
20		大字金隈	19930514	道路		無		11金隈	遺構・遺物なし	3-1-160
21		博多駅南三丁目13～17	19930602	店舗	893.14	無		36博多駅	旧河川内遺物なし	5-2-90
22		麦野六丁目17-9・10	19930608	共同住宅	1,762.85	無		12麦野	旧河川内遺物なし	5-2-46
23	立花寺B	大字上月隈字田中911	19930610	ガソリンスタンド	1,582	有	慎重工事	11金隈	古墳時代～古代の旧河川	5-2-42
24	席田青木	青木一丁目328-1外	19930604	戸建住宅	2,997.74	有	発掘調査	22上臼井	(9304)	5-2-48

25		諸岡二丁目1-5・6	19930617	事務所	419.25	無		24板付	削平を受けている	5-2-111
26	比　恵	博多駅南四丁目49	19930628	遊戯場兼スーパーマーケット	7,632.9	有	発掘調査	37東光寺	(9329)	5-2-91
27		竹下五丁目152・153	19930622	共同住宅	206.54	無		38塩原	旧河川内遺物なし	5-2-12
28		吉塚本町297,298-1・2,300	19930622		1,211.76	無		35吉塚	遺構・遺物なし	5-2-11
29	北ノ浦	東平尾一丁目71-9,95-1	19930623	集合住宅兼レストラン	9,687	有	古墳1基、現状保存	22上臼井	古墳1基のほかは、遺構・遺物なし	5-2-39
30		大字金隈字小津500～502-1	19930629	事務所兼倉庫	384.31	有	工事立会	11金隈	柱穴あり(時期不明)	5-2-117
31		大字金隈字小津551-1	19930630	社屋	1,502	無		11金隈	遺構なし	5-2-98
32	東那珂	東那珂一丁目423	19930624	共同住宅	4,150.42	有	発掘調査	23雀居	(9343)	5-1-727
33	(麦野B)	三筑二丁目6-4外	19930706	事務所	1,706.88	無		12麦野	削平を受けている	5-2-125
34	雑餉隈	西春町一丁目1-27	19930706	社屋兼個人専用住宅	559.18	有	発掘調査	13雑餉隈	(9324)	5-2-78
35	比　恵	博多駅南五丁目61	19930708	事務所	1,183	有	慎重工事	37東光寺	大地際、谷部は弥生～古墳時代包含層あり	5-2-139
36	笹　原	諸岡六丁目8-1,9-1	19930713	共同住宅	1,792	有	慎重工事	25井尻	古代集落	5-2-102
37		博多駅南五丁目52-2	19930714	事務所	1,086.95	無		37東光寺	旧河川内遺物なし	5-2-157
38	那　珂	那珂一丁目829	19930720	個人専用住宅兼事務所	235.91	有	発掘調査	37東光寺	(9333)	5-2-133
39	諸岡B	諸岡一丁目	19930716	諸岡4号公園	675	有	慎重工事	24板付	近世水田あり	5-1-92
40	東那珂	東那珂三丁目	19930701～19930716	道路拡幅		有	発掘調査	23雀居	(9406)	5-1-131
41		南八幡町一丁目34-1・4	19930803	個人専用住宅	238.32	無		25井尻	遺構・遺物なし	5-2-149
42		南八幡町二丁目66外	19930803	共同住宅	6,099.3	無		25井尻	遺構・遺物なし	5-2-135
43	博　多	奈良屋町4-15	19930805	事務所	206	有	工事立会	48千代・博多	中世末～近世都市	5-2-132
44	板　付	板付五丁目3-26,4,5外	19930811	共同住宅	320	有	慎重工事	24板付	弥生時代集落	5-2-123
45	比恵甕棺	山王二丁目37外	19930811	事務所	1,200	有	工事立会	37東光寺	弥生時代集落	5-2-172

46	比　　恵	博多駅南五丁目69	19930811	共同住宅	389.61	有	慎重工事	37東光寺	弥生～古墳時代集落	5-2-173
47	比　　恵	博多駅南五丁目68-3	19930811	個人専用住宅	53.22	有	慎重工事	37東光寺	弥生～古墳時代集落	5-2-174
48	席田青木	青木一丁目297・298	19930818	宅地造成	879	有	慎重工事	22上臼井	中世包含層あり	5-2-182
49	那　　珂	那珂一丁目988	19930824		628.07	有	慎重工事	23雀居	中世集落	5-2-190
50		竹下二丁目481外	19930831	倉庫	3,867.99	無		37東光寺	旧河川、遺物なし	5-2-200
51		諸岡五丁目266外	19930722 ～ 19930825	諸岡団地	2,205	無		25井尻	遺物なし	5-1-154
52	比　　恵	博多駅南五丁目139	19930818 ～ 19930827	共同住宅	2,809	有	発掘調査	37東光寺	(9361)	5-1-773
53	板　　付	板付一丁目	19930828 ～ 19940427	高木下月隈線	7,900	有	発掘調査	24板付	(9424)	5-1-734
54	雑飼隈	西春町一丁目18	19930928	個人専用住宅	238.11	有	発掘調査	13雑餉隈	(9349)	5-2-207
55	雑飼隈	新和町二丁目13	19930928	個人専用住宅兼事務所	140.1	有	発掘調査	13雑餉隈	(9367)	5-2-213
56	雑飼隈	昭南町二丁目3-10	19930929		85.49	有	慎重工事	13雑餉隈	古墳時代集落	5-2-248
57		博多駅前一丁目418～422	19931005	ホテル	873.96	無		36博多駅	遺構・遺物なし	4-2-423
58	博　　多	古門戸町	19931006	事務所	168	有	慎重工事	48千代・博多	元寇防塁か	5-2-262
59	高　　畑	板付五丁目8-4	19931013	分譲共同住宅	1,289	有	発掘調査	24板付	(9368)	5-2-269
60		上牟田一丁目166・167	19931019		304	無		36博多駅	遺構・遺物なし	5-2-224
61		榎田二丁目4-4・5・8	19931019	事務所兼倉庫	2,270.51	無		22上臼井	遺構・遺物なし	5-2-259
62	那　　珂	那珂六丁目290外、竹下五丁目412外	19931020	共同住宅	5,541.44	有	発掘調査	38塩原	(9437)	5-2-275
63		空港内	19930705 ～ 19931008	空港西側整備	31ha	無		23雀居	遺構・遺物なし	5-1-18
64	天神森	下月隈地内	19931028 ～	道路	15,330	有	発掘調査	10下月隈	(9413)	5-1-39

			19940205					23雀居		
65	那　珂	那珂二丁目54	19931115	個人専用住宅	487.05	有	慎重工事	24板付	弥生～古墳時代集落	5-2-258
66	那　珂	那珂一丁目8-122	19931124	社宅	888.75	有	慎重工事	37東光寺	弥生時代集落	5-2-294
67		須崎町五丁目10	19931119	店舗付共同住宅	331.93	無		49天神	近世以降の集落あり	5-2-231
68	雑　餉　隈	新和町一丁目	19931111	市営住宅改良	6,400	有	発掘調査	13雑餉隈	(9407)	5-1-50
69		金隈地内	19931129 ～ 19931206	共同溝	36,000	無		11金隈・12麦野 23雀居・24板付	遺構・遺物なし	6-1-563
70	比　恵	博多駅南三丁目4-11	19931207	倉庫	392	有	慎重工事	37東光寺	弥生時代包含層	5-2-279
71		諸岡一丁目1-8	19931207	事務所	160.97	無		24板付	遺構・遺物なし	5-2-322
72	影　ケ　浦	大字金隈548-1	19931210	倉庫	953.03	無		11金隈	水田あり(時期不明)	5-2-343
73		麦野三丁目9-5	19931214	倉庫	1,811	無		12麦野	遺構なし	5-2-333
74	立　花　寺	大字立花寺字上の園694-3～5	19931214		711.71	有	発掘調査	11金隈	(9357)	5-2-349
75	那　珂	那珂一丁目45-15	19931214	店舗	508.67	有	慎重工事	37東光寺	弥生時代～中世集落	5-2-350
76	板　付	板付五丁目7-118	19931222	個人専用住宅	205.98	有	慎重工事	24板付	弥生時代～古代集落	5-2-368
77		大字下月隈字小浦302外	19931209	麻薬犬訓練センター	5,999	無		10下月隈	遺構・遺物なし	6-1-513
78		堅粕(九大病院内)	19931216	施設増設	470	無		34箱崎	遺構・遺物なし	6-1-23
79		板付七丁目2-1	19940119	診療所兼住宅	1,089	無		24板付	遺構・遺物なし	5-2-374
80	博　多	祇園町13,16,185	19940119	事務所ビル	479.10	有	発掘調査	49天神	(9436)	4-2-29
81	那　珂	竹下五丁目172	19940120	専用住宅	156.15	有	慎重工事	38塩原	弥生時代～古墳時代集落	5-2-391
82	麦　野　C	麦野六丁目10-4	19940202	賃貸住宅	299.30	有	慎重工事	12麦野	弥生時代～古代集落	5-2-419
83		大字上月隈字田中917,918,979	19940202	事務所等	1,506	無		11金隈	氾濫原、遺物なし	5-2-394
84	那　珂	那珂二丁目100-1	19940202	賃貸共同住宅	712.12	有	発掘調査	24板付	(9414)	5-2-389
85	博　多	御供町311,312,313-1,	19940208	共同住宅	355.62	有	発掘調査	49天神	(9444)	5-2-345

		314-1,317-1								
86	比　　恵	博多駅南六丁目7-27	19940208	銀行店舗	1,609.82	有	発掘調査	37東光寺	(9415)	5-2-381
87		榎田一丁目13-1	19940208	給油所	540.84	無		35吉塚	遺構・遺物なし	5-2-331
88		東那珂二丁目地内	19940217	竹下駅前線	1,490	無		23須崎	水田か(時期不明)	6-1-84
89	堅　　粕	千代二丁目163,164	19930727 ～ 19940225	賃貸住宅	1,591.90	有	発掘調査	35吉塚	(9419)	5-1-731
90	麦　野　B	南本町二丁目3	19940214	地域拠点施設	5,744.18	有	発掘調査	12麦野	遺構あり、平成8年度再試掘	5-1-746
91		西月隈三丁目,下月隈	19931022 ～ 19940225	高木下月隈駅	11,900	有		10下月隈 23雀居	(9404)	5-1-734
92	比　　恵	博多駅南六丁目6-33	19940301		1,157	有	発掘調査	37東光寺	弥生時代～古墳時代集落、要協議	5-2-354
93		三筑二丁目6-41・42	19940301	駐車場	444.05	無		12麦野	遺構・遺物なし	5-2-451
94		竹下一丁目226-1	19940308		880.77	無		38塩原	旧河川、遺物なし	5-2-396
95	板　　付	板付五丁目7-35	19940316	個人専用住宅	212.34	有	慎重工事	24板付	弥生時代集落	5-2-344
96	井相田 A	井相田三丁目11-9の一部	19940316	共同住宅	1,321	有	工事立会	12麦野	中世水田あり	5-2-415
97		板付二丁目1-76	19940316	共同住宅	1,129	無		24板付	旧河川、遺物なし	5-2-478
98		祇園町781,782,599-1,564	19940323	ビル	2,448	無		49天神	旧河川、遺物なし	5-2-454
99	博　　多	店屋町37	19940323	ビル	790.27	有	発掘調査	49天神	(9433)	5-2-477
100	三筑生産	三筑一丁目5-6・36	19940320	分譲共同住宅	2,075	有	工事立会	25井尻	古墳時代～中世水田	5-2-506
101		板付二丁目6-10・30	19940329			無		24板付	氾濫原、遺物なし	5-2-414
102	麦　野　A	麦野一丁目27-1・2	19940329 ～ 19940406	ビル	1,006.70	有	発掘調査	12麦野	(9412)	5-2-204
103	下月隈 C	上月隈	19940317 ～ 19940401	エアフロントオアシス	18,000	有	発掘調査	11金隈	調査時期協議中	5-1-748

中央区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積(m²)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1		唐人町三丁目75-1	19930513	公園	525	無		71西新	遺構・遺物なし	5-1-95
2		天神一丁目	19930408 ～ 19940203	再開発	1.2ha	無		49天神	遺構・遺物なし	5-1-19
3		荒戸三丁目	19930624	市民福祉プラザ	3,563.81	無		60舞鶴	遺構・遺物なし	5-1-726
4	福岡城跡	赤坂一丁目102-2	19930831	変電所	1,383.3	有	発掘調査	60舞鶴	(9416)調査後保存	5-2-164
5		大濠二丁目69～71	19930831	個人専用住宅	926.32	無		71西新	濠内、近世遺物あり	5-2-176
6		荒戸三丁目	19931202	千鳥橋唐人町線	2,500	無		60舞鶴	遺構・遺物なし	6-1-71
7		赤坂三丁目428-1,429～431,434	19940118	共同住宅	1,007.42	無		61六本松	削平を受けている	5-2-382

城南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積(m²)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1	飯倉F	梅林三丁目93-1	19930624	個人専用住宅	990	有	慎重工事	74七隈	弥生～古墳時代集落	4-2-332
2		神松寺二丁目1113-14外	19930713	分譲共同住宅	1,429.11	無		63長尾	遺構・遺物なし	5-2-141
3		東油山	19930724 ～ 19930728	道路	7,000	無		64東油山	埋没谷、遺物なし	5-1-128
4	飯倉D	七隈三丁目844～847	19930812	共同住宅	7,212.86	有	発掘調査	73茶山	(9360)	4-2-374
5	飯倉B	七隈一丁目1272,1273-1・4・6	19931006	分譲共同住宅	1,988	有	工事立会	73茶山	弥生～古墳時代包含層あり	5-2-212
6		樋井川三丁目490-1・3	19931124	共同住宅	1,750.44	無		63長尾	氾濫原	5-2-288
7	クエゾノ	梅林七丁目172-1	19931124	個人専用住宅	502	有	慎重工事	75西油山	古墳時代～古代集落	5-2-312

8	カルメル修道院	神松寺三丁目1616-2外	19931224	共同住宅	14,686.77	有	発掘調査	74七隈	(9410)	5-2-146
9		別府六・七丁目,茶山二丁目	19931203 ～ 19931208		6,300	無	道路	73茶山	遺構・遺物なし	5-1-122
10		樋井川二丁目730-3	19940106	専用住宅	153.73	無		63長尾	削平を受けている	5-2-376

南　区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積(m²)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1		野間二丁目	19930413	道路改良	12,000	無		38塩原	遺構・遺物なし	4-1-232
2	野多目A	野多目一丁目15-3外	19930511	分譲共同住宅	10,094.94	有	発掘調査	40老司	(調査時期協議中)	4-2-314
3		弥永四丁目12-2外	19930518	倉庫	267.84	無		41警弥郷	沖積地、遺物なし	5-2-19
4	警弥郷A	弥永五丁目18-1	19930526	分譲共同住宅	993	有	工事立会	41警弥郷	弥生時代水田か	5-2-14
5		横手三丁目160,163-1	19930527	個人専用住宅兼診療所	818.39	無		25井尻	横手遺跡縁辺か	4-2-416
6		野多目六丁目,屋形原三丁目	19930525	郵便局	5,541.82	無		53屋形原	遺構・遺物なし	5-1-725
7	警弥郷A	弥永五丁目19-1・2	19930603	共同住宅	1,615	有	慎重工事	41警弥郷	古墳時代水田か	5-2-24
8		大橋四丁目585-3	19930608	共同住宅	683.46	無		39三宅	沖積地遺物なし	5-2-52
9		弥永三丁目10-8-4・9	19930617	共同住宅	549.1	無		41警弥郷	遺構・遺物なし	5-2-65
10		高木二丁目350-10	19930617	個人専用住宅	180.30	無		38塩原	遺構・遺物なし	5-2-110
11		和田一丁目52-1	19930629	共同住宅	2,684	無		39三宅	旧河川あり、遺物なし	5-2-68
12		屋形原二丁目23-1	19930702	花畑小学校体育館	930.72	無		53屋形原	遺構・遺物なし	5-1-668
13	樋井川B	檜原一丁目595-1	19930824	共同住宅	2,105	有	慎重工事	64東油山	古墳時代～古代集落	5-2-152
14	寺島	横手南町17-1	19930825	共同住宅	202.21	有	慎重工事	25井尻	弥生時代集落	5-2-175
15		老司一丁目157	19931005	共同住宅	2,277	無		40老司	旧河川,遺物なし	5-2-230

16	井　尻　B	井尻一丁目308-4	19931006	賃貸共同住宅	562.31	有	慎重工事	25井尻	弥生時代集落	5-2-249
17	警弥郷B	弥永五丁目1-1	19931026	共同住宅	581	有	発掘調査	41警弥郷	(9366)	5-2-280
18		花畑三丁目693-2	19931007	老人いこいの家	159.31	無		53屋形原	旧河川、遺物なし	5-1-73
19		弥永二丁目	19931007	弥永中公園	1,000	無		41警弥郷	旧河川、遺物なし	5-1-98
20		向新町地内	19931002	道路	11,000	無		40老司	氾濫原、遺物なし	6-1-196
21	井　尻　B	井尻一丁目754-7	19931108	共同住宅	161.27	有	慎重工事	25井尻	弥生～古墳時代集落	5-2-304
22		井尻二丁目267-1の一部 268-1の一部	19931109	共同住宅	1,453	無		25井尻	遺構・遺物なし	5-2-208
23	(寺島)	横手南54-2	19931111	集合住宅	502.72	無		25井尻	遺跡縁辺部	5-2-211
24	警弥郷B	弥永四丁目15-9・37	19931201		684.31	有	慎重工事	41警弥郷	古墳時代水田	5-2-291
26		野多目一丁目534	19931207	賃貸共同住宅	1,167.04	無		39三宅	遺構なし	5-2-298
27		野多目四丁目783-11,786の一部 784-1の一部	19931207	個人専用住宅	1,326.85	無		40老司	遺構・遺物なし	5-2-327
28	井　尻　A	高木二丁目350-2	19931210	共同住宅	221.18	有	慎重工事	38塩原	弥生～古墳時代水田	5-2-305
29		花畑一丁目34,106	19931202	保育園	555	無		53屋形原	遺構・遺物なし	5-1-740
30		三宅二丁目地内	19931216	道路拡幅		無		39三宅	遺構・遺物なし	6-1-50
31	那　珂	五十川一丁目6-14	19940120		873.62	有	慎重工事	38塩原	弥生～古墳時代集落か	5-2-303
32	三　宅　B	三宅二丁目893-1・4	19940202	共同住宅	270	有	慎重工事	39三宅	古代集落	5-2-76
33	井　尻　B	井尻五丁目171-3	19940308	医院	171	有	発掘調査	25井尻	(9408)	5-2-455
34		野間二丁目	19940330	塩原野間線	6,400	無		38塩原	遺構・遺物なし	6-1-59
35		井尻三丁目16	19940204	諸岡団地建替	9,500	無		25井尻	谷部、遺物なし	5-1-15 6-1-460

早良区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積(m²)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1	(有田)	小田部三丁目71	19930401	個人専用住宅	249.73	無		82原	削平を受けている	4-2-405
2		大字東入部字長志	19930407	共同住宅	496	有	工事立会	85入部	弥生時代集落	4-2-411
3	有田	有田二丁目24-1	19930420	個人専用住宅	133.96	有	慎重工事	82原	中世包含層あり	5-2-25
4		南庄三丁目103-1	19930422	個人専用住宅	381.08	無		81室見	遺構・遺物なし	5-2-10
5	(藤崎)	高取一丁目612	19930426	個人専用住宅	242.2	無		81室見	遺構・遺物なし	5-2-40
6	藤崎	高取二丁目290	19930426	個人専用住宅	609.64	有	発掘調査	81室見	(9306)	5-2-30
7	(有田)	小田部二丁目89	19930512	共同住宅	634	無		82原	削平を受けている	4-2-426
8		西新五丁目570-2	19930519	事務所	249.76	無		72荒江	遺構・遺物なし	5-2-55
9	野芥	野芥五丁目324-1外	19930527		282.09	有	工事立会	84重留	古代集落か	5-2-64
10		大字脇山字野中	19930510	公民館	868.96	無		早良18西	埋没谷、遺物なし	5-1-720
11		野芥五丁目356-1	19930602	共同住宅	1,279.13	無		84重留	遺構・遺物なし	4-2-437
12		高取二丁目265	19930610	個人専用住宅	133.71	無		81室見	遺構・遺物なし	4-2-432
13		田村四丁目	19930603	田村団地	3,873	無		84重留	旧河川、遺物なし	5-1-645
14	次郎丸	次郎丸四丁目外	19930614	道路拡幅	4,000	有	発掘調査	83野芥 92戸切	(9339)	5-1-117
15		高取一丁目558	19930706	共同住宅	362.68	無		72荒江	遺構・遺物なし	5-2-126
16	熊本	東入部一丁目1676-1,1677外	19930708	共同住宅	1,819.29	有	慎重工事	85入部	弥生～古墳時代の集落	4-2-428
17	有田	小田部五丁目61	19930610 ・ 19930720	共同住宅	1,822.31	有	発掘調査	82原	(9332)	4-2-315
18	(有田)	小田部三丁目14-5	19930728	個人専用住宅	244.21	無		82原	削平を受けている	5-2-162
19		祖原14-17	19930724	法務局施設	1,257.96	無		72荒江	遺構・遺物なし	4-1-105

20	野中	脇山2525-1外	19930729	脇山中央公園	20,000	有	保存	早良18西	古代～中世集落	4-1-132
21	熊本	東入部一丁目1667外	19930805	宅地造成	2,328.52	有	発掘調査	85入部	(9351)	5-2-150
22		高取二丁目329-8,330	19930805	個人専用住宅	96.13	無		81室見	遺構・遺物なし	5-2-138
23	(有田)	小田部一丁目57-1	19930817	個人専用住宅	348.58	無		82原	削平を受けている	5-2-122
24	原東	飯倉四丁目527-16	19930824	個人専用住宅	195.63	有	慎重工事	82原	弥生時代包含層	5-2-191
25		背振山頂	19930617 ～ 19930804	航空自衛隊施設	3,000	有	保存	早良9苦笑	江戸時代国境石あり	5-1-729
26		原五丁目	19930818	道路拡幅	1,500	無		82原	旧河川、遺物なし	5-1-118
27	有田	小田部二丁目194,195	19930901	個人専用住宅兼共同住宅	287.59	有	発掘調査	82原	(9340)	5-2-186
28	有田	小田部一丁目276,277	19930909	個人専用住宅	377	有	慎重工事	82原	弥生時代～中世集落	5-2-188
29	野芥大藪	賀茂二丁目124-2・4,126-1・7	19930909	個人専用住宅	537.2	有	慎重工事	83野芥	古墳時代集落	5-2-215
30	有田	有田一丁目21-1	19930922	個人専用住宅	263.78	有	慎重工事	82原	弥生～古墳時代集落	5-2-227
31		大字東入部316-1,318-1・2, 321,320-1	19930922	特別養護老人ホーム	3,000	無		85入部	削平を受けている	4-2-294
32	原	原八丁目1162-1の一部	19930922	共同住宅	2,840.66	有	慎重工事	82原	古墳時代～中世集落	5-2-245
33		田地内	19930909	道路改良	750	無		83野芥	遺構なし	5-1-157
34		原六丁目1181-1	19931027	共同住宅	2,285.49	無		82原	遺構・遺物なし	5-2-257
35	野中	大字脇山	19931015	脇山中央公園	243ha	有	慎重工事	早良18西	古墳時代～古代集落	4-1-132
36		大字四箇字五反田642-2の一部 644-1の一部 644-5の一部	19931101	個人専用住宅	1,474	無		93都地	旧河川、付設遺構なし	5-2-272
37		有田六丁目469の一部,469-3, 471-5	19931102	共同住宅	1,773.17	無		82原	遺構・遺物なし	5-2-281

38	四　　箇	重留七丁目1071-1の一部, 1072-1の一部	19931110	共同住宅	2,746.28	有	慎重工事	84重留	古墳時代集落	5-2-34
39	(飯　倉　A)	飯倉二丁目7-8	19931110	共同住宅	2,908.57	無		73茶山	削平を受けている	5-2-278
40		荒江一丁目324外	19931115	分譲共同住宅	1,169.1	無		72荒江	遺構・遺物なし	5-2-315
41		四箇地内	19931105	道路	200	無		84重留	氾濫原、遺物なし	5-1-738
42	田　　村	田村地内	19931109	道路	1,406	有	発掘調査	83野芥	(9358)	5-1-53
43	四　　箇	四箇	19931109	道路	2,000	有	発掘調査	84重留	平成6年度調査予定	6-1-127
44	有　　田	小田部二丁目55	19931201	専用住宅	752.37	有	慎重工事	82原	弥生～古墳時代集落	5-2-318
45	藤　　崎	百道一丁目807-9,845-2	19931201	共同住宅	440.05	有	発掘調査	81室見	(9356)	5-2-205
46	免	賀茂三丁目401-1	19931215	共同住宅	1,445	有	慎重工事	83野芥	古墳時代の水利遺構あり	5-2-334
47		田隈二丁目663-1の一部	19931215	店舗付住宅	555.36	無		83野芥	遺構・遺物なし	5-2-348
48		高取一丁目586	19931215		87.47	無		72荒江	遺構・遺物なし	5-2-353
49	有　　田	有田二丁目8-5	19931215	個人専用住宅	283	有	慎重工事	82原	弥生～古墳時代集落	5-2-361
50	重留村下	重留地内	19931217	道路		有	発掘調査	84重留	(9403)	6-1-45
51	野芥大藪	野芥二丁目919-3,920-7・10	19940111	店舗	627.71	有	工事立会	83野芥	古墳時代集落	5-2-371
52		百道一丁目807-163	19940111	診療所	221.2	無		81室見	遺構・遺物なし	5-2-373
53	西　新　町	西新五丁目643-4外5筆	19940119	共同住宅	1,041.26	有	発掘調査	72荒江	(9364)	5-2-392
54		内野六丁目138-1,139の一部, 203-1,204	19940124	個人専用住宅	6,100.4	無		早良17内野	遺構・遺物なし	5-2-306
55		内野	19940118	道路改良	700	無		早良17内野	遺構・遺物なし	5-1-159
56	古　　田	重留五丁目	19940120	重留中央公園	20,528	有	発掘調査	85入部	(9428)	5-1-102 6-1-156
57		西新七丁目707-2・14	19940201	賃貸共同住宅	515.17	無		72荒江	遺構・遺物なし	5-2-401

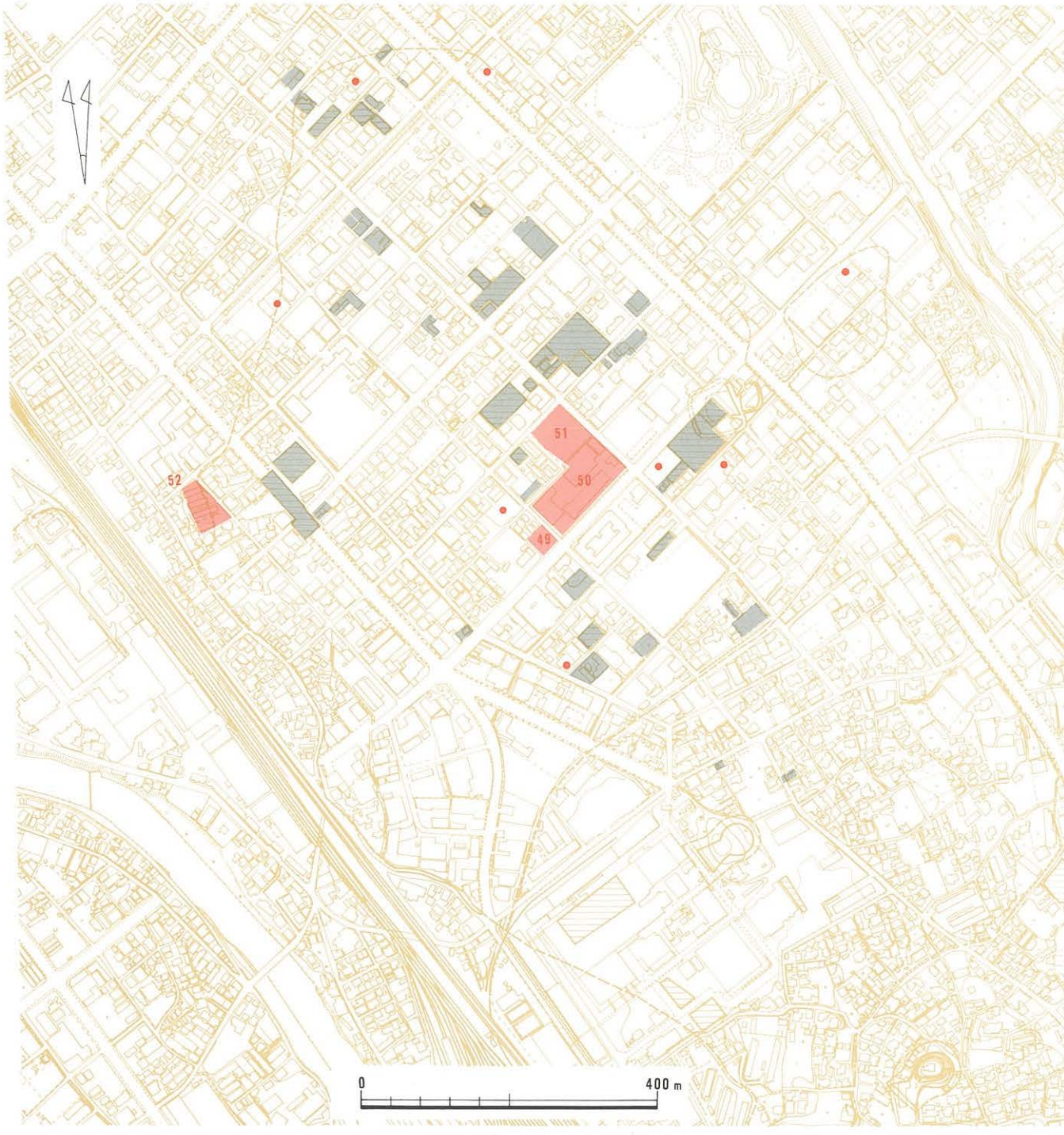
58		田村四丁目70-1	19940201	貸店舗	1,948.63	無		84重留	遺構・遺物なし	5-2-367
59		賀茂三丁目396-3,397-3	19940201	共同住宅	825	無		83野芥	遺物なし	5-2-163
60	四　　箇	重留七丁目1068-1	19940209	宅地造成	2,761	有	発掘調査	84重留	(9409)	5-2-384 5-2-448
61	有　　田	小田部五丁目160,161,163,164	19940216	個人専用住宅	1,244	有	発掘調査	82原	(9401)	5-2-263
62		西	19940224	道路側溝	60	無		早良18西	遺構・遺物なし	5-1-188
63	藤　　崎	高取二丁目41,47	19940303	共同住宅	246.31	有	発掘調査	81室見	(9405)	5-2-395
64		大字金武字亀丸14-1外	19940315	事務所他	9,584.99	無		94金武	氾濫原、遺物なし	5-2-407
65	西　新　町	西新五丁目564外6筆	19940303	店舗付共同住宅	1,953.08	有	発掘調査	72荒江	平成6年度調査予定	5-2-453
66	藤　　崎	藤崎一丁目21-46-1・2	19940323		2,330	有	発掘調査	81室見	調査時期協議中	5-2-462
67	四　箇　東	重留七丁目1067-1の一部	19940331	共同住宅	1,970	無		84重留	水田あり(時期不明)	5-2-340
68		田隈三丁目43	19940315	西脇納骨堂増築	67	無		83野芥	氾濫原、遺物なし	5-1-751

西　区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積(m²)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見(調査番号)	審査番号
1	(野方久保)	野方二丁目464-1	19930414	共同住宅	437.67	無		91橋本	削平を受けている	4-2-408
2	大　原　C	今津～太郎丸	19930129 ～ 19930408	道路		有	発掘調査	128大原 129桑原	(9346)	5-1-25
3	(元寇防塁)	小戸二丁目～三丁目	19930414 ～ 19930415	道路	12,755	無		89姪浜	元寇防塁削平か	5-1-36
4		周船寺一丁目401-17,405-9	19930420	店舗	2,242.58	無		120周船寺	氾濫原、遺物なし	5-2-9
5	堀　ノ　内	今宿青木竹の内378-2外	19930421	特別養護老人ホーム	6,072.25	有	発掘調査	113青木	(9365)	4-2-407

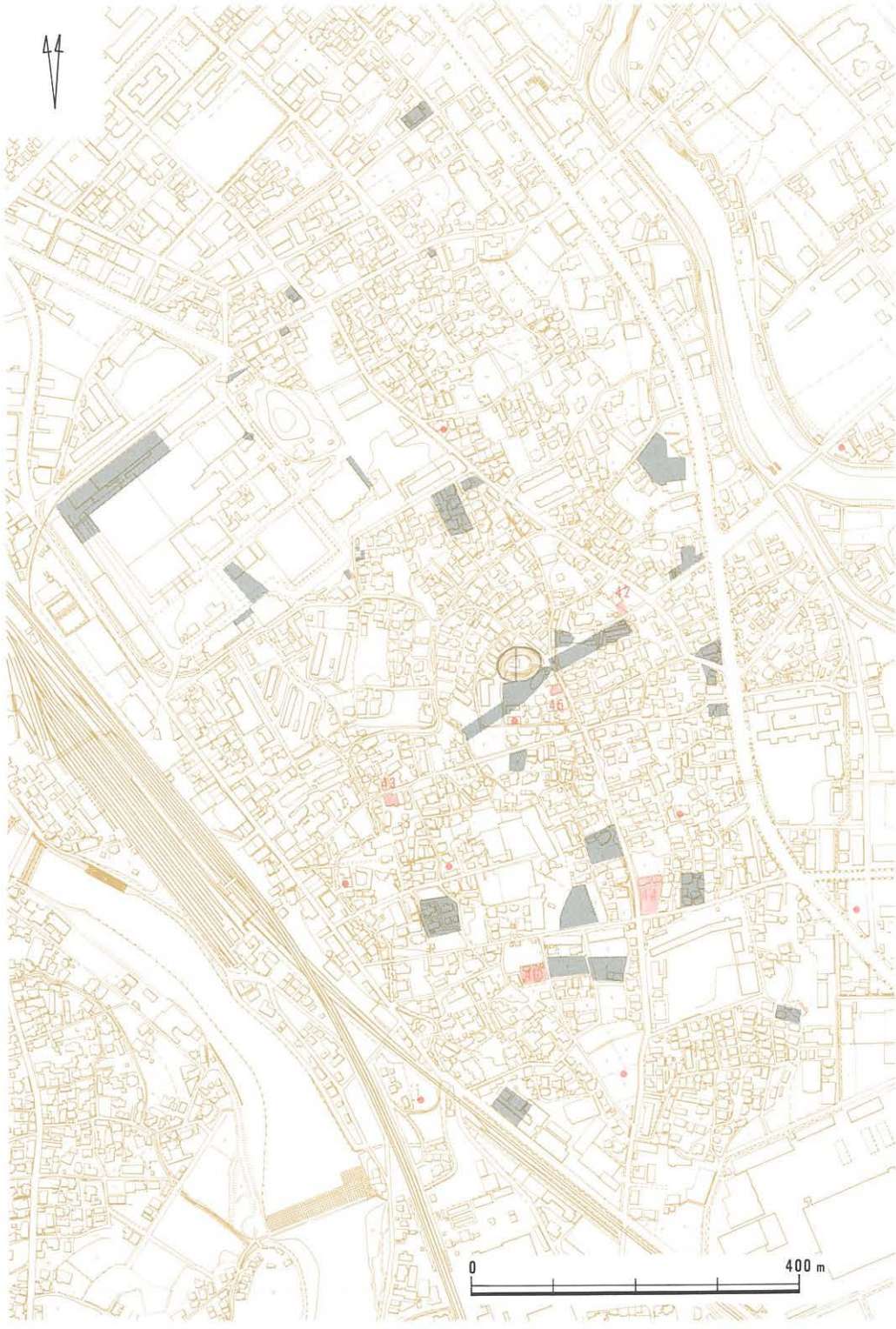
6		拾六町二丁目238-1外11筆	19930426	倉庫兼事務所	7,786.81			91橋本		4-2-436
7		大字千里字ミドリ429-1	19930520	分譲住宅	810	無		132千里	沖積地、遺物なし	5-2-51
8	羽根戸	大字羽根戸	19930513	下水道			工事立会	92戸切	面的に広げれば遺構ありか	5-1-449
9	都地	大字金武2028-1	19930514	講堂兼体育館	1,200	有	発掘調査	93都地	(9311)	5-1-670
10	今宿	横浜・今宿	19930604	水道管埋設	923	有	工事立会	111横浜 112今宿	(9336)	5-1-728
11		野方一丁目275-1・2の一部	19930707	戸建住宅	1,376	無		91橋本	遺構・遺物なし	5-2-129
12		野方五丁目1022-1・3,1023-1	19930707	共同住宅	1,732.37	無		105叶岳	旧河川、遺物なし	5-2-67
13		拾六町二丁目343-1の一部	19930707	事務所兼倉庫	402.73	無		91橋本	時期不明の水田面あり	5-2-142
14		野方五丁目527-1	19930728	宅地造成	1,963.19	無		104拾六町	旧河川、遺物なし	5-2-154
15		下山門四丁目15-1	19930702	下山門小学校	930.72	無		90石丸	遺構・遺物なし	5-1-695
16		大字拾六町字小町61-1,62-2	19930805	遊技場	3,370.79	無		90石丸		5-2-158
17		拾六町五丁目地内	19930803	道路改良	800	無		104拾六町	削平を受けている	5-1-514
18		今宿東一丁目44,45,46-16	19930901	共同住宅	2,340.96	無		112今宿	旧河川、遺物なし	4-2-238
19		野方二丁目385-4,387-1～4	19930901	宅地造成	3,106.30	無		105叶岳	遺構・遺物なし	5-2-179
20		戸切二丁目1285-1の一部	19930901	倉庫	976.04	無		92戸切	遺構・遺物なし	5-2-161
21		大字羽根戸字太田411-4, 字馬渡413-5	19930914	事務所	331.80	無		92戸切 93都地	旧河川、遺物なし	5-2-219
22	野方岩名隈	野方七丁目834-1外	19930929	共同住宅	2,137.42	有	工事立会	104拾六町	弥生～古墳時代包含層あり	5-2-254
23		横浜二丁目地内	19930902			無		119今山	遺物なし	5-1-477
24		大字千里字庄ノ坪463-1	19931015	倉庫兼 個人専用住宅	383.40	無		132千里	遺構・遺物なし	5-2-265
25	周船寺	大字千里字シビナ444-1・6 445-6・7,446-12	19931102	共同住宅	1,967.65	有	慎重工事	132千里	弥生時代集落、墓地	5-2-143
26		周船寺二丁目483-1,483-3の一部	19931112	共同住宅	1,262.66	無		120周船寺	旧河川、遺物なし	5-2-261

		967-4・5外							(ただし、西側は中世水田か)	
27		大字元岡字柚木2741-4	19931112	事務所・工場	998.86	無		140元岡	埋没谷、遺物なし	5-2-283
28		拾六町	19931105	拾六町団地	6,000	無		104拾六町	遺構・遺物なし	5-1-46
29	今津海底	今津地内	19931111	自転車道休憩所	645	有		118今津	中世包含層あり	5-1-735
30		拾六町二丁目387,388-1・2, 389,390-1・2・4	19931201		3,767.05	無		91牟多田	遺構・遺物なし	5-2-130
31	徳永A・丸隈山古墳	大字今宿町字大塚336-2外	19931216	鉄塔	3,960	有	発掘調査	120周船寺	(9354・9355)	5-2-247
32	女原	大字女原字笠掛99-1	19931216	住宅	543.6	無		120周船寺	試掘面積が狭く遺構未検出	5-2-336
33	千里中原	大字飯氏字都ケ浦238,242-1 243-1,244-1	19940112	老人保健施設	5,380	有	工事立会	121飯氏	弥生時代包含層あり	5-2-319
34		能古(大泊)	19940111	道路	720	無		99能古北部	遺構・遺物なし	3-1-115
35		小戸五丁目1752-126	19940120		2,938	無		89姪浜	潟、遺構・遺物なし	5-1-744
36		今津大字庄の尻	19940127	水産センター	29,868.78	無		110浜崎	遺構なし	5-1-736
37	野方久保	野方一丁目514	19940203	共同住宅	290.45	有	慎重工事	91橋本	弥生時代～中世集落	5-2-400
38		拾六町二丁目363-1の一部	19940209	倉庫付事務所	128.46	無		91橋本	遺構・遺物なし	5-2-420
39	牟多田	拾六町二丁目344-1	19940216	貸倉庫付事務所	2,230.15	無		91橋本	水田あり(時期不明)	5-2-425
40		野方404-3	19940303	個人専用住宅	331.23	無		92戸切	遺構・遺物なし	5-2-289
41		下山門三丁目430-1	19940331	共同住宅	2,369.77	無		90石丸	遺構・遺物なし	5-2-480
42		姪浜二、三丁目地内	19940309	道路拡幅		無		89姪浜	遺構・遺物なし	6-1-85 6-1-86



博多区比恵遺跡　平成５(1993)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点　■は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
■既発掘調査地点

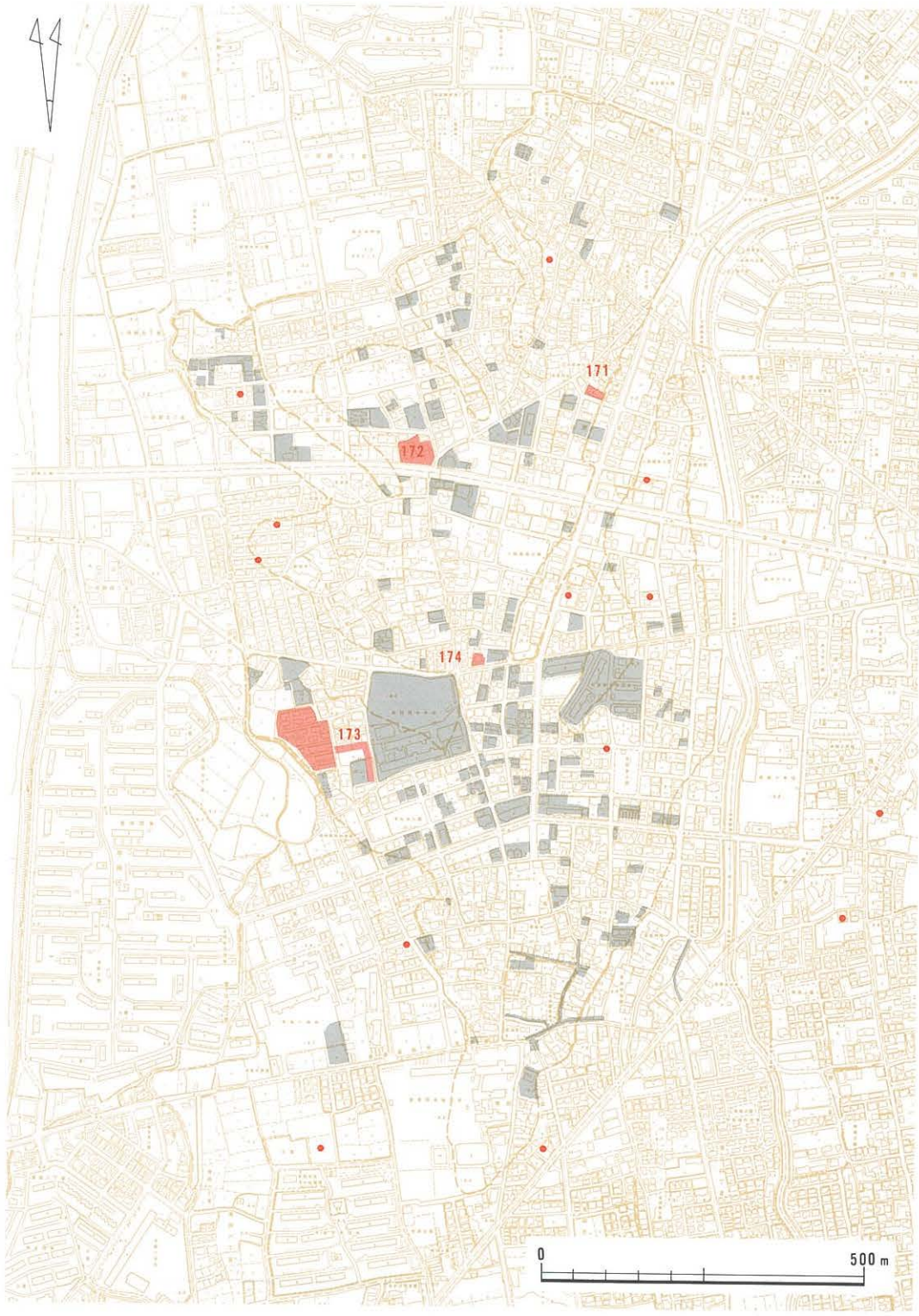
博多区博多遺跡　平成５（1993）年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点　□は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧に一致）
□既発掘調査地点



博多区那珂遺跡　平成５（1993）年度試掘・発掘調査地点一覧

●は試掘調査地点　□は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧に一致）

■既発掘調査地点



早良区有田遺跡　平成５(1993)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点　　は発掘調査地点(番号は発掘調査地点に一致)
　　既発掘調査地点

II　発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を本課第１係、東部地域（中央区、博多区、東区、南区）を同第２係が担当している。なお、年度の調査量の多少により係間で随時調査業務の補完を行なっている。

また、本市では調査資料の保管・管理のため、個々の遺跡の発掘調査に固有の遺跡登録番号・調査番号をつけて登録し、数字・アルファベットで調査資料を検索するシステムを採用している。以下の概要記述で調査番号とするものはこの番号であり、西暦年（上２桁）＋調査番号（下２桁）の４桁数字で表示する。さらに調査番号は、調査開始のときに設定するため１遺跡の調査が複数年度にまたがる場合、開始年度のみに番号が登録される。

１）　平成５(1993)年度の概要

平成５年度実施した発掘調査は、下表の72件と、前年度からの継続調査２件の計74件である。調査件数では、博多・早良両区の調査がそれぞれ30％を越え、城南区が１件のみである。次に事業別でみていくと、民間事業では、共同住宅建設・商業ビル建設・個人専用住宅兼事務所建設が多く、公共事業では道路建設・改良・拡幅が公共事業の42％を占めている。調査実施面積でみていくと、500㎡未満のものが35件と多く、3,000㎡を越えるものは11件と少なくなっている。

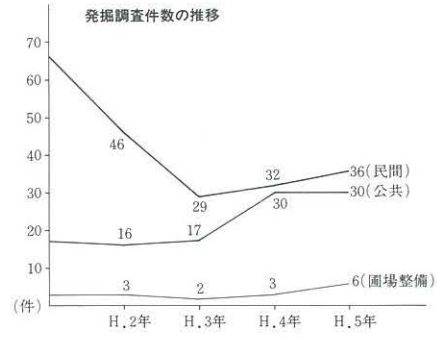
発掘調査は、恒久性の高い構築物（道路・公共施設など）、各時代の遺構破壊の恐れがある場合（ＲＣ造りの構築物・削平・造成工事など）、学術的価値が多く、将来史跡指定等保存処置が必要な時などを対象としている。なお、博多遺跡群など重層的に文化層が所在し、ＧＬ下４～５mにおよび地下室の建設がないおおむね200㎡以下のＲＣ造りの建物については、地中梁を遺構面より上げてもらうなど設計変更をお願いし、遺跡破壊を最少限にとどめ、将来の調査に託する例もある。

平成５年度は、東那珂遺跡の新しい遺跡の所在がわかったほか、東入部・比恵遺跡では弥生時代中期の大規模な集落が検出され、雀居遺跡では弥生時代後期の大形建物をもつ環濠集落が発見された。また、雀居遺跡では、弥生時代後期の木製短甲・組合せ式案など優美な工芸品の出土があった。

発掘調査件数の推移

（件）

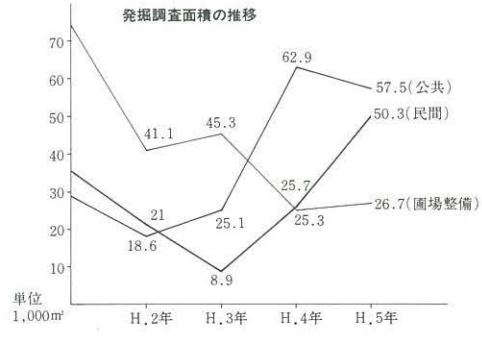
	H.1年	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年
民　間	66	46	29	32	36
圃場整備	3	3	2	3	6
公　共	17	16	17	30	30
計	86	65	48	65	72



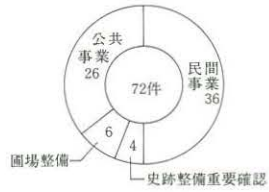
発掘調査面積の推移

（件）

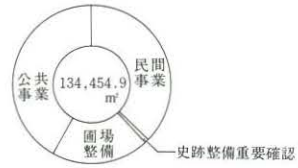
	H.1年	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年
民　間	35,054	21,000	8,923	25,694.5	50,259.6
圃場整備	73,790	41,132	45,285	25,332.0	26,678.0
公　共	29,650	18,609	25,048	62,943.0	57,517.3
計	138,494	80,741	79,256	113,969.5	134,454.9



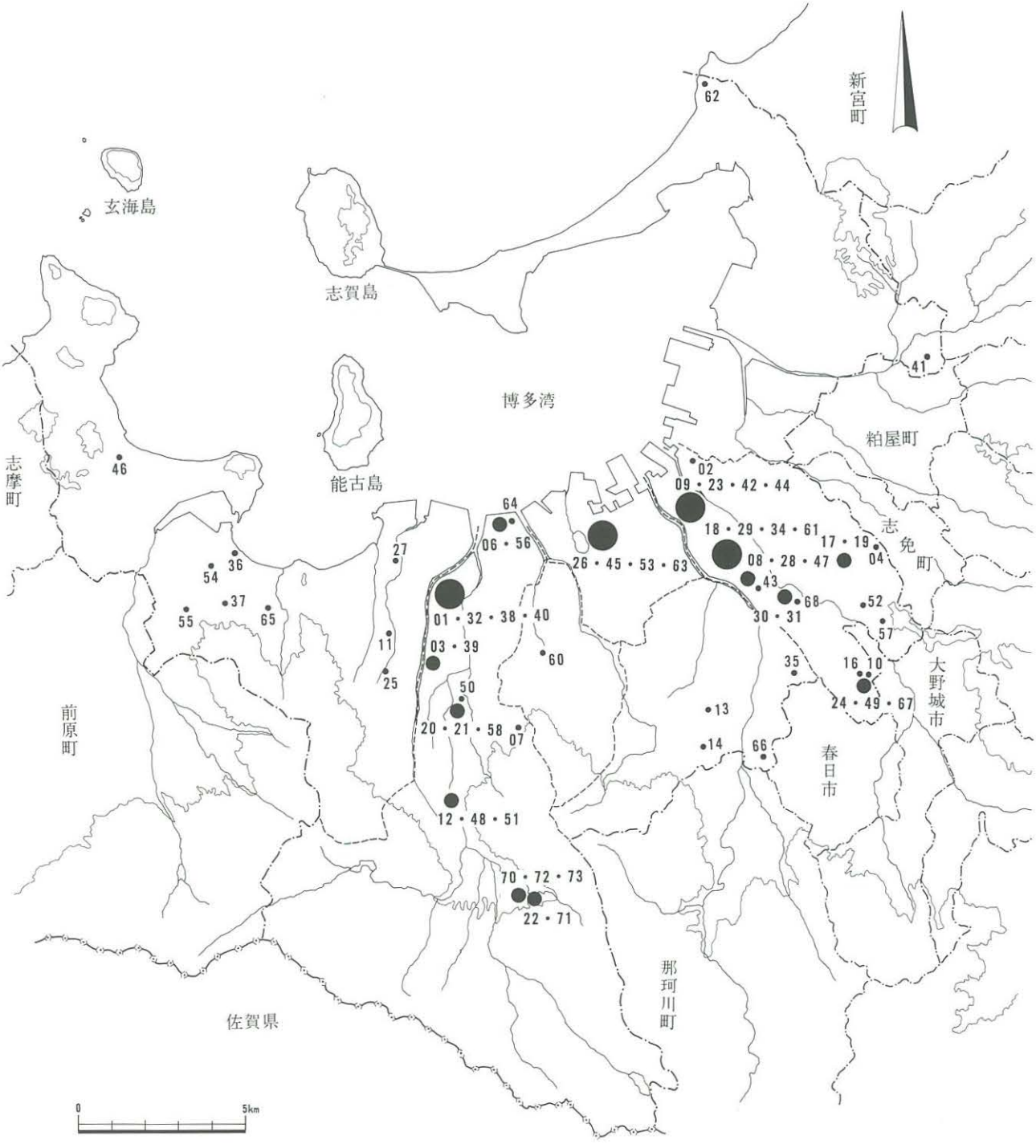
各区別調査件数



事業別調査件数



事業別調査面積比



平成 5 年度発掘調査状況と調査地点の位置　　調査地点の番号は発掘調査一覧25～26ページと一致する。

平成５(1993)年度埋蔵文化財発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	遺跡略号	調査原因	調査種類	原因者	調査地所在地	対象面積(m²)	調査面積(m²)	調査面積 古墳	調査期間	担当者	分布地図番号
9301	有田遺跡群	171	ＡＲＴ	診療所及び自宅建設	補・民受	瀬知敬一	早良区小田部一丁目104･517	447	191		930404～930414	小林義彦	原82-A-1
9302	吉塚本町遺跡群	4	ＹＳＨ	道路建設	令達	土木局街路課	博多区吉塚本町130-2	1,193	786		930415～930526	吉留秀敏	寺塚35-A-5
9303	次郎丸遺跡群	2	ＪＲＭ	道路建設	公受	九州地方建設局	早良区次郎丸四丁目386-1外	1,926	1,600		930419～930726	山崎龍雄	戸切92-A-13
9304	席田青木遺跡群	2	ＭＡＫ	共同住宅建設	民受	盛立建設株式会社	博多区青木一丁目314外	8,472	4,580		930510～930805	白井、松村	上臼井22-A-2
9305	地蔵松原防塁	1	ＧＫＢ	仮設鉄道建設	令達	土木局箱崎連立開発課	東区箱崎六丁目3575-12	410	50		930513～930531	井澤、吉武	箱崎34-F-1
9306	藤崎遺跡群	24	ＦＵＡ	専用住宅建設	補	重松孝子	早良区高取二丁目290	609	228		930517～930531	杉山富雄	室見81-A-1
9307	野芥大藪遺跡	1	ＮＫＯ	道路建設	公受	九州地方建設局	早良区賀茂二丁目134外	10,993	8,030		930518～940331	山崎龍雄	野芥83-A-9
9308	那珂遺跡群	42	ＮＡＫ	削平工事	民受	波多江忠雄	博多区那珂一丁目476	396	63.4		930522～930531	下村　智	東光寺37-A-3
9309	博多遺跡群	80	ＨＫＴ	ビル建設	令達	経済振興局観光課	博多区冷泉町304-1	854	854		930520～940331	吉武　学	天神49-A-1
9310	持田ヶ浦古墳群Ｄ群	2	MTK-D	老人ホーム建設	民受	株式会社　新陽	博多区大字金隈字持田ヶ浦212-5外	4,866	4,886	4	930524～930730	宮井善朗	麦野12-A-10
9311	都地遺跡群	5	ＴＺＩ	学校施設建設	令達	教育委員会施設課	西区大字金武2028-1	1,200	1,700		930524～930630	屋山　洋	都地93-A-16
9312	東入部遺跡群	7	ＨＧＩ	圃場整備	令・補	農水局土木農林課	早良区東入部地内	70,000	17,000		930501～940228	浜石、榎本	入部85-A-9
9313	和田Ｂ遺跡群	1	ＷＡＢ	団地建設	公受	住宅供給公社	南区野多目三丁目地内	67,500	13,500		930517～940114	佐藤、吉留	三宅39-A-8
9314	太平寺遺跡群	1	ＴＨＧ	共同住宅兼自宅建設	補・民受	樗木弘行	南区太平寺二丁目327外	1,261	1,261		930601～930820	佐藤一郎	屋形原53-A-2
9315	那珂遺跡群	43	ＮＡＫ	倉庫建設	民受	八尋正利	博多区竹下五丁目112-2	132	132		930607～930608	山口、菅波他	東光寺37-A-3
9316	麦野Ａ遺跡群	3	ＭＧＡ	事務所兼自宅建設	補・民受	武内善朗	博多区麦野一丁目27-3･5	134	134		930616～930624	山口、菅波他	麦野12-A-2
9317	雀居遺跡群	5	ＳＡＳ	空港整備	公受	防衛施設庁	博多区雀居地内	1,850	3,350		930615～940131	松村、宮井、白井	雀居23-A-4他
9318	比恵遺跡群	49	ＨＩＥ	共同住宅	民受	日下部新蔵	博多区博多駅南五丁目53-1	793	464		930624～930805	杉山富雄	東光寺37-A-1
9319	雀居遺跡群	6	ＳＡＳ	空港整備	公受	運輸省第四港湾建設局	博多区雀居地内	6,000	6,300		930615～940228	松村、宮井、白井	雀居23-A-4他
9320	田村遺跡群	15	ＴＭＲ	団地建設	令達	建築局住宅計画課	早良区大字田地内	1,500	740		930617～930731	常松幹雄	重留84-A-1
9321	田村遺跡群	16	TMR	老人いこいの家	令達	民生局高齢者福祉課	早良区大字田741	80	80		930628～930629	常松幹雄	重留84-A-1
9322	小笠木遺跡群	2	ＯＫ	詳細分布調査	補	教育委員会	早良区大字小笠木地内		848		931018～931026	榎本義嗣	早良10
9323	博多遺跡群	81	ＨＫＴ	事務所兼自宅建設	補・民受	岩吉　斎	博多区冷泉町237-1	137	137		930701～930819	山崎、山口、菅波	天神49-A-1
9324	雑餉隈遺跡群	2	ＺＳＫ	社屋及び共同住宅	補・民受	関　道房	博多区西春町一丁目1-27	559	345		930719～930806	山崎、山口、菅波	雑餉隈13-A-2
9325	野方中原遺跡群	3	ＮＫＮ	下水道建設	公受	下水道局西部建設課	西区野方七丁目地内	-	60		930713～930806	荒牧宏行	叶岳105-A-1
9326	福岡城跡	22	ＦＵＥ	範囲確認	市単・補	教育委員会	中央区城内1-4	450	450		930816～940228	田中、瀧本	舞鶴60-E-2
9327	橋本一丁田遺跡	2	ＨＩＴ	道路建設	公受	九州地方建設局	西区福重地内	11,500	9,178		930624～940331	中村、池田	橋本91-A-9
9328	那珂遺跡群	44	ＮＡＫ	共同住宅建設	民受	川邊重之	博多区那珂二丁目122-1･2,123	821	821		930824～931031	佐藤一郎	塩原38-A-3
9329	比恵遺跡群	50	ＨＩＥ	商業ビル建設	民受	キングオブラッキー	博多区博多駅南四丁目49	3,700	4,662		930809～940428	下村　智	東光寺37-A-1
9330	板付遺跡	64	ＩＴＺ	遺構確認調査	市単	教育委員会	博多区板付五丁目2-15	150	100		930501～930530	力武卓治	板付24-A-8
9331	板付遺跡	65	ＩＴＺ	遺構確認調査	市単	教育委員会	博多区板付五丁目7-68	1,000	500		930601～930815	力武卓治	板付24-A-8
9332	有田遺跡群	172	ＡＲＴ	共同住宅建設	民受	上村建設株式会社	早良区小田部五丁目61	1,822	717		930823～931016	杉山富雄	原82-A-1
9333	那珂遺跡群	45	ＮＡＫ	事務所兼自宅建設	補・民受	山口道雄	博多区那珂一丁目829	200	162.5		930823～930826	白井克也	東光寺37-A-3

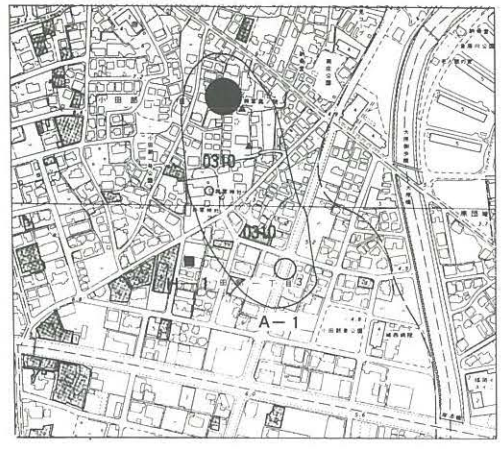
9334	比恵遺跡群	51	HIE	バス発着所	民 受	西日本鉄道株式会社	博多区博多駅南四丁目86	1,401	1,401	930906～940309	白井克也	東光寺37-A-1
9335	井尻B遺跡群	4	IZB	共同住宅建設	民 受	長澤サトシ	南区井尻一丁目747-1	378	390	930906～931014	山口、菅波	井尻25-A-3
9336	今宿遺跡群	4	IMJ	水道建設	令 達	水道局施設課	西区今宿地内	-	185	930603～930604	長家 伸	今宿112横浜111
9337	女原上ノ谷製鉄址	1	MBU	土取り	補	藤原 勲	西区女原字浅鹿谷378-2	2,165	220	930906～930918	池田祐司	飯氏121-C-2
9338	有田遺跡群	173	ART	構内道路	令 達	建築局住宅改良課	早良区小田部三丁目189-1,198	288	280	930916～931020	荒牧宏行	原82-A-1
9339	次郎丸遺跡群	3	JRM	道路拡幅	令 達	土木局西南部街路課	早良区次郎丸四丁目地内	1,100	560	930921～931121	中村啓太郎	戸切092-A-13
9340	有田遺跡群	174	ART	共同住宅建設	補・民 受	山内テル子	早良区小田部二丁目194・195	287	143	931007～931023	杉山富雄	原82-A-1
9341	蒲田部木原遺跡	3	KHH	資材置場造成	民 受	福原喜久松	東区大字蒲田字部木原397外	2,000	2,900	931107～940531	大庭康時	蒲田2-A-1
9342	博多遺跡群	82	HKT	商業ビル建設	民 受	第一法規株式会社	博多区下呉服町357-1外	368	355	931018～931222	宮井善朗	千代博多48-A-1
9343	東那珂遺跡群	1	ENK	共同住宅建設	公 受	住宅都市整備公団	博多区東那珂1-423	4,105	2,400	931015～940315	吉留、吉武	雀居23-A-5
9344	博多遺跡群	83	HKT	商業ビル建設	民 受	東邦生命保険	博多区奈良屋町27-1外	1,316	1,021	931101～941001	杉山富雄	千代博多48-A-1
9345	福岡城跡	23	FUE	公園建設	令 達	都市整備局公園計画課	中央区赤坂二丁目270-7	507	220.3	931213～940228	井澤洋一	六本松61-A-1
9346	大原C遺跡群	1	OHC	搬入道路	令 達	環境局施設課	西区今津3750-1外	14,400	1,700	931028～940124	荒牧宏行	大原128-A-3
9347	那珂遺跡群	46	NAK	共同住宅建設	民 受	川辺弘明	博多区竹下5丁目432-2	635	250	931101～931206	加藤隆也	塩原38-A-3
9348	東入部遺跡群	8	HGI	歩道建設	令 達	土木局道路建設第１課	早良区大字東入部地内	640	218	931109～931126	榎本義嗣	入部85-A-9
9349	雑餉隈遺跡群	3	ZSK	個人住宅建設	補	中川宗敏	博多区西春町一丁目18	238	156	931118～931204	山口、菅波	雑餉隈13-A-2
9350	四箇船石遺跡群	6	SHF	道路建設	令 達	早良区土木農林課	早良区大字東入部1905-1外	1,100	702.5	931101～931208	常松幹雄	入部85-A-2
9351	熊本遺跡群	2	KMM	宅地造成	民 受	kk・エスティアナイ	早良区大字東入部一丁目1667外	2,329	250	931209～940114	常松幹雄	入部85-A-4
9352	天神森遺跡群	2	STM	公園建設	令 達	都市整備局公園建設課	博多区大字下月隈501-1外	3,000	2,880	931208～940313	佐藤一郎	下月隈10-A-4
9353	福岡城跡	24	FUE	本丸トイレ改築	令 達	都市整備局	中央区城内5-2	80	80	931211～931221	田中、瀧本	舞鶴60-E-2
9354	徳永A遺跡群	3	TKU	鉄塔建設	民 受	九州電力kk	西区大字周船寺176-6	100	400	940108～940212	屋山 洋	周船寺120-A-7
9355	丸隈山古墳群	4	MKY	鉄塔建設	民 受	九州電力kk	西区大字周船寺271	100	100	940108～940212	屋山 洋	周船寺120-B-1
9356	藤崎遺跡群	25	FUA	共同住宅建設	民 受	森 茂之	早良区百道一丁目807-9,854-2	200	270	940117～940223	荒牧、中村	室見81-A-1
9357	立花寺遺跡群	3	RGG	専用住宅	補	杉谷 清	博多区大字立花寺上ノ園694-3～5	711	241.7	940124～940326	加藤隆也	金隈11-A-2
9358	田村遺跡群	17	TMR	道路建設	令 達	土木局道路建設第2課	早良区田村四丁目673-7	1,406	372.5	940115～940205	常松幹雄	野芥83-A-3
9359	羽根戸古墳群G・N群	2	HDK-G・N	公園建設	令 達	都市整備局公園建設課	西区大字羽根戸地内	2,500	160	940121～940211	長家 伸	叶岳105-B-12・19
9360	飯倉D遺跡群	1	IKR-D	共同住宅建設	民 受	㈱アーサーホーム	城南区七隈三丁目844～847	7,212	6,800	940202～940423	大谷女子大学	茶山73-A-4
9361	比恵遺跡群	52	HIE	宿舎建設	公 受	国鉄清算事業団	博多区博多駅南五丁目139	2,809	682	940216～940315	宮井善朗	東光寺37-A-1
9362	永浦遺跡群	1	NGU	区画整理	民 受	三苫永浦地区区画整理	東区大字三苫字平原・三苫五丁目美和台新町	14,000		940215～継続中	吉留秀敏	三苫北部27-A-2
9363	福岡城跡	25	FUE	遺跡整備	単	教育委員会	中央区城内18-2	100	65	940301～940328	力武、田中、瀧本	舞鶴60-E-2
9364	西新町遺跡群	6	NSJ	共同住宅	民 受	野村不動産㈱	早良区西新五丁目634-4他	1,041	667	940301～940615	常松幹雄	荒江72-A-1
9365	堀の内遺跡群	2	HRU	老人ホーム	民受・補	大木 實	西区今宿青木竹の内378-2	940	940	940302～940331	荒牧宏行	青木113-A-2
9366	警弥郷B遺跡	3	KYB	共同住宅	民 受	小田英範	南区弥永五丁目1-1	581	300	940303～940331	白井克也	警弥郷41-A-4
9367	雑餉隈遺跡群	4	ZKS	自宅兼事務所	民受・補	ポリマー産業	博多区新和町二丁目13	140	105	940309～940324	山口、菅波	雑餉隈13-A-2
9368	高畑遺跡群	14	TKB	共同住宅	民 受	中村建設㈱	博多区板付五丁目8-4	1,289	566	940314～940331	佐藤一郎	板付24-A-9
9370	脇山B遺跡群	1	WKB	圃場整備事業	令・補		早良区大字脇山地内	1,896	1,895	930713～930807	浜石、榎本	早良10-A-5
9371	志水A遺跡群	1	SMA	圃場整備事業	令・補		早良区大字小笠木地内	4,254	4,254	930809～931002	浜石、榎本	早良10-A-8
9372	脇山遺跡群	8	WK	詳細分布調査	補		早良区大字小笠木地内	1,420	1,420	930416～930430	榎本義嗣	早良11
9373	脇山遺跡群	9	WK	詳細分布調査	補		早良区大字小笠木地内	1,261	1,261	931027～931108	榎本義嗣	早良11

9301　有田遺跡群第171次調査（ART－171）

所　在　地　早良区小田部一丁目104・517
調査原因　医院建設
調査期間　930404～930414
調査面積　191㎡
担　当　者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　有田遺跡は、室見川右岸の有田・小田部台地に拡がる旧石器時代から中近世までの複合遺跡で、台地上には弥生時代の環濠集落跡や古墳時代の大型建物跡などが展開している。

本調査区は、この台地の北東部に位置し、北にむかって八ツ手状にのびる支丘の東側緩斜面上に立地する。調査区は、西から東へ向かって緩やかに傾斜し、東側には谷が貫入している。標高は5.4～5mである。周辺部には第162・163次調査区などがあり、古墳時代～中世の竪穴住居跡や溝などが検出されている。



1．調査地点の位置（原82－A－1）

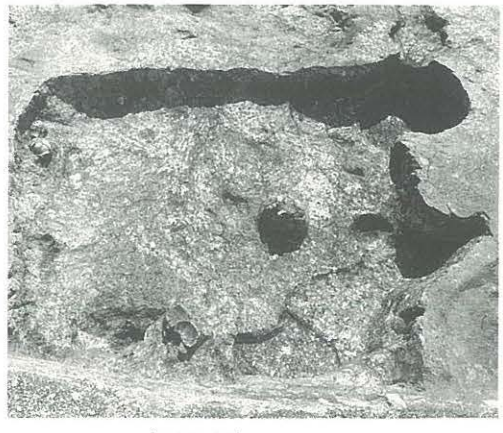
検出遺構　・古墳時代後期：土壙9基、ピット
・古代：焼土壙1基

古墳時代の土壙は、円～方形プランをなす。このうち方形プランのもの（1号土壙）は一辺が3.3～3.5m、深さは35～40cmを測り、壙内からは土師器の甕が出土した。また、円形の焼土壙（2号土壙）は直径が1.8mほどで、中央部が段状に凹む。この土壙の中央部にはスラッグ塊がまとまってあり、鍛冶炉的機能を有する可能性が考えられる。

2．調査区全景（東より）

出土遺物　遺物は、これらの土壙や遺構上面に薄く堆積している遺物包含層から土師器や須恵器の甕など（コンテナ2箱）のほかにスラッグ塊（コンテナ2箱）が出土している。

まとめ　本調査区では、土壙や焼土壙を検出したが、集落を主体的に構成する竪穴住居跡や掘立柱建物跡などは検出されなかった。しかしながら、土壙などの検出で古墳時代～古代にかけての集落域の拡がりを確認することができたことは大きな成果である。本調査区周辺では有田・小田部台地においても調査が希薄で遺構の拡がりが明らかでないところであったが、第162・163次調査の成果と合わせてその様相が次第に明らかになりつつある。


3．SK－01（西より）

9302　吉塚本町遺跡群第４次調査（YSH－４）

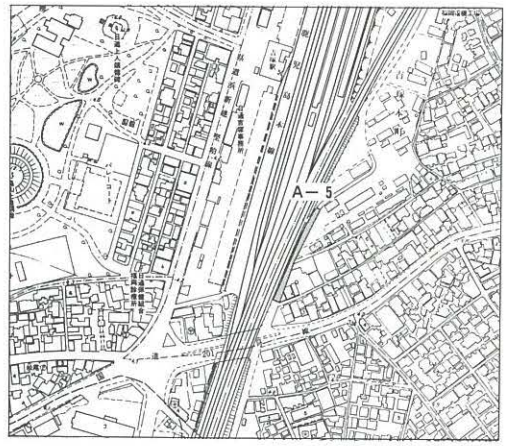
所　在　地　博多区吉塚本町130－２
調査原因　道路建設
調査期間　930415～930526
調査面積　786㎡
担　当　者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

位置・環境　吉塚本町遺跡は御笠川の東岸域に位置する。博多湾に沿っておおよそ南北に発達する新砂丘上に展開する遺跡である。調査地はこれまでの第１、３次調査の地区とJR鹿児島本線との間の道路部分である。既設道路面を除去し、調査を行った。

検出遺構
・弥生時代後期　土壙、包含層
・古墳時代前期　土壙
・古墳時代後期　竪穴状遺構、土壙、柱穴
・奈良時代　土壙
・中　　世　土壙

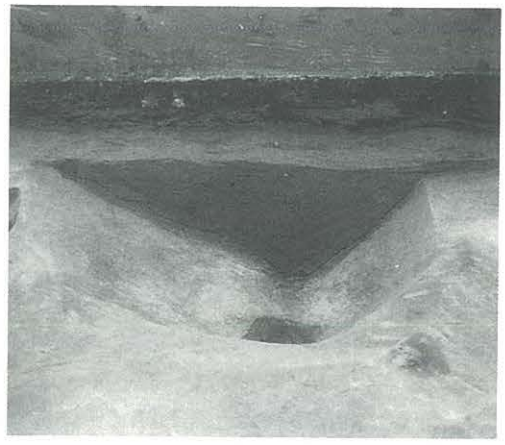
出土遺物　全体でコンテナ４箱。
弥生時代後期：土器類
古墳時代前期：古式土師器類
古墳時代後期：土師器、須恵器類、土錘など
奈良時代：土師器、須恵器、製塩土器、瓦類
中　　世：青磁、白磁類

まとめ　今回の調査は基本的に第１～３次調査の成果を追認するものとなった。遺跡の広がりはこれまでよりさらに西側へ広がる可能性を示したが、これは今後の調査に待ちたい。



1．調査地点の位置（吉塚35－A－５）

2．調査終了時全景（北から）


3．土壙SK－05土層断面（東から）

9303　次郎丸遺跡群第２次調査（JRM－２）

所　在　地　早良区次郎丸四丁目386外
調査原因　道路建設
調査期間　930419～930726
調査面積　1,600m²
担　当　者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　次郎丸遺跡群は室見川の中流域東岸、標高10m前後を測る低位段丘上に立地している。当遺跡の南側には田村遺跡群、北側には有田遺跡群などの著名な遺跡がある。本調査区は従来の次郎丸遺跡群の範囲外の南側に位置している。調査は１m程の客土を重機で除去し、トラックで排土を場外へ搬出したのち、遺構の確認を行なった。遺構面は砂礫およびシルト層である。

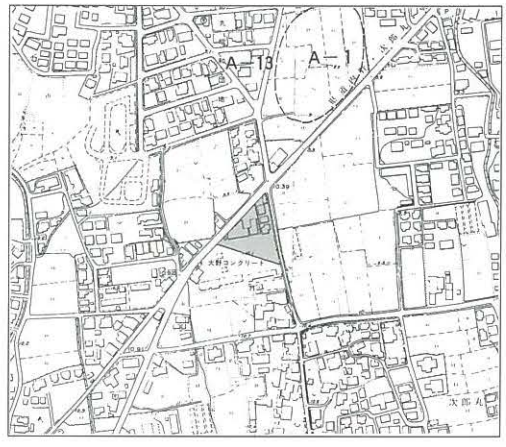
検出遺構　本調査区の西側の第１次調査区では、２面の文化層の調査を実施しているので、今回も２面の調査を実施した。

上面は古代末の集落跡で、ピットや溝、石組井戸、土坑、掘立柱建物７棟などを検出した。

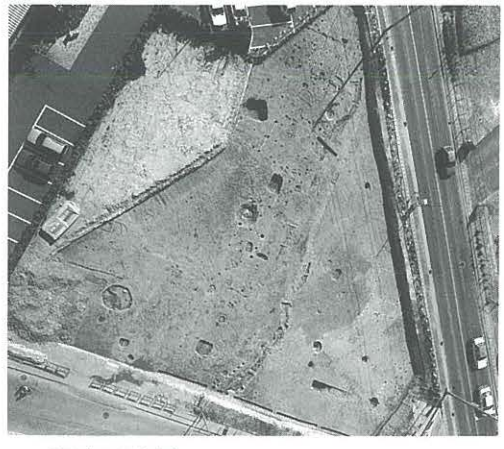
下面は上面で見落としたピットや縄文時代晩期末頃の段落ち状遺構を検出した。

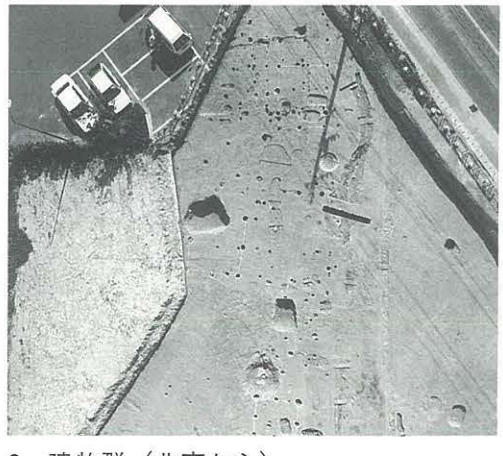
出土遺物　縄文時代晩期から中世にかけての遺物が出土した。総量としてはコンテナ９箱程である。おもな遺物としては、縄文時代晩期の土器や石器、古代末から中世にかけての土師器、須恵器、黒色土器、輸入陶磁器、滑石製石鍋などがある。

まとめ　年度調査の第１次調査区で検出した弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物は、当調査区では確認できなかった。本調査区は該期の集落の範囲から外れているのであろう。古代末から中世初めの集落は建物の主軸が南北・東西にとるものである。２間×３間の身舎に総廂を巡らす建物がある。集落の構成・性格については西側の第１次調査区と南側の第３次調査区の成果と合わせて考える必要がある。



1．調査地点の位置（戸切92－A－13）


2．調査区全景


3．建物群（北東から）

9304　席田青木遺跡群第２次調査（MAK－２）

所　在　地　博多区青木一丁目314
調査原因　住宅建設
調査期間　930510～930805
調査面積　4,580m²
担　当　者　松村道博・白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　月隈丘陵から南に延びる尾根の頂部からその東斜面を経て谷部に亘る地域を調査した。第１次調査の南に連なる位置にある。

検出遺構　尾根の頂部に甕棺墓16基と土壙墓３基、丘陵斜面に土壙墓１基と掘立柱建物跡１棟と溝３条、谷部に掘立柱建物跡２棟、溝１条、土壙墓１基、井戸１基が検出された。

甕棺墓は弥生時代中期に当たり、尾根頂部の土壙墓は甕棺墓より若干遡る時期のものと思われる。

丘陵斜面と谷部の土壙墓は中世のものと思われ、うち１基からは龍泉窯青磁碗１点が出土した。

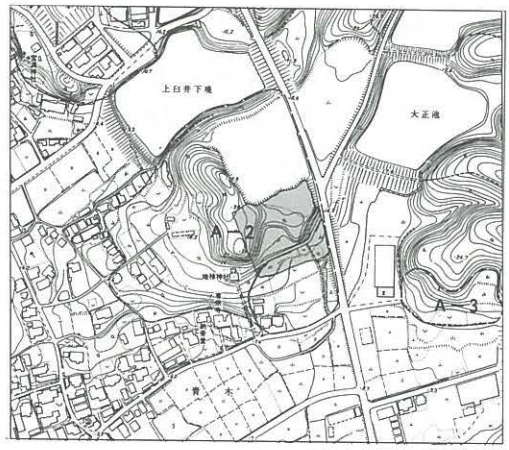
谷部の溝は弥生時代後期、谷部の井戸は中世のものである。

そのほかの遺構は時期不明である。

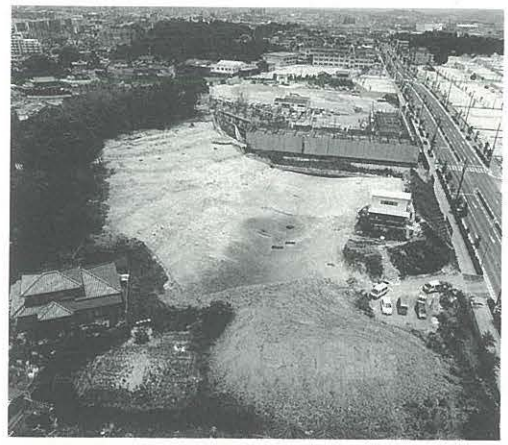
出土遺物　甕棺をはじめとする弥生土器、須恵器、瓦器、陶磁器など、70箱分が出土した。

まとめ　今回の調査で第１次調査の甕棺墓群の広がりを捉えることができた。また、第１次調査でみられた近世墓は、今回の調査地域では確認されなかったが、丘陵斜面に点在する円形の撹乱は、それらを抜き取った痕跡かも知れない。

谷部には、中世の集落が広がっていた可能性がある。



1．調査地点の位置（上臼井22－A－2）


2．調査区全景（南東から）

3．甕棺墓分布状態

9306　藤崎遺跡群第24次調査（FUA－24）

所　在　地　早良区高取二丁目290
調査原因　個人専用住宅建設
調査期間　930517～930531
調査面積　228m²
担　当　者　杉山富雄
処　　置　調査後破壊

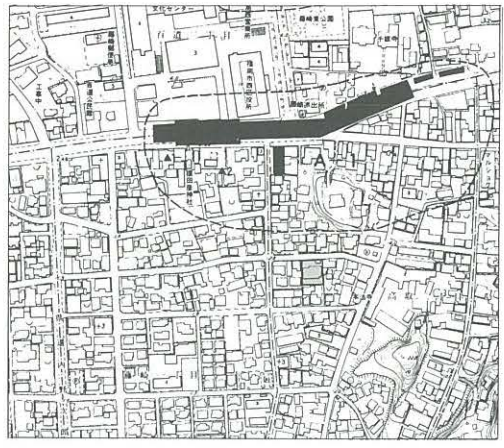
位置・環境　藤崎遺跡は、博多湾奥に発達する砂丘上に立地するが、調査地点はそれの後背湿地に面した側の緩斜面末端部に位置する。現地表面での標高約３m程である。

検出遺構　・中世：井戸３基、溝１条、土壙７基

遺構の検出面は、現地表下0.8mで、地山砂層の上面の位置である。一部に遺物包含層が広がっている。遺構は溝、土壙、井戸を検出した。溝は南北方向のものがほとんど、その多くが磁北よりやや西に振れた方向をとっている。土壙は、隅丸の長方形状、楕円形を呈する。井戸は、井戸側の最下部に曲物を使用するものと、桶を使用するものとがある。また、井側の外側に矢板・杭を打ち込み方形の囲いとするものがある。

出土遺物　各遺構からの出土遺物はないか、出土しても少量で、それも細片か小破片の土器がほとんどである。わずかに古墳時代の須恵器が混じるが、他の多くは鎌倉時代を前後する年代範囲の資料である。総量でコンテナ２箱程の分量である。

まとめ　本調査では、集落の構成要素と考えられる溝、井戸の出土があったが、建物自体は確認することができなかった。ただ、井戸が３基検出できたことからすると、鎌倉時代を含むある一定期間、集落が継続して営まれた可能性を考えることができよう。



1. 調査地点の位置（室見81－A－1）

2. 西半調査区全景（北から）

3. 東半調査区全景

9307　野芥大籔遺跡第Ⅰ次調査（NKO－Ⅰ）

所　在　地　早良区賀茂二丁目134外　　調査面積　8,030㎡
調査原因　道路建設　　担　当　者　山崎龍雄
調査期間　930518～940331　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　室見川の支流である金屑川の東側の微高地上に立地し、標高は約14m前後を測る。当遺跡の西側には井堰が出土した免遺跡がある。

検出遺構　調査は道路を基準に５区画に区分して調査を実施した。排土は重機で除去し、トラックで場外へ搬出した。各区の検出遺構は以下のとおり。

１区　縄文時代晩期の旧河川３条、古墳時代の水路１条、この水路には井堰があった。中世の溝２条、古墳時代の土坑、井戸、江戸時代の溝、井戸、建物、江戸～明治時代の馬骨を伴った土坑群

２区　古墳時代の旧河川１条、溝、土坑、中世の溝。

３区　２区から続く旧河川、古墳時代の溝、土坑。

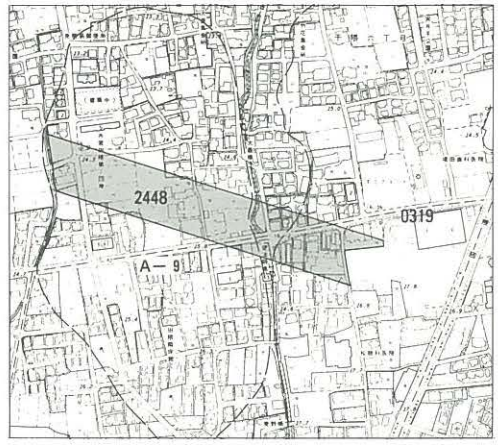
４区　縄文時代～古墳時代の旧河川４条、江戸時代溝２条、土坑、平安時代の埋甕１基。

５区　縄文時代旧河川１条。

出土遺物　縄文時代晩期から奈良時代にかけてと、近世から近代にかけての遺物が多く出土した。おもな遺物は縄文土器・石器、弥生土器・石器古墳時代の土師器・須恵器・木器、中世の陶磁器・土師器、近世の陶磁器などがある。総量でコンテナ72箱程である。

まとめ　今回の調査では、縄文時代の旧河川のほか、古墳時代前期の遺構・遺物が出土した。調査区内では古墳時代の竪穴住居跡はみつかっていないが、周辺には存在する可能性がある。微高地上で遺構は確認されており、各微高地に集落が点在している可能性がある。

また、各調査区で検出された旧河川は、縄文時代後期から奈良時代までで、位置的に見て金屑川の旧河道であろう。



1．調査地点の位置（野芥83－A－9）

2．Ⅰ区全景

3．古墳時代　土坑検出状況（北から）

9308　那珂遺跡群第42次調査（NAK－42）

所　在　地　博多区那珂一丁目476
調査原因　倉庫兼事務所建設
調査期間　930522～930531
調査面積　63.4m²
担　当　者　下村　智
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、那珂遺跡群の中央部に位置し竹下駅前線道路工事に伴う第13次調査の北側隣接地にあたる。標高は9～9.3mを測り、基盤は鳥栖ロームである。地表下－0.6mで鳥栖ロームが現われ遺構が検出できる。

検出遺構
・古墳時代後期：竪穴住居址2軒
・平安時代：土壙墓1基
・弥生時代～中世：柱穴131個

竪穴住居址は、2軒が切り合っており新しい方の住居址は貼床を施し、白粘土でカマドを構築している。出土した須恵器坏身から6世紀後半から終末の時期にかけてのものである。なお、細い溝が3条検出されているがこれは竪穴住居址に伴うものであろう。

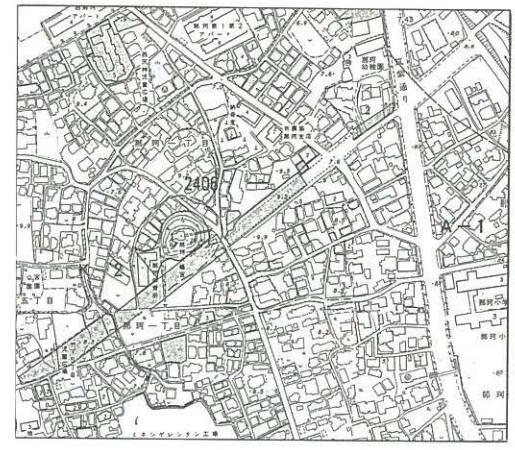
土壙墓は、高台付の土師器椀を2個体副葬している。10世紀中頃の時期と推察される。この土壙墓は竪穴住居址を切って造営されている。

柱穴群は、黒色土が詰まった大型のものが含まれ、弥生時代から中世にかけてのものである。調査区が狭いので3個以上は並ばず、建物は復元することができなかった。

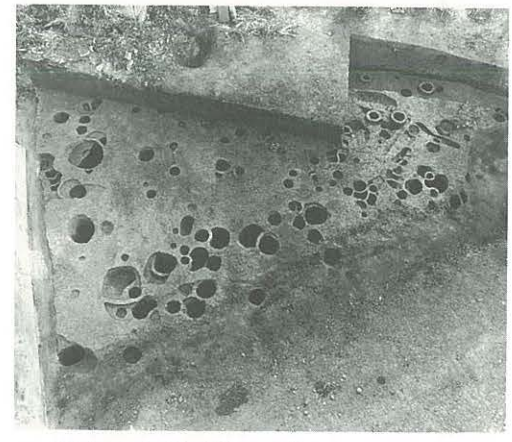
出土遺物　遺物は、竪穴住居址、土壙墓、柱穴などからコンテナ5箱分が出土している。弥生式土器、古墳時代の土師器、須恵器、古代の土師器などが含まれるが、特筆すべき遺物として土壙墓に副葬された完形の土師器椀があげられる。

まとめ　弥生時代から古代にかけての遺構が密度濃く分布しており、第13次調査地点からの遺構の連続が確認できた。周辺にも同時期の遺構が保存よく広がっているものと考えられる。今回、土師器を副葬する土壙墓が発見されたことは、那珂遺跡群でこれまで発見例の少なかった平安時代の遺構の存在を考える上で重要である。

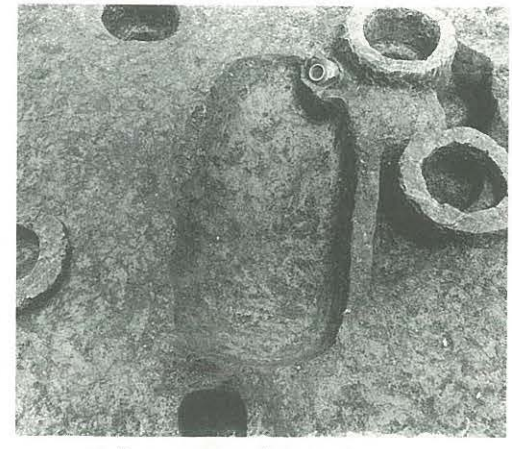
なお、調査報告書は1994年度に発行する予定である。



1. 調査地点の位置（東光寺37－A－3）



2. 調査区全景（東から）



3. 土壙墓出土状況（南から）

9309　博多遺跡群第80次調査（HKT－80）

所　在　地　博多区冷泉町304－1
調査原因　ビル建設
調査期間　930520～940331
調査面積　854m²
担　当　者　吉武　学
処　　置　調査後破壊

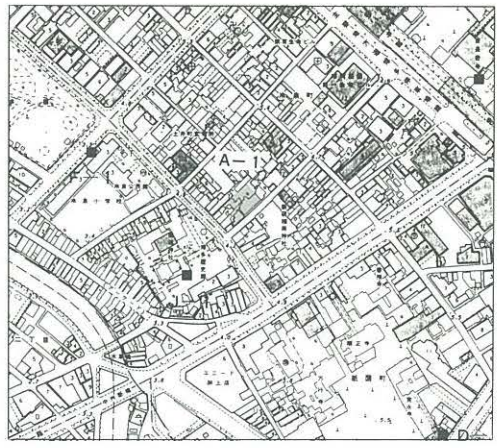
位置・環境　調査地は博多遺跡群南部の博多浜東側に当たる。調査区内では地形は緩く南に下っており、調査地点の南側に浅い谷部が存在するものと思われる。地表面の標高は4m強。調査地の西側に櫛田神社があり、つい最近まで社領に含まれていた。

検出遺構　弥生時代～中世にかけての集落、町屋跡を検出した。地表面から基盤層まで2m強を測る。土層の区分が明瞭でないため、地表下0.7mを第1面とし、以下は機械的に水平に掘り下げた。第1面：標高3.6m(16世紀以降)。第2面：標高3.3m(14～16世紀)。第3面：標高2.9m(12～14世紀)。第4面：標高2.6m(11～12世紀)。第5面：標高2.1m(弥生時代～11世紀)。また、第5面以下の基盤層中にも弥生中期～後期の土器が含まれている。

遺構は多種・多数あり、おもな遺構は
・弥生時代後期：竪穴住居跡、小児甕棺
・古墳時代前期：包含層
・平安時代：竪穴住居跡、溝
・鎌倉室町時代：掘立柱建物、石組基礎建物(瓦葺)、井戸、土坑、木棺墓、鋳造関連遺構、道路遺構、溝状遺構、整地跡

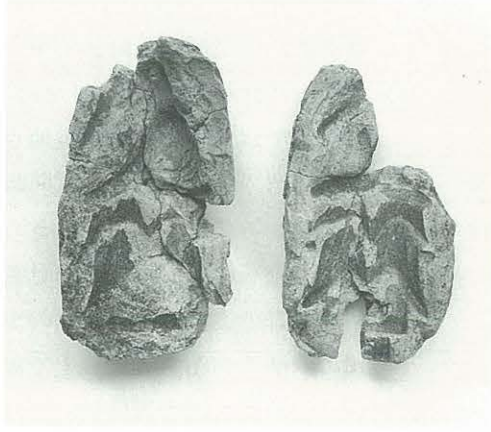
出土遺物　コンテナ550箱の遺物が出土した。遺物の大半は土器と瓦である。土器は弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器等が出土し、特に土師器の一括資料が多く陶磁器は少ない。瓦は瓦溜からコンテナ150箱分が出土した。特筆すべき遺物には、仏像鋳型（歓喜天像）を伴う鋳造遺物一括、鍋鋳型、湖州鏡、石塔、鬼瓦、「櫛田宮」銘軒丸瓦、ガラス容器、分銅、錠など。

まとめ　調査地は櫛田神社を含む旧町名「社家町」の一角に当たり、最近まで櫛田宮宮司の居住地であった。出土遺物には櫛田宮関連のもの以外に、仏教関係の遺物があり、また、多量の瓦が出土したことから見て、神宮寺等に関連する遺跡である可能性が高い。



1. 調査地点の位置（天神49－A－1）

2. 調査区全景


3. 歓喜天像鋳型

9310　持田ケ浦古墳群D群第2次調査（MKT－D－2）

所在地	博多区大字金隈字持田ケ浦212－5外	調査面積	4,886m²
調査原因	病院付共同住宅建設	担当者	宮井善朗
調査期間	930524～930730	処置	調査後破壊

位置・環境　調査区は、月隈丘陵から西へ派生する狭長な尾根の頂部から南斜面にかけて立地する。

検出遺構　今回調査では4基の古墳および弥生時代の住居跡、貯蔵穴を検出した。

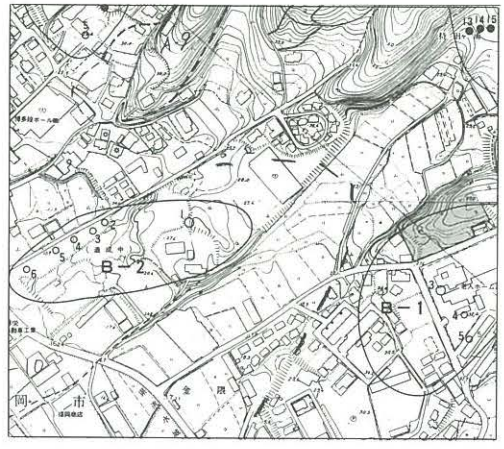
・弥生時代：住居跡1基。貯蔵穴28基。土壙1基。いずれも中期初頭頃と考えられる。住居跡は方形、貯蔵穴は円形を呈する。

・古墳時代：円墳4基（6～9号墳）。土壙墓1基。古墳はいずれも横穴式石室を持つ。周溝同士が重複する例があり、きわめて短時間に継起的に造営されている。土壙墓は長方形を呈し、須恵器を副葬している。

出土遺物　6号墳主体部：滑石製紡錘車　周溝：須恵器
7号墳主体部：耳環、鉄器（刀子）、須恵器
8号墳主体部：耳環、須恵器　周溝：須恵器
土壙墓：須恵器、滑石製紡錘車

弥生時代遺構からは、土器、石器等が出土した。総量はコンテナ20箱程度である。

まとめ　今回調査の結果、墳丘が認められない地域でも古墳が残っている可能性が強いことがわかった。また、この地域では古墳のみならず、弥生時代遺構が濃密に分布するのが一般的と考えながら、開発に対処していくのが必要であろう。



1．調査地点の位置（麦野12－B－1）

2．古墳群全景

3．弥生時代遺構全景

9311　都地遺跡群第５次調査（TZI－５）

所　在　地　西区大字金武2028－１
調査原因　小学校体育館建替え
調査期間　930524～930630
調査面積　1,700m²
担　当　者　杉山富雄・屋山　洋
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は室見川の西岸に位置し、飯盛山から東に広がる台地の先端部に所在する。現状は金武小学校の運動場と金武幼稚園である。遺構面の標高は約31.9～34.5mである。

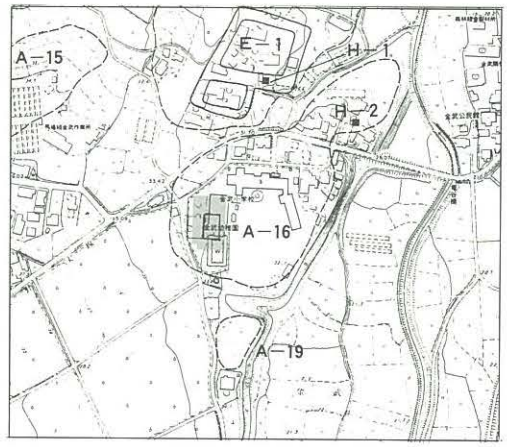
検出遺構
・弥生時代：方形土壙１基
・古　　代：溝１条、製鉄炉２基
　　粘土貯蔵壙１基
・中　　世：溝１条
　　掘立柱建物７棟（古代～中世）
　　７～８世紀包含層

出土遺物　コンテナで約20箱出土した。柱穴からの出土遺物は少ない。古代溝からは須恵器坏蓋等とともに黒曜石製の細石刃が出土した。包含層からは多量の鉄滓とともに須恵器坏、羽口、平瓦、土錘や『高殿』と墨書された須恵器坏が出土している。

弥生方形土壙からは磨製石斧とともに、袋状口縁の壺が出土している。

まとめ　今回の調査では包含層から８世紀代の土器とともに平瓦が多く出土し、付近に瓦葺き建物が存在した可能性が出てきた。同層に鉄滓が多量に含まれるため製鉄関係の施設とも考えられるが、調査区内ではそれらしい建物の遺構を確認することはできず、今後の周辺の調査結果が期待される。

報告書は1994年度発行予定である。



1．調査地点の位置（都地93－A－16）

2．調査区全景（東から）

3．SX－001（南から）

9312　東入部遺跡群第７次調査（HGI－７）

所　在　地　早良区大字東入部地内
調査原因　県営圃場整備
調査期間　930501～940228
調査面積　17,000m²
担　当　者　濱石哲也・榎本義嗣
処　　置　破壊、一部保存

位置・環境　早良平野の南端、荒平山西側の低位段に位置する。標高約37m。遺跡の南から西側を室見川が流れる。

検出遺構　東入部遺跡群は、縄文時代から江戸時代にいたる複合遺跡で、今回の調査では弥生時代、古墳時代後期、平安時代末～鎌倉時代の三期に遺構のまとまりが見られた。

弥生時代の遺構は前期～中期の竪穴住居８基、掘立柱建物14棟、土坑10基以上、溝などからなる集落である。

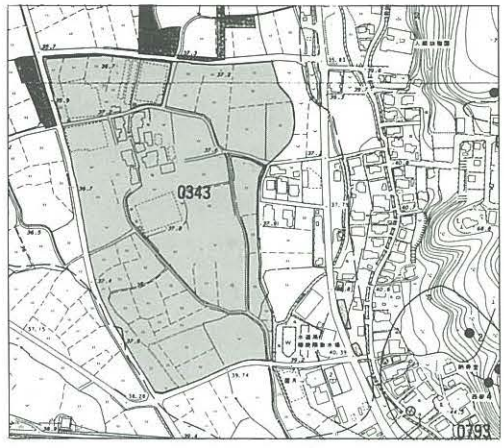
古墳時代の遺構は竪穴住居６基、掘立柱建物５棟以上からなる集落と、調査区を北北西に直進する溝である。

弥生・古墳時代の集落が調査区内の一地点に限られるのに対し、平安時代末～鎌倉時代の集落はほぼ全域に広がり、50棟以上の掘立柱建物とともに、土坑、溝、製鉄遺構などを確認した。また、土壙墓、木棺墓あわせて４基も検出した。

出土遺物　出土遺物はパンケース157箱。弥生時代と古墳時代の遺物は少ない。平安時代末～鎌倉時代の遺物には、輸入陶磁器、国産陶器、鉄製品などがあるが、多くは製鉄遺構から出土した鉄滓である。墓からは龍泉窯系青磁碗、土師器、青銅鏡などの副葬品が出土した。

まとめ　弥生時代の集落は、その変遷と構造を明確にたどることができ、また、中期前半すでに掘立柱建物を住居として採用しているなど貴重な資料を提示した。また平安時代末～鎌倉時代の集落と墓地の検出は、早良平野の開発と集落の関係を知るうえで重要な資料である。

報告書の刊行は1995年度の予定である。



1．調査地点の位置（入部85－A－９）

2．45・46区全景（南から）

3．48区弥生時代掘立柱建物と竪穴住居跡

9313　和田B遺跡群第Ⅰ次調査（WAB－Ⅰ）

所　在　地　南区野多目三丁目地内
調査原因　共同住宅建設
調査期間　930517～940114
調査面積　13,500m²
担　当　者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

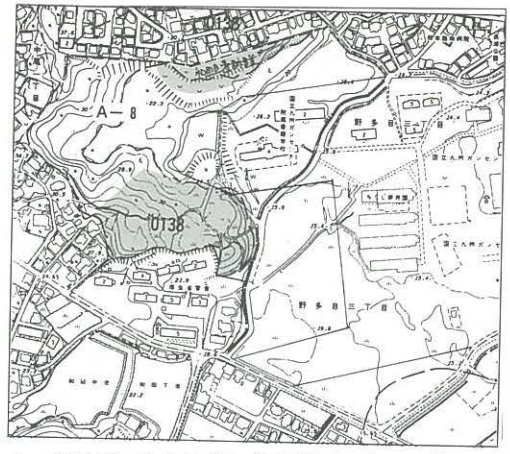
位置・環境　調査対象地は那珂川西岸の丘陵地帯にあり、複数の舌状の低丘陵からなる。標高は20～40mである。戦前、戦中に日本陸軍病院の各種施設が設けられ、相当の破壊がある。丘陵下の沖積地には野多目遺跡群があり、旧石器、縄文、弥生、古墳の各時代にわたる集落跡が分布している。

検出遺構
・旧石器時代：遺物集中分布地区１
・縄文時代早期：落とし穴遺構数10基
・縄文時代晩期：竪穴式住居跡１、土壙数基
・弥生時代前期：貯蔵穴45基、竪穴式住居７基、土壙
・古墳時代前期：古墳５基
・古代～中世：溝状遺構５

出土遺物　遺物はコンテナ30箱が出土した。
旧石器時代のナイフ形石器、台形様石器、剥片類。
縄文時代早期の石器類、土器類。縄文時代後期の阿高式系土器、石鏃、剥片類。
弥生時代前期の板付式土器類、石器類。
古墳時代前期の古式土師器類、銅鏃、人骨。

まとめ　旧石器から縄文時代については本地域に少ない資料であり、重要である。弥生時代の遺構は初期の大規模貯蔵穴群として注目される。群内にある小型の竪穴式住居は見張り小屋的性格と考えたい。

古墳は前期の小規模古墳群である。副葬品などは貧しいが、５基中２基から埋葬人骨が検出できた。該期の形質、埋葬などの研究に貴重な資料となる。



1．調査地点の位置（三宅39－A－８）

2．調査区全景（東から）

3．第１・２号墳周辺（上空から）

9314　太平寺遺跡群第Ⅰ次調査（THG－Ⅰ）

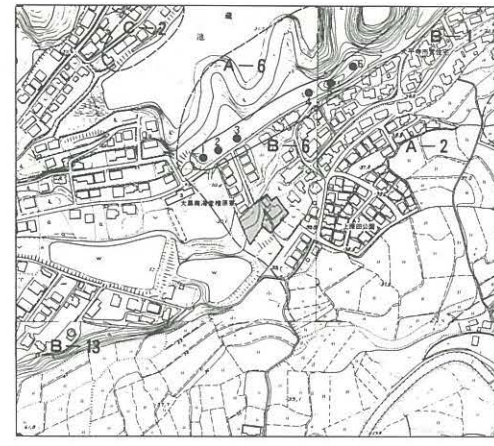
所　在　地　南区太平寺二丁目327外　　調査面積　1,261㎡
調査原因　個人兼共同住宅建設　　担　当　者　佐藤一郎
調査期間　930601～930820　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は樋井川上流左岸の低丘陵上に立地し、太平寺古墳群の南側、柏原M遺跡の北側に接する。現況は木造家屋、畑で、遺構面は耕作土直下で確認された。緩斜面が後世の開墾により棚状に削平されており、残存する遺構に偏りがみられる。

検出遺構　調査では、6世紀後半から9世紀前半にかけての掘立柱建物群が検出された。建物の内訳は、梁間2間×桁行3間の建物2棟、梁間2間×桁行4間の建物3棟、、梁間2間×桁行5間の建物1棟、建物の西側が調査区外へ延びる梁間2間の建物1棟で、他に現在柱穴の構成を検討中のものもある。まとめられた建物はすべて側柱からなる。柱穴掘り方は円形で、直径50～70㎝、深さは深いもので40㎝を測る。柱痕跡の直径は15～25㎝の間におさまる。建物の主軸方位は東に振れるものがその大半である。

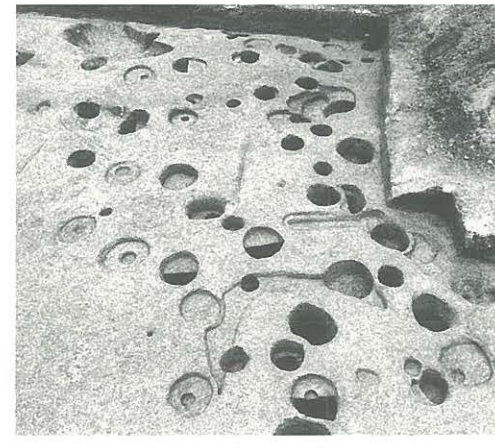
出土遺物　遺物はおもに柱穴掘方から土師器、須恵器の小片が出土したほか、北側の包含層から須恵器甕片が出土した。コンテナ20箱。

報告書刊行予定1995年度。



1. 調査地点の位置（屋形原53－A－2）

2. 調査区全景（南から）


3. 掘立柱建物群（西から）

9316　麦野A遺跡群第3次調査（MGA－3）

所　在　地　博多区麦野一丁目27－3・5　　調査面積　134m²
調査原因　自宅兼事務所建設　　担当者　山口譲治・菅波正人
調査期間　930616～930624　　処　置　調査後破壊

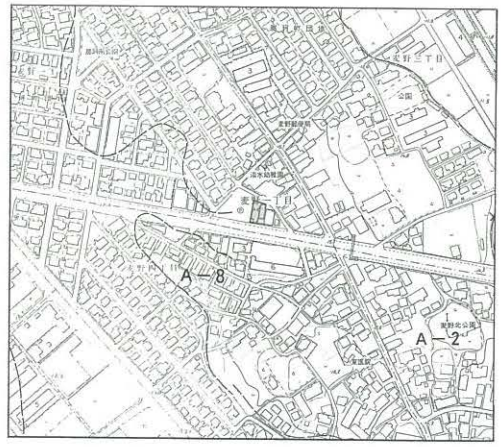
位置・環境　調査地点は麦野A遺跡群の中央部に位置する。現況の標高は約15mを測る。遺構面は厚さ40～80cmの表土を除去した鳥栖ローム層である。

検出遺構　遺構面は南西側に向かってゆるやかに傾斜しており、調査区の西端では古代の遺物を含む包含層を検出した。遺構は井戸2基、柱穴等を検出した。井戸は素掘りで底面に曲物の井戸枠が据えられていた。井戸の時期は1号井戸は18世紀、2号井戸は9世紀に位置付けられる。

出土遺物　遺物は土師器、須恵器、黒色土器、越州窯系青磁、緑釉陶器、瓦等が出土した。その他、曲物の桶、機織具等が出土した。

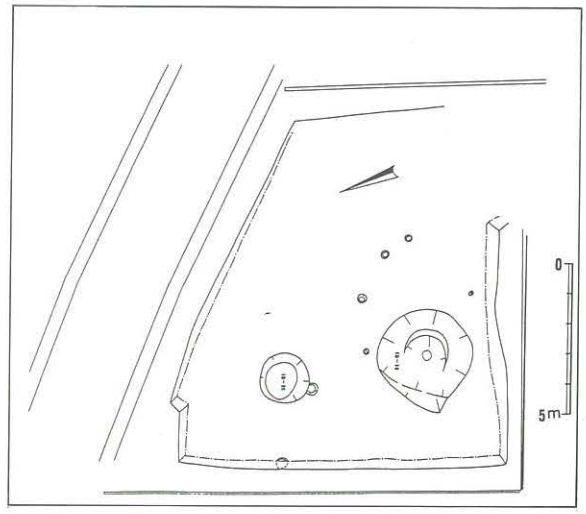
まとめ　今回の調査では古代の井戸を検出した。遺構面は南西側に向かって傾斜しており、遺構の広がりは北側に予想される。調査面積が狭いため、遺跡の性格は明確にはできないが、この中で特筆すべきことは2号井戸から出土した越州窯系青磁である。この時期の越州窯青磁は一般の集落での出土例は少なく、官衙等の施設との関連が考えられる。

1994年度報告書発行予定である。



1．調査地点の位置（麦野12－A－2）

2．調査区全景



3．第3次調査地点全体図

9317　雀居遺跡群第５次調査（SAS－５）

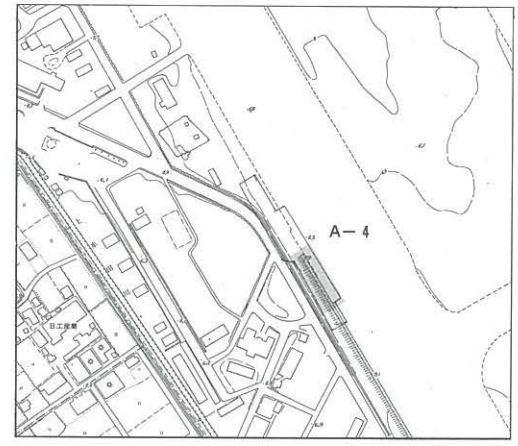
所　在　地　博多区雀居地内（福岡空港内）
調査原因　空港西側整備事業
調査期間　930615～940131
調査面積　3,350㎡
担　当　者　松村道博・宮井善朗・加藤隆也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は空港西側の旧米軍キャンプ跡地にあり昨年度調査（４次調査）の東側に当る。三笠川の右岸に位置し、標高6.5mの冲積微高地に立地する。

検出遺構　縄文時代晩期から古墳時代に至る各種の遺構が認められる。縄文時代晩期の遺構として台地縁を巡る自然の流路があり、土器とともに多くの木製品が出土している。他に獣骨を出土する大型土壙や溝などがある。弥生時代前期の遺構では長方形の貯蔵穴が数基認められる。後期には環濠が巡らされその規模は南北115m、東西40mを測る。さらにはこの環濠内側に大型掘立柱建物１棟がある。桁行６間(12.18m)、梁行４間(8.4m）を測り、柱穴の掘り方も大きく長辺1.8m、短辺約1.2mの規模で二段掘りとなるものが多い。柱痕も30～40cmを測るものである。古墳時代前期の竪穴住居跡７棟、奈良時代から平安時代の水田跡も認められる。

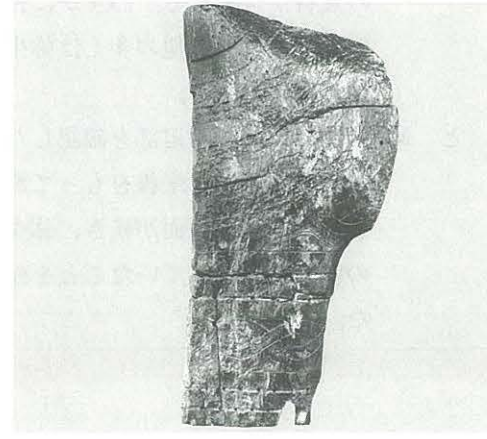
出土遺物　出土遺物は土器、石器が287箱、木製品89箱程である。縄文時代晩期の自然流路および弥生時代後期の環濠から多量の土器や木製品が出土しているが、その中で注目すべきものとして晩期の溝から出土の木製紡織具及び環濠出土の木製短甲、楯、大型組合せ机があげられる。

まとめ　環濠集落に大型掘立柱建物が出現することは竪穴住居跡との併存、及び「短甲」「楯」がともに出土していることを考えると特殊な階層の存在を窺わせ、この集落がこの地区での中核的役割を有する集落といえよう。



1．調査地点の位置（雀居23－A－４）

2．Ⅰ区調査区全景


3．木製短甲

9318　比恵遺跡群第49次調査（HIE－49）

所　在　地　博多区博多駅南五丁目53－1　　調査面積　464m²
調査原因　共同住宅建設　　担　当　者　杉山富雄
調査期間　930624～930805　　処　　置　調査後破壊

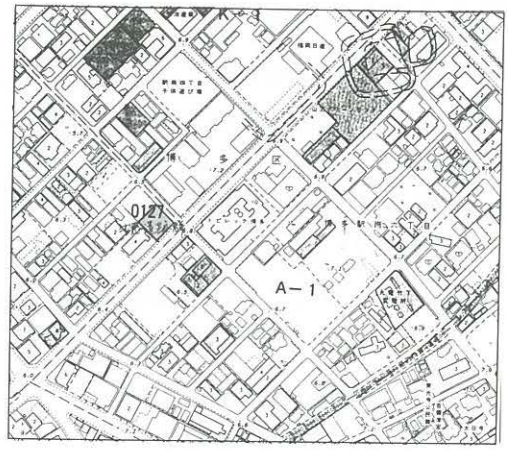
位置・環境　調査地点は、那珂川東岸の中位段丘上で、那珂川の東側に位置する旧河川に面した崖線に沿った場所に立地する。現地表面は標高7mの位置にある。

検出遺構　・弥生時代（後期）：井戸1基、掘建柱建物1棟、竪穴住居4棟
・中　　世：溝　1条

調査地点は、戦前の区画整理による地下げ、戦時中の防空壕建設による撹乱など、大きな改変を受けており、遺構検出面は段丘を形成するAso 4火山灰をかなり削り込んだ部分に相当する位置である。このようなことがあって、遺構の遺存状態は不良である。調査区西辺に沿って段落ちがあり、周辺の調査結果とあわせかんがえて、これより西側には旧河川による砂層の堆積広がっているものと推測される。遺構は調査区全体に散漫に分布している。竪穴住居は、長方形で主柱穴を長軸線上の両端に2基もつものと、不整な隅丸方形で、柱穴の判然としないものとがある。竪穴住居の主柱穴からは完形の土器が出土した。

出土遺物　遺物は、竪穴住居の一部を除くと、各遺構からごく少量ずつの土器片が、小破片あるいは細片で出土している。弥生時代中期から近世までの資料が含まれる。わずかに古墳時代以降の資料が混じるが、他の多くは弥生時代に属する範囲の資料である。

まとめ　比恵遺跡の西辺部を確認した。遺跡の立地する中位段丘は、崖線をもって終わる。この位置まで台地の平坦面が続き、弥生時代後期の集落の範囲が広がっていたことを確認する事ができた。



1. 調査地点の位置（東光寺37－A－1）

2. 西半調査区全景（東から）

3. 竪穴住居132（南から）

9319　雀居遺跡群第6次調査（SAS－6）

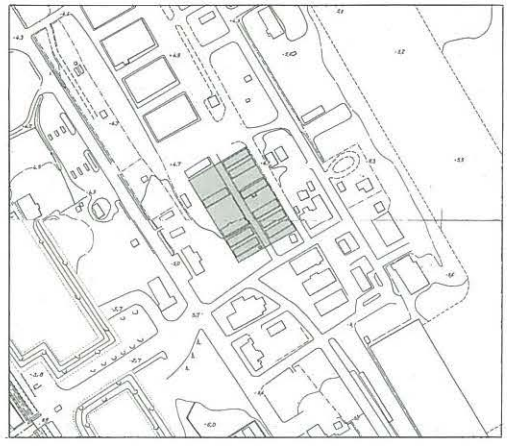
所　在　地　博多区雀居(福岡空港西側整備地内)　　調査面積　6,300㎡
調査原因　空港整備　　担　当　者　松村道博
調査期間　930615～940228　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、福岡空港の西側の米軍跡地にあり2次調査と3次調査とに囲まれた地点に位置する。2、3次調査では耕作土直下、水田の洪水砂の上で古代末の集落跡が検出することができたが、その西端では遺構が希薄になっていたので今回の調査地点ではその検出が危ぶまれていた。予想に違わず集落址はなく、洪水砂に覆われた水田跡のみの検出となった。

検出遺構　今回の調査で検出した遺構は8～9世紀の水田跡である。水田は基本的に暗褐色粘質土を削りだして築造している。ただ南西部では暗褐色粘質土の上に黄白色砂あるいは灰白色砂が数cm被り、その上の砂混じりの茶褐色土を水田面としている。これは3次調査で第一水田面と同一面であり、西側部分は洪水により畦畔が消失したことが確実となった。水田は長方形ないし方形を呈するがなかには菱形に近い形態を示すものや緩く畦畔が蛇行したり隅が丸くなったりと統一性が認められない。一枚の水田の面積にも大小様々で、広い水田では約570㎡、狭いものは約150㎡とその1/4しかない。全体をみると200～300㎡前後を測るものが多い。畦畔は幅30～40cm、高さ20～30cmの地山削り出しである。

出土遺物　コンテナ3箱出土している。水田が一時期の洪水砂で埋没していることから土師器や須恵器の小破片が少量出土したに過ぎない。

まとめ　今回の調査では水田跡の検出にとまった。水田跡は日野尚志氏の条里復元の方向とほぼ一致するが里境等を明らかにする遺構は認められない。水田の形状が本来の姿から大きく変容を遂げたものであろう。



1. 調査地点の位置（雀居23－A－4他）

2. 調査区全景

3. 水田跡および足跡等検出状態

9320　田村遺跡群第15次調査（TMR－15）

所　在　地　早良区大字田地内
調査原因　団地建設
調査期間　930617～930731
調査面積　740m²
担　当　者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

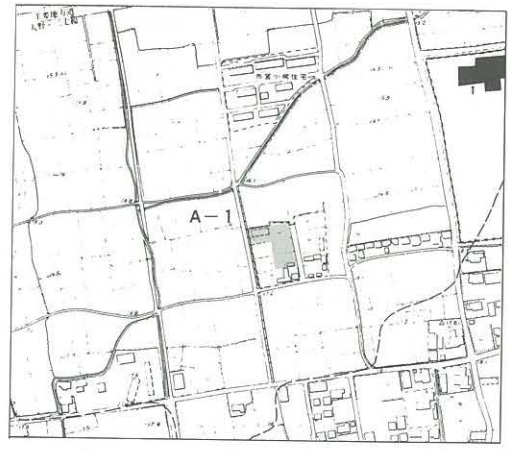
位置・環境　調査地は、室見川の東岸の沖積平野に位置する。標高15～16m前後である。調査区の旧況は田で、約60cmの客土がなされている。これまでの調査で中世の集落跡が確認されている。今年度の調査区は団地に付随する駐車場部分であり、平面形は逆L字形をしている。

検出遺構　掘立柱建物一棟

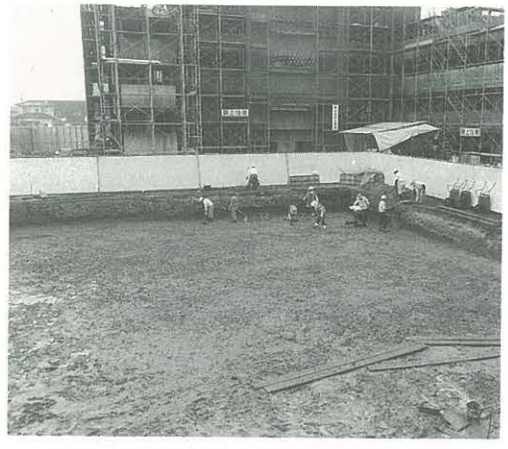
掘立柱建物は南北方向に長軸をとり、２間×３間の規模である。その他の柱穴も調査区の北西に集中している。

出土遺物　遺物は土師器の細片のみ。コンテナ１箱。

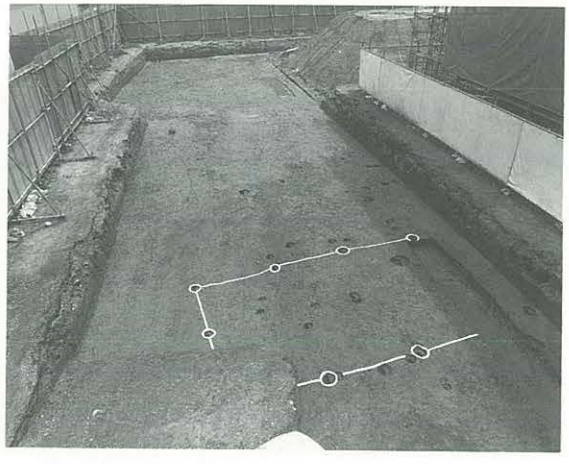
まとめ　今回は３次・14次調査区に接しており、掘立柱建物の東限を確認することができた。これまでの調査から遺構の時期は11世紀後半から12世紀にかけてと推定される。



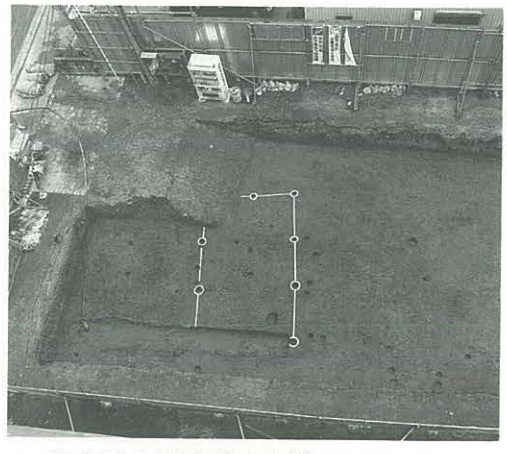
1. 調査地点の位置（重留84－A－1）



2. 調査区南側遺構検出風景



3. 掘立柱建物（西から）



4. 調査区北側遺構分布状況

9321　田村遺跡群第16次調査（TMR－16）

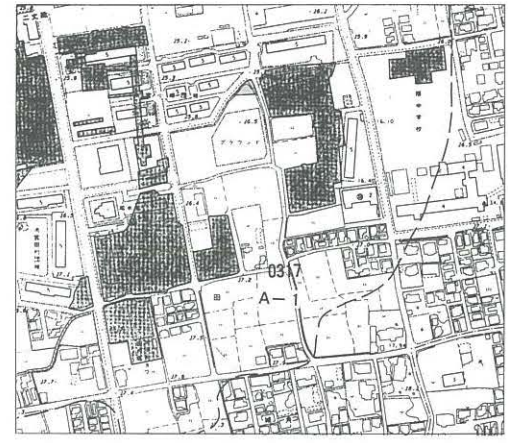
所　在　地　早良区大字田741
調査原因　老人いこいの家建設
調査期間　930628～930629
調査面積　80m²
担　当　者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、室見川東岸の沖積平野に位置する。標高は、15～16m前後である。調査区の現況はゲートボール場である。今回、敷地の東辺と南辺にそってL字形のトレンチを設定した。

検出遺構　ここでは、土層の堆積状況について解説をおこなう。地表面下50cmは、水はけの良いバイラン土、以下40cmは黒色の粘質土の客土があり、さらにその下に約40cmの厚さで旧耕作土となっている。耕作土の下は、青灰色のシルト質土に円礫が噛んだ状態となっており、さらに30～50cm掘り下げると湧水がある。この面を遺構検出面と見做したが、遺構は一切確認されなかった。

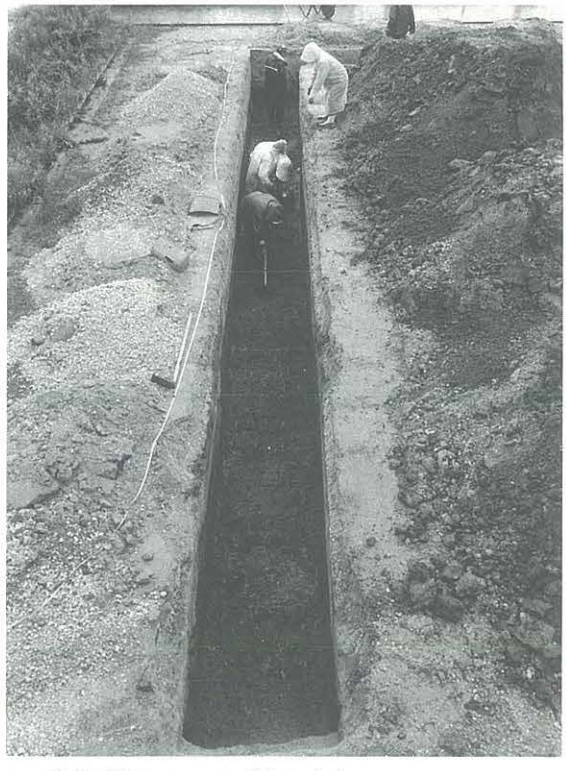
出土遺物　検出されなかった。

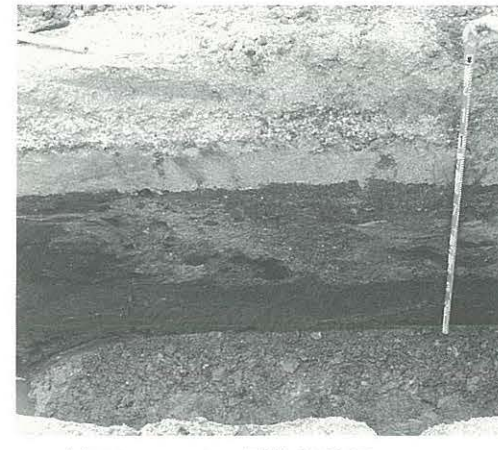
まとめ　これまでの調査で南北に貫流する河川が確認されており、調査地もその延長にあたることが予想されていた。今回の調査結果は、その予想を裏付けるものである。



1．調査地点の位置（重留84－A－1）

2．調査区全景（南東隅から）


3．東辺部トレンチ（北から）


4．南辺トレンチⅠ層堆積状況

9322　小笠木遺跡群第２次調査（OK－２）

所　在　地　早良区大字小笠木地内
調査原因　詳細分布調査
調査期間　931018～931026
調査面積　848m²
担　当　者　濱石哲也・榎本義嗣
処　　置　調査後破壊

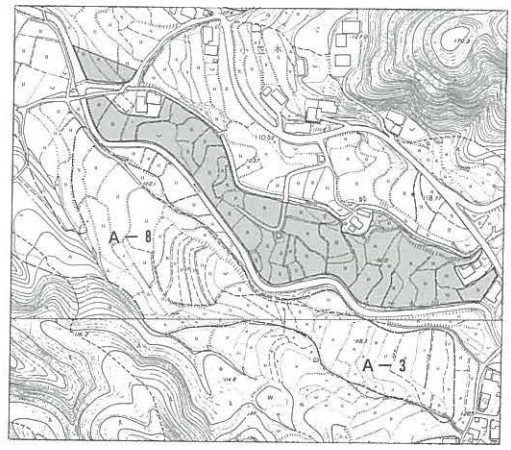
位置・環境　調査地は油山南麓斜面および小笠木川および峠川に挟まれた舌状の丘陵上に位置する。現況は水田で、標高は約95～115mを測る。

今回の調査は、94年度の小笠木地区圃場整備事業予定地の南側を対象に詳細分布調査として実施した。事業地内の遺構分布範囲及び遺構面までの深度の確認を目的としたものである。調査方法は重機によってトレンチを開け、平面図・土層図の略図作成、写真撮影を行なった。なお、該地西側および南側の93年度事業地では脇山B遺跡第１次、志水A遺跡第１次の本調査が実施されている。

検出遺構　現水田面に計26本のトレンチを設定した。その結果、黄褐色土上面に焼土坑が数基散在するのを確認した程度で、その他に遺構は認められなかった。

出土遺物　トレンチ内での採集遺物は中世・近世の土師器、陶磁器の細片が少量ある。コンテナ１箱に満たない。

まとめ　今回の調査では棚田造成時における遺構面の削平が広範囲に認められ、検出した焼土坑の遺存状態も悪い。



1．調査地点の位置（早良10他）

2．調査前風景（南東から）

3．第６トレンチ遺構検出状況（南から）

9323　博多遺跡群第81次調査（HKT－81）

所　在　地　博多区冷泉町237－1
調査原因　商業ビル兼個人専用住宅建設
調査期間　930701～930819
調査面積　137㎡
担　当　者　山崎純男・菅波正人
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多遺跡群が所在する2列の砂丘のうち、内陸側の「博多浜砂丘」の北側除面に位置している。調査前は、アスファルト舗装され駐車場として使用されていた。

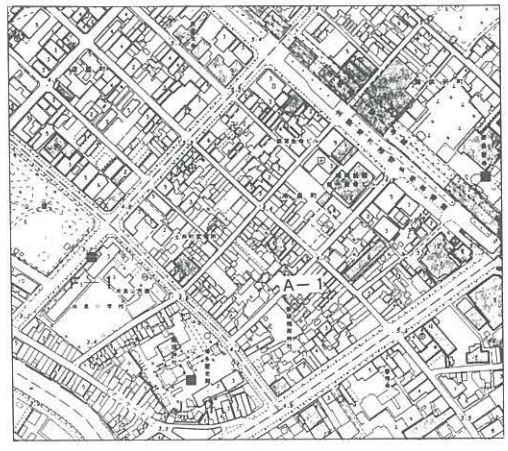
建物基礎等の攪乱はほとんどなく、遺構の遺存状態は良好である。

検出遺構
・弥生時代後期：溝・甕棺墓・包含層
・古墳時代：包含層
・古　　代：溝(奈良時代)、土壙(平安時代)
・中　　世：土壙・井戸・土壙墓
・近　　世：基壇・土壙・井戸

出土遺物　遺構・包含層からコンテナ50箱の遺物が出土した。遺物としては、弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・青磁器・白磁器・高麗陶器・中・近世陶磁器・貨幣・製鉄関連遺物・石製品・瓦・水銀・炭化米等の自然遺物がある。

まとめ　今回の調査は面積がせまいながらも多くの成果を得ることができた。特に古代については、越州窯青磁や白磁器の量の多さ、緑釉陶器、墨書土器、製塩土器の存在から、何らかの官衙があった可能性が強いことが推測される。また、古代層から検出した水銀は文献を裏付ける資料として貴重である。

1994年度報告書発行予定である。



1．調査地点の位置（天神49－A－1）

2．調査風景

3．土壙遺物出土状態

9324　雑餉隈遺跡群第２次調査（ZSK－２）

所　在　地　博多区西春町一丁目１－27　　調査面積　345m²
調査原因　店舗兼個人専用住宅建設　　担　当　者　山口譲治・菅波正人
調査期間　930719～930806　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、御笠川・那珂川中流域間の標高20.5m前後の洪積台地上に位置している。調査前は、宅地となっていた。

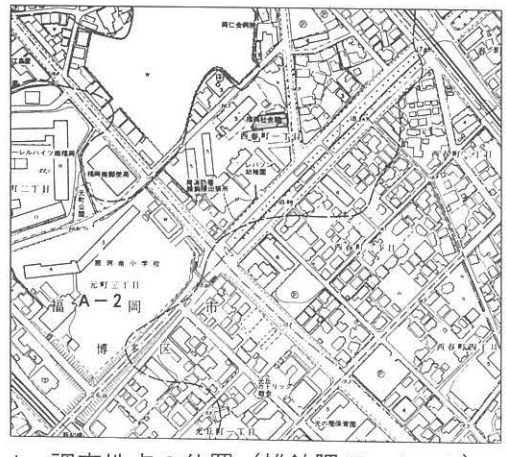
調査は、30cm前後の盛土を除去することから始めた。その結果、鳥栖ロームを基盤として弥生時代と奈良時代の遺構を検出した。

検出遺構　・弥生時代後期初頭：井戸１基
・奈良時代（８世紀前半）：竪穴住居址６基、土壙２基、掘立柱建物３棟、柱穴多数

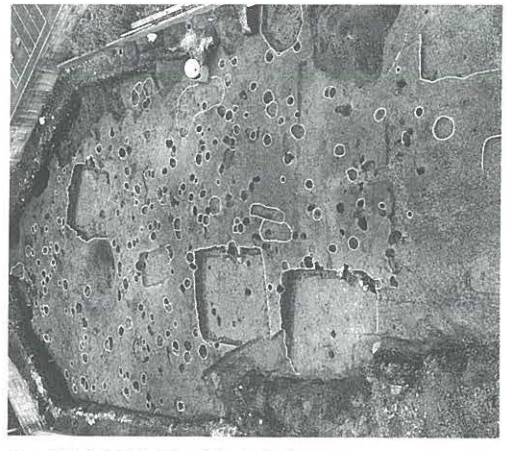
出土遺物　本調査ではコンテナ12箱の遺物が出土した。弥生時代後期初頭の井戸からは、袋状口縁壺が、奈良時代の竪穴住居址・土壙・柱穴からは、土師器の坏、坏蓋・甕、須恵器の坏・坏蓋や転用硯、刀子などの鉄器・瓦類が出土した。

まとめ　本調査地周辺は、市街化が進み調査例が少なく遺跡の様相が分らなかったが、本調査の結果、少なくとも弥生時代と奈良時代の複合遺跡であることが分った。本調査地の遺構の遺存状態は比較的良好で、６基の竪穴住居址のうち４基に住居付設のカマドが遺存しており、また、３基は貼り床が１回行なわれている。付設カマドは、受け部から焚き口にかけて破壊されており、奈良時代の住居廃絶の一類型といえよう。

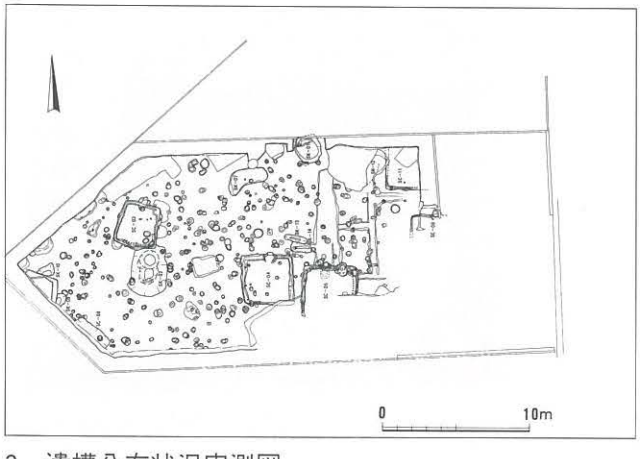
1994年度報告書発行予定である。



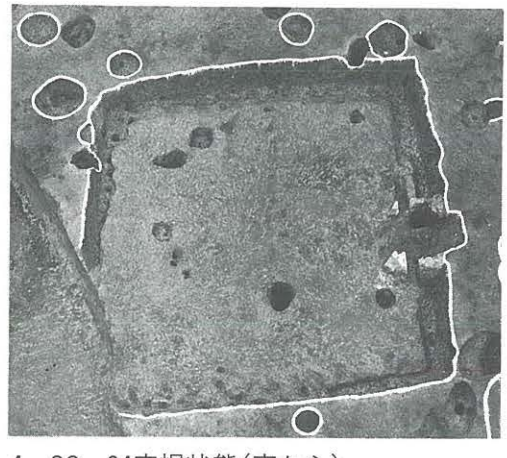
1．調査地点の位置（雑餉隈13－A－２）



2．調査区全景（南から）



3．遺構分布状況実測図



4．SC－04完掘状態（東から）

9325　野方中原遺跡群第３次（NKN－３）

所　在　地　西区野方七丁目地内
調査原因　下水道建設
調査期間　930713～930806
調査面積　60㎡
担　当　者　荒牧宏行
処　　置　調査後消滅

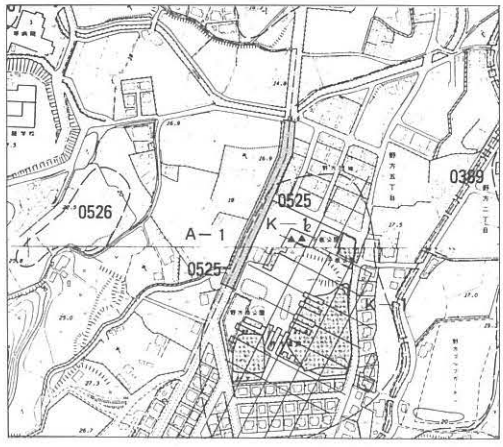
位置・環境　本調査地点は国史跡野方遺跡の西側を略南北に走る道路部内である。幅２m、延長約30mの範囲を下水道工事に伴って立会調査を行なった。

国史跡野方遺跡は住宅地造成工事中に発見された。南北へ緩やかに傾斜した扇状地に弥生時代後期の環濠集落が形成されている。標高15～26mを測る。東西を谷落ちで限られ、東側には十郎川が流下する。調査地点は西側谷部に位置すると思われる。

検出遺構　道路面から－200cmまで真砂による客土、以下、淡青灰色シルト、灰白色砂が堆積し、北側では－280cmで砂礫層に達する。層位は南側へレベルを高じるが、調査範囲内においては青灰色シルトが主体を占めることは変わらない。真砂の下面のレベルは周辺の水田面より低く、上部が道路建設時に削平されている。

水田面検出の可能性を考慮し、精査したが、認められず、遺物も皆無に近い。

まとめ　上記のとおり、上面は削平されているため、本来の状況は不明である。土層から水田跡が遺存する可能性はあるが、識別はできなかった。



1．調査地点の位置（叶岳105－A－1他）

2．下水道工事状況

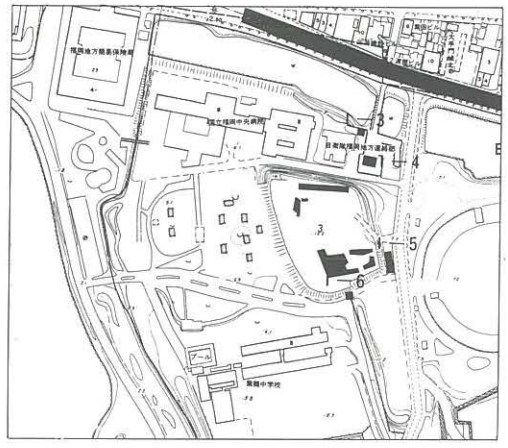
3．土層堆積状況

9326　福岡城跡　―鴻臚館跡―（FUE－22）

所　在　地　中央区城内１－４
調査原因　確認調査
調査期間　930816～940228
調査面積　450m²
担　当　者　田中壽夫・瀧本正志
処　　置　調査後埋め戻し

位置・環境　鴻臚館跡は、博多湾岸をめぐる海岸線中央に位置する福崎丘陵先端部に立地している。この丘陵上には、約260年の間、筑前国黒田家の居城となった福岡城が築かれており、国史跡に指定されている。調査地は、この福岡城三ノ丸西北部に位置しており、黒田如水の隠居地とされる御鷹屋敷の西側に隣接している。現況は、標高約5.6～6.2mの平地である。

今年度の調査は、鴻臚館跡第Ⅱ期調査５ケ年計画の初年度にあたり、鴻臚館関連の遺構と遺物の有無と範囲確認をおもな目的として実施した。発掘にあたっては、第Ⅱ期調査予定地内に、５×10mのトレンチを９地点設定した。



1．調査地点の位置（舞鶴60－E－２）

検出遺構　時期別の調査成果は下記のとおりである。

出土遺物　明治期～大正期の建物基礎、溝、土壙が、第４・５トレンチで認められた。これらには、廃藩置県後に置かれた福岡県庁関連のものも含む。

江戸時代後期の遺構には、掘立柱建物の柱跡、溝、土壙、池状遺構や整地層等を確認した（第２・３トレンチ）。遺構からは、瓦や肥前系、高取系、小石原系の近世陶磁器や、下駄、曲物、漆塗の板材等の木器が出土している。

江戸時代初頭から前期の遺構には、第１・３トレンチで築地塀の基礎、第６トレンチで板石を礎板に用いた柱穴等を検出した。また、標高4.80m前後を基準とした築城初期の整地面が確認され、築城当初湾入していた干潟を大規模な埋立てによって整地したことが判明した。遺物は朝鮮系、古高取系、備前焼等の陶磁器が出土。

2．第１トレンチ全景（南から）

まとめ　江戸初期の盛土下部には、干潟を物語る灰色砂層が厚く堆積し、古墳時代から、中世までの遺物が出土している。なお、鴻臚館に関連すると思われる遺構と遺物については、若干の須恵器、白磁片以外は、明確でなかった。

3．第７トレンチ全景（東から）

9327　橋本一丁田遺跡第２次調査（HIT－２）

所　在　地　西区福重地内
調査原因　国鉄建設
調査期間　930901～940331
調査面積　9,178m²
担　当　者　中村啓太郎・池田祐司
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は室見川、十郎川の沖積作用によって形成された沖積微高地上に立地し、現標高は6.5mを測る。現在は水田として利用されている。

検出遺構
・縄文時代晩期：包含層
・刻目突帯文期：河川、井堰、土坑、土器溜まり
・弥生時代前期：河川、杭列、土坑、土器溜まり
・古墳時代前期：溝１条、土坑、土器溜まり
・中　　世：溝４条（１条は磁北方向）
・近　　世：土坑

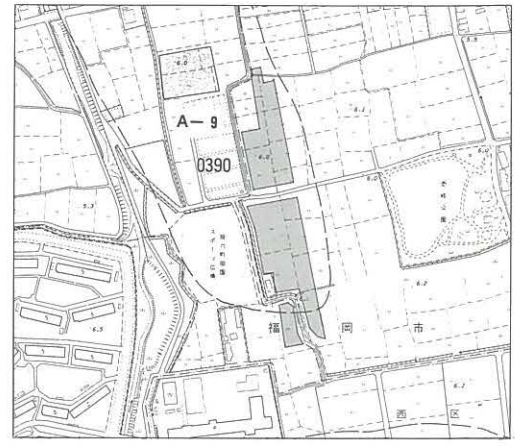
４面の調査を行なった。第１面は現水田耕作土直下の中世、第２面は古墳時代前期、第３面は茶褐色土層上面で５cm大の小穴を多数検出した。この層からは刻目帯文土器が出土している。第４面は調査区中央で河川を検出した。この河川に直交する矢板列を１個所、杭列を２個所で検出した。

刻目突帯文期の遺物が出土していた。なお、粘質シルトからは稲のプラントオパールが検出されている。また、第４面の検出面である暗褐色粘質土上部は縄文晩期前半の遺物を含んでいる。

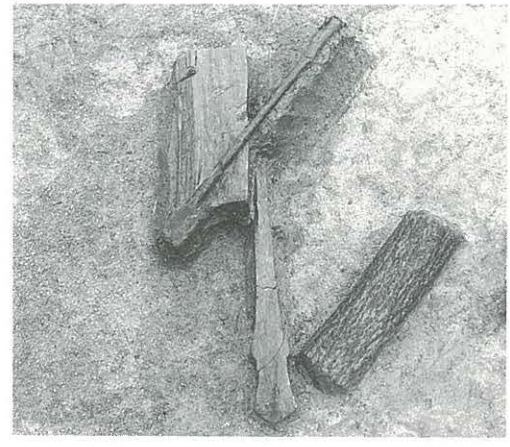
出土遺物　縄文晩期前半から近世の遺物が出土した。量的には第４面の河川から出土した刻目突帯文土器が多い。石器では柳葉形磨製石鏃、打製石鏃等が出土している。木器では石斧の柄、鍬、建築材等が出土した。遺物総量はコンテナケースで約100箱である。

まとめ　明確な水田遺構は検出できなかったが、各時期ごとに水田の存在が予想される。板付Ⅰ式期、刻目突帯文期の生活跡は調査区の東側にあると思われる。

1997年報告予定である。



1．調査地点の位置（橋本91－A－９）


2．木製品出土状況

3．矢板列

9328　那珂遺跡群第44次調査（NAK－44）

所　在　地　博多区那珂二丁目122－１外　　調査面積　821m²
調査原因　共同住宅建設　　担　当　者　佐藤一郎
調査期間　930824～931031　　処　　置　調査後破壊

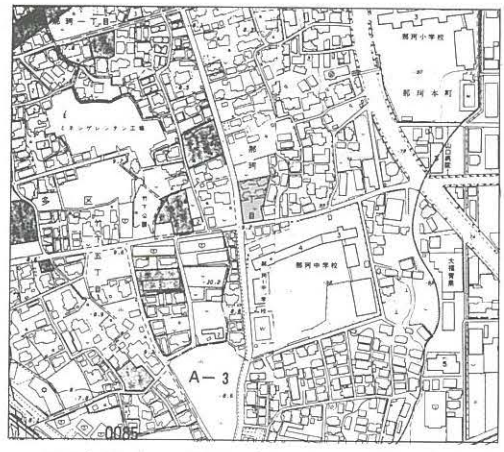
位置・環境　調査地は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地、中位段丘上の先端部近くに那珂遺跡群は位置する。第44次調査区は那珂遺跡群の南西西部にあたり、標高９ｍを測る。現況は木造家屋、畑で、遺構面は耕作土直下で確認された。後世の開鑿によりかなりの削平を受けている。

検出遺構　・６世紀後半：溝５条、耕作痕とみられる畝溝状遺構、その内SD－05・06溝は弧状にめぐる溝で、古墳の周溝の可能性がある。
・12世紀後半～13世紀前半：土壙墓２基、井戸１基、他に土壙13基、建物としてまとめきれない柱穴・ピット状遺構を多数検出した。
・16世紀末～17世紀初頭：南北方向の溝３条

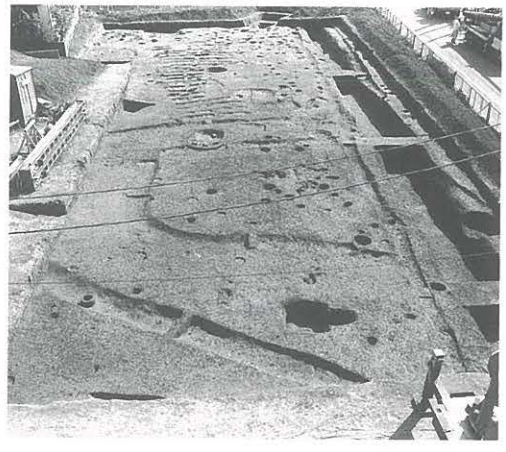
出土遺物　SD－05・06から須恵器杯、瑤、平瓶、提瓶が破砕された状態で出土した。土壙墓SX－03には、土師器小皿１・鍋１、龍泉窯青磁碗１・皿３、陶器鉢１、刀子１が、土壙墓SX－14には、瓦器椀１、小刀１が供献されていた。遺物は他に溝、柱穴から出土した。総数コンテナ12箱。

まとめ　第44次調査区の北側の第20次、東側の第27次調査区で今回の調査で検出された南北方向の溝01とほぼ同時期とみられる南北、東西溝が検出されており、これらは居館を区画した溝の可能性がある。

報告書刊行予定1994年度。



1．調査地点の位置（塩原38－A－３）


2．調査区全景（北から）

3．土壙墓（南から）

9329　比恵遺跡群第50次調査（HIE－50）

所　在　地　博多区博多駅南四丁目49　　調査面積　4,662m²
調査原因　商業ビル建設　　担　当　者　下村　智
調査期間　930809～940428　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　御笠川と那珂川に挟まれた標高６mの台地上に立地し、比恵遺跡群のほぼ中央部に位置する。学史的に有名な比恵の環濠集落のすぐ西側部分にあたる。調査地点は、戦前の区画整理でかなり削平され、表土下－0.2～0.3mで基盤の黄褐色ロームに達する。遺構はこの黄褐色ロームに掘り込まれている。

検出遺構　弥生時代から古墳時代を中心に近世までの多数の遺構を検出した。

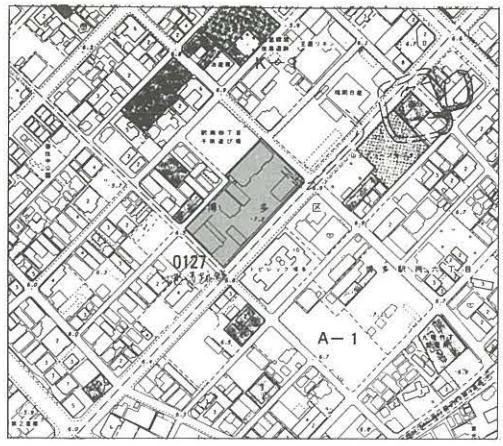
竪穴住居址57軒、掘立柱建物36棟、溝31条、柵１条、井戸41基、土坑55基、炉址５基、性格不明の土坑83基。

遺構は全面に分布し、東南側が特に密度濃く分布している。弥生時代には中期の貯蔵穴や大型円形竪穴住居、後期の大型掘立柱建物を検出したほか井戸も多い。古墳時代には前期の竪穴住居址群、後期の３間×４間の並び倉が３棟ある。

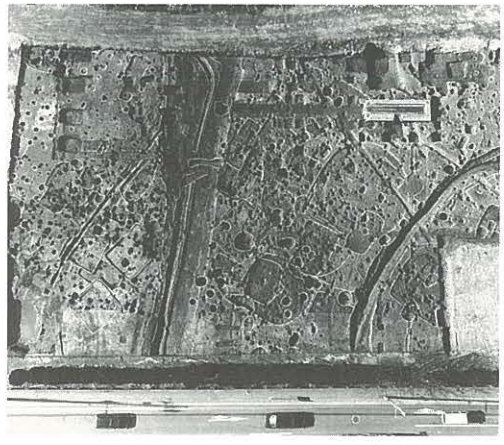
出土遺物　各遺構からコンテナ540箱の遺物が出土した。弥生時代中期から後期にかけての壺、甕、鉢などが多く、丹塗り土器を含む井戸からの一括遺物は資料的価値が高い。古墳時代では古式土師器の一括資料が重要である。特筆すべき遺物としては、中細銅戈と広形銅矛の鋳型片がそれぞれ各１個づつ出土している。

まとめ　今回の調査では、10m級の円型竪穴住居が４軒出土している。一番大きいものは、中期後半代で直径12.5mを測る。柱を３～４重に巡らし、中央部に土坑を持つ。後期では桁行10mの掘立柱建物も存在し、有力な集団の存在を想起させる。また、古墳時代後期の３間×４間の並び倉が３棟出土しているが、これは那津官家との関連が注目される。

なお、調査報告書は1995年度に刊行する予定である。



1．調査地点の位置（東光寺37－A－１）


2．調査区全景（南から）

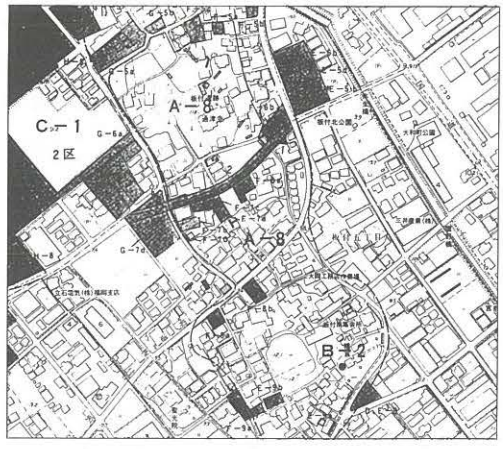
3．SC－119竪穴住居址（直径12.5m）（南から）

9330　板付遺跡第64次調査（ITZ－64）

所　在　地　博多区板付五丁目２－15　　調査面積　100㎡
調査原因　史跡整理に伴う遺構確認調査　　担　当　者　力武卓治
調査期間　930501～930530　　処　　置　埋め戻し

位置・環境　板付遺跡は昭和51年に国史跡の指定を受け、平成元年度から史跡整備に着手した。史跡西側の水田部分は板付遺跡弥生館の建設、弥生時代前期の水田復元などを済ませ平成４年６月から一般公開している。また、史跡東側は平成６年度の全面開園を目指して環濠集落を完全な姿で再現する整備工事を進めている。

この整備工事に並行して平成元年度から史跡地内と周辺部において遺構確認を継続して実施してきた。本年度の調査区は、外環濠の推定地と南台地の２地点である。

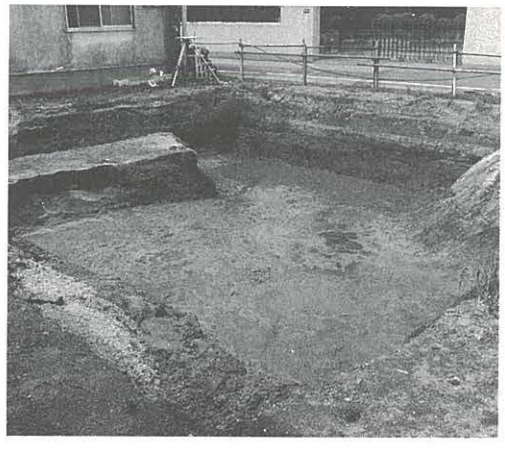


1．調査地点の位置（板付24－A－８）

検出遺構　外環濠は部分的な検出にとどまり推定の域を出ない。このため昨年度物理探査を実施し、もっとも可能性のある外環濠西南湾曲部を今回の発掘地点に選んだ。隣接する通学道路の安全対策上、また、湧き水に阻まれて充分な掘り下げが出来なかった。

出土遺物　弥生土器、石製穂摘具、木の実が出土した。

まとめ　堆積している土層は、砂と植物を含む粘質土の互層となっており、東側に傾斜している。物理探査では同じような解析結果であったが、掘り下げが途中で終わったために外環濠の確認までには至らなかった。


2．調査区全景（南西から）

9331　板付遺跡第65次調査（ITZ－65）

所　在　地　博多区板付五丁目７－68　　調査面積　500m²
調査原因　史跡整備に伴う遺構確認調査　　担　当　者　力武卓治
調査期間　930601～930815　　処　　置　埋め戻し

位置・環境　史跡板付遺跡は、北、中央、南の三つの台地とその東西に広がっている水田からなる。昭和26年以来の発掘調査で、北台地はおもに弥生時代の共同墓地が、中央台地では環濠集落が確認されている。一方、中央台地の環濠集落部より南500mの位置にある南台地は、これまで開発されることがなく、約2,000m²が畑として残っている。

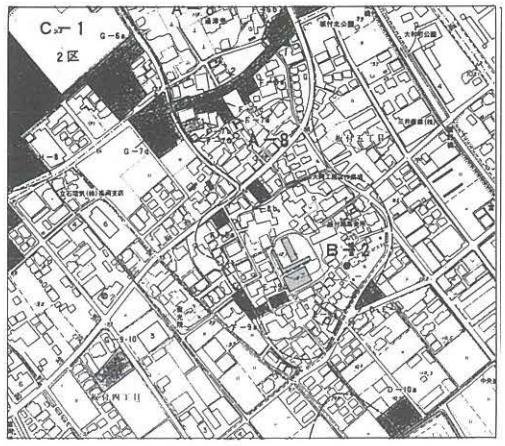
史跡地内の環境整備を進めるにあたり、南台地が弥生時代にどのような土地利用がなされているのか明らかにするためと平成３年度から遺構確認調査を実施している。

南台地縁は、11mの等高線が巡り上面は平坦になっている。平成３年度は台地西端に南北に１号トレンチ、中央部東西に２号トレンチを設定し、平成４年度は２号トレンチの南側を拡張した。貯蔵穴、井戸、竪穴住居など弥生時代中期から古墳時代前期の遺構が検出され、台地全面に遺構が分布していることが分かった。しかし、環濠集落と同じ弥生時代前期まで遡る遺構や遺物は発見されなかったので、今回は特に弥生時代前期の遺構確認を目的に台地中央部にトレンチを設定した。遺構確認調査という目的から全面調査ではなくトレンチ発掘にし、遺構の破壊を最小限度におさえるように努めた。

検出遺構　弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡３棟、ピット多数などを検出したが、今回も弥生時代前期の遺構、遺物は確認できなかった。

出土遺物　弥生土器、石器の他に竪穴住居跡から完形の土師器が多数出土し注目された。

まとめ　３次の発掘で、中央台地で環濠が掘削され集落が営まれる時期には、まだ南台地の利用は開始されていないことが明らかとなった。本格的に南台地が利用されるのは環濠が埋まり周辺に集落が拡散していく弥生時代中期になってからのことで、後期に至ってさらに竪穴住居が建ち並び集落としての姿を整えたものと考えられる。



1．調査地点の位置（板付24－A－８）

2．調査区全景（南から）

3．土器出土状況

9332　有田遺跡群第172次調査（ART－172）

所　在　地　早良区小田部五丁目61
調査原因　共同住宅建設
調査期間　930823～931016
調査面積　717m²
担　当　者　杉山富雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　八つ手状に開折されて残る中位段丘の末端近くの中央部、台地の平坦部と西側の傾斜面を含む部分に位置する。確認面のAso 4 火山灰は西側の斜面部では、クロボク状の表土、火山灰上部の粘土質部分が残っていた。もっとも高い東側の現地表で標高12mの高さである。

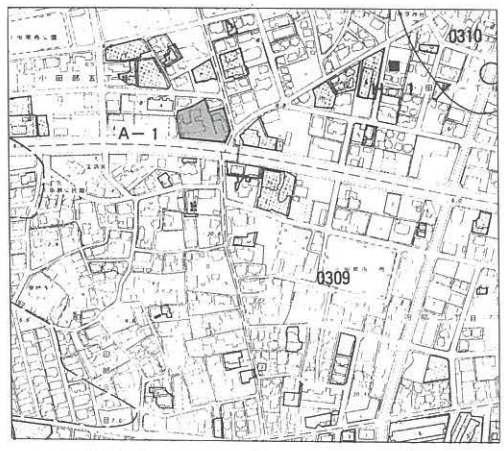
検出遺構
・弥生時代(中期)：竪穴住居２基
・古墳時代(後期)：竪穴住居５基、掘立柱建物１棟
・中　　世：掘立柱建物２棟

遺構は、斜面にかかる西側の部分で殆どが検出され、台地平坦部と考えられる場所では、わずかに小穴を検出したのみである。竪穴住居もより東側で平坦部に近い位置のものは遺存状態が不良である。弥生時代の竪穴住居は、ともに平面形が円形で、全周が遺存する１基は、径６mで４本柱の建物と復原できる。古墳時代後期の竪穴住居は隅丸の方形で、竈をもち、４本柱の住居である。古墳時代後期とする掘立柱建物は、総柱で２間×２間を復原できる。柱穴掘型、柱痕跡とも規模が大きい。他に小規模な柱穴で構成される２間×３間の掘立柱建物、更に時期は判然としないが、１間×２間の規模を復原できる掘立柱建物を検出している。

出土遺物　遺物は、各遺構から少量ずつ出土した。土器がほとんどで、竪穴住居出土資料をのぞいていずれも、細片・小破片の資料である。中期以降の弥生式土器、土師器が多い。石器には、縄文時代晩期に属するとみられる資料が含まれる。

総量ではコンテナ３箱ほどの分量となる。

まとめ　２間×２間の掘建柱建物は、総柱建物である。その柱穴掘型、柱痕跡とも規模が大きいもので、有田台地のいくつかの地点に群在する倉庫群との関連で注意される。



1．調査地点の位置（原82－A－１）

2．西半調査区全景（東から）

3．竪穴住居４（東から）

9334　比恵遺跡群第51次調査（HIE－51）

所　在　地　博多区博多駅南四丁目86　　調査面積　1,401㎡
調査原因　バス営業所新設　　担　当　者　白井克也
調査期間　930906～940309　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　那珂川・三笠川に挟まれた平野に位置する比恵遺跡群の中央部に位置し、第50次調査地点に北接する。標高は約７ｍで、地表下70㎝程度で鳥栖ローム層に達する。

検出遺構　竪穴住居跡32軒、掘立柱建物３棟、井戸12基、溝９条、土坑、柱穴多数が確認された。

竪穴住居跡は、弥生時代中期から古墳時代前期に及ぶものであり、円形、小判形、方形等の住居跡が密集して検出された。

掘立柱建物跡は３棟が確認されたが、いずれも弥生時代に属するものと思われる。

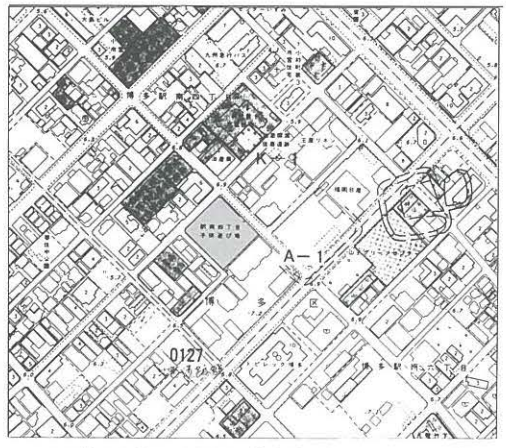
井戸12基のうち11基は、弥生時代中期から古墳時代前期までのもので、Ｉ区に密集していた。直径１～２ｍ、深さ２～４ｍ程度で、底に土器や木製品が廃棄されていた。残る１基は古代のものであるが、調査区の端に位置し、崩落の危険があったので、完掘していない。

溝には、弥生時代から古墳時代前期、古墳時代後期、古代、近世のものがある。弥生時代の溝には、「コ」の字形に並んでいるように見えるものもあるが、性格は不明である。古墳時代前期の溝には、山陰系土器をはじめとする大量の土器が廃棄されていた。近世の溝は、当時の道路に関わるものとみられる。

土坑も、竪穴住居跡等に並行する弥生時代中期から古墳時代前期にかけてのものが多いが、近世の土壙も１基確認された。

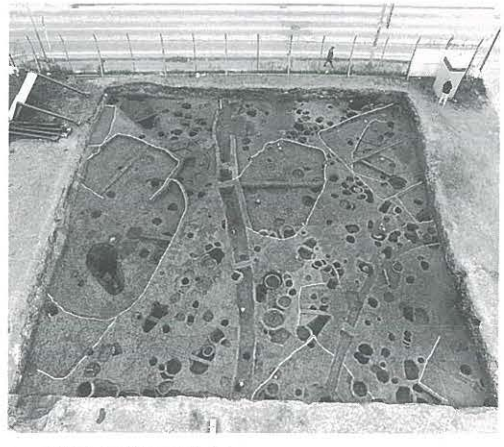
出土遺物　以上の調査過程で出土した土器、石器、木製品、鉄製品は150箱におよぶ。

まとめ　今回の調査地点では、弥生時代中期から古墳時代前期に継続的に集落が営まれたが、古墳時代中期には人間の痕跡が一時途絶え、古墳時代後期以降、断続的にこの土地の利用が行なわれたことが確認された。



1．調査地点の位置（東光寺37－A－１）

2．調査区Ｉ区全景


3．調査区Ⅲ区全景

9335　井尻B遺跡群第4次調査（IZB－4）

所　在　地　南区井尻一丁目747－1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　930906～931014
調査面積　390m²
担　当　者　山口譲治・菅波正人
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は、那珂川中流域の那珂川と御笠川支流の諸岡川に挟まれた須玖丘陵の先端部の標高12mから18m間に位置している。本調査地は、井尻B遺跡群の北端部の標高12.5m前後に位置している。調査前は盛土造成が行なわれていた。

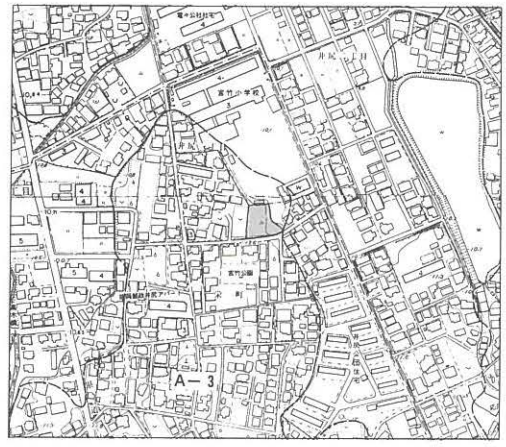
調査は、50cmから60cmの盛土および耕作土を重機で除去することから始めた。その結果、調査区西側では鳥栖ロームを基盤とした遺構が検出できた。なお、調査区東側は削平を受け、地表下1.4m前後で遺構を検出した。

検出遺構　・弥生時代：土壙3基
・弥生時代後期～古墳時代初頭：竪穴住居址12基・井戸1基
・柱穴多数

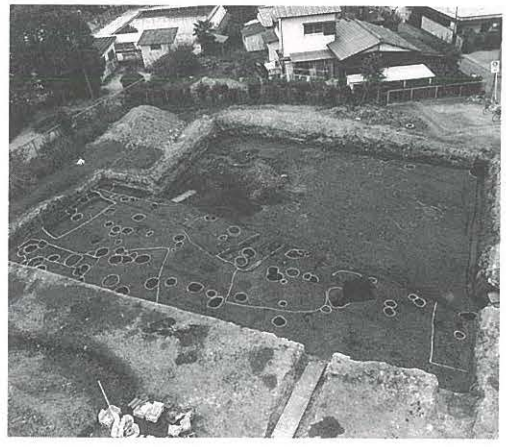
出土遺物　本調査では、コンテナ15箱の遺物が出土した。遺物は遺構検出時および竪穴住居址などの各遺構から出土した。出土遺物は、甕形土器、鉢形土器、壺形土器などの弥生土器、甕形土器の土師器、鉄器、勾玉、ガラス玉や石器などがある。

まとめ　本調査地は、井尻B遺跡群の北端部に位置し、削平を受けていない調査区西側では、密集した状態で遺構が検出できた。検出遺構としては、弥生時代中期の貯蔵穴、同時代後期中葉の井戸、同時代後期後半から古墳時代初頭の竪穴住居址と掘立柱建物などの柱穴がある。

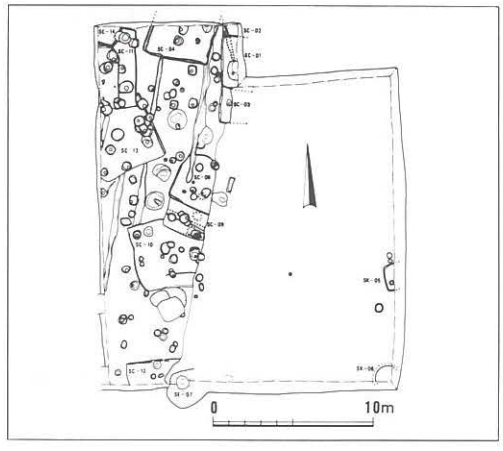
1994年度報告書発行予定である。



1．調査地点の位置（井尻25－A－3）



2．調査区全景（南西から）



3．遺構配置実測図

9336　今宿遺跡群第４次調査（IMJ－４）

所　在　地　西区今宿地内
調査原因　水道管理設工事
調査期間　930603～930604
調査面積　185㎡
担　当　者　井澤洋一・長家　伸
処　　置　調査後破壊

位置・環境　当該地は福岡市西部の今津湾に面する今宿砂丘上に立地する。この砂丘は長垂山と今山を結び、国道202号線に沿って、東西に長さ２km、最大幅は約200mをはかる。市営住宅の建設や道路工事に伴って、弥生時代から平安時代までの遺構や遺物が出土している。特に、今山遺跡との関連から石斧未製品が多く出土し、且つ、細形銅剣を副葬した木棺墓が発見されている。

検出遺構　県道志摩・前原線上において、埋蔵文化財課との協議事項のないまま、既に水道管の埋設工事が進められており、夜間の布掘り掘削工事中に甕棺が発見された。玄洋公民館主事の大内氏の通報により夜間立会調査を実施したが、他には遺構・遺物を検出できなかった。

・弥生時代前期：甕棺墓１基

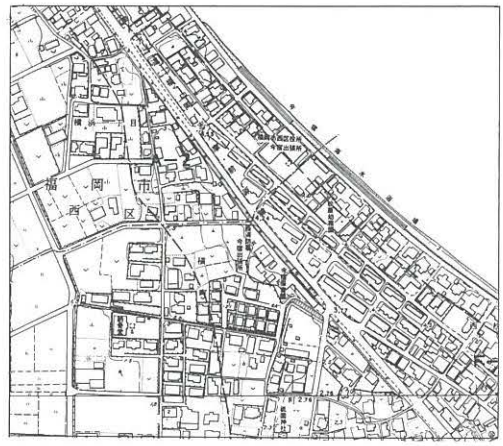
出土遺物　甕棺は既に取り上げられており、上甕は破片しか存在していない。

型式は金海式で、上甕は頸部以上をうち欠いており、呑口式の合口方法をとっている。下甕は完形で、底部附近に穿孔が１ケ所ある。

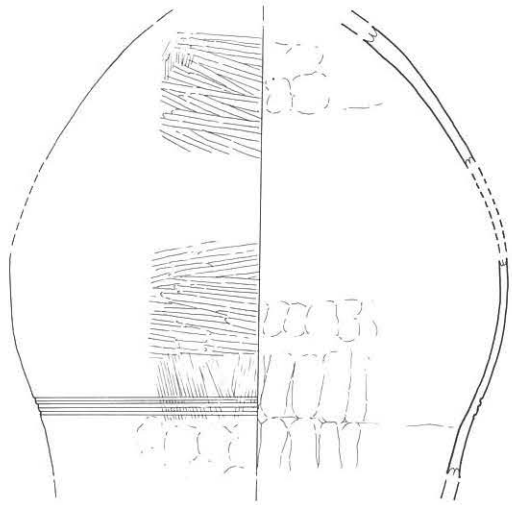
・コンテナ　１箱
・甕　　棺　１対

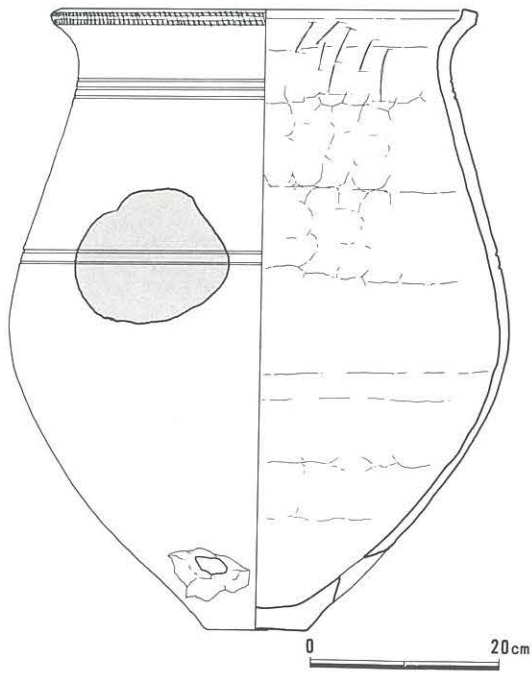
まとめ　第２次調査では弥生時代中期から後期初頭までの小型の甕棺墓を検出しており、また、市営住宅の建設工事においても古墳時代の甕棺墓や石棺墓が発見されていることから、この地域周辺において弥生時代から古墳時代までの大規模な墓地が形成されていたことが推測できる。

報告書は1993年度に刊行済み。



1．調査地点の位置（今宿112、横浜111）





2．出土甕棺実測図

9337　女原上ノ谷製鉄址第１次調査（MBU－１）

所　在　地　西区女原字浅鹿谷378－２
調査原因　土取り
調査期間　930906～930918
調査面積　220m²
担　当　者　池田祐司
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は高祖山から糸島平野に延びる支尾根が枝分かれした先端部に位置する。約100m南で分岐する尾根上には、６世紀後半を中心とした徳永古墳群H群が分布する。調査地点は西側の谷にむかった斜面で、10度から30度の傾斜を持つ。標高50mを測る。

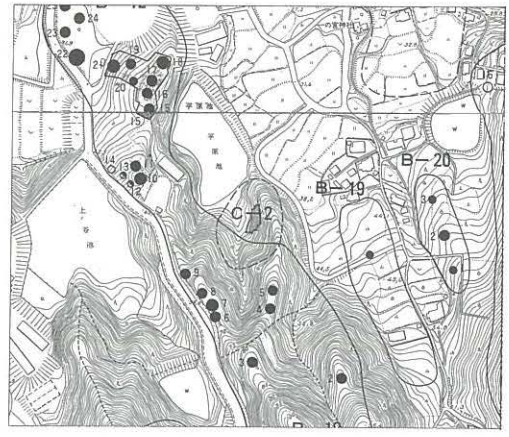
検出遺構　土坑９基

表土直下で斜面をテラス状に成形したものと、斜面がゆるんだ個所に掘りくぼめた土坑、焼土坑を検出した。いずれも暗灰色の腐食土を覆土に含む。SK－001・005からは鉄滓が出土したが、少量であり炉等の構造はない。

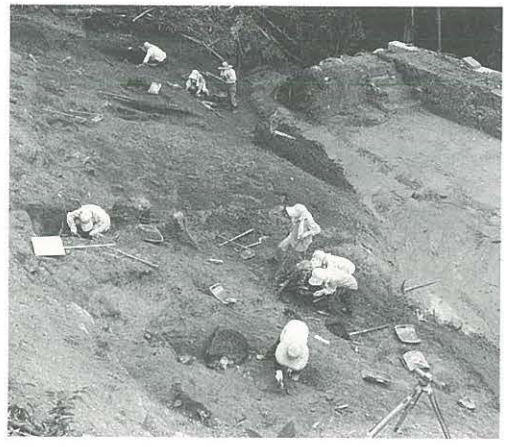
出土遺物　SK－007から叩き調整痕を持つ土師質の土器が、SK－001・005から少量の鉄滓が出土している。量はコンテナケース１箱である。

まとめ　製鉄関連遺構と明確に判断できるものは検出できなかった。鉄滓は少量ではあるが出土しているので周囲に存在することが予想される。また、土坑から６世紀後半と思われる遺物が出土し、製鉄遺構、古墳群との関連が注目される。

報告書は1995年発行予定である。



1．調査地点の位置（飯氏121－C－2）


2．調査区全景（北から）

3．焼土坑土層

9338　有田遺跡群第173次調査（ART－173）

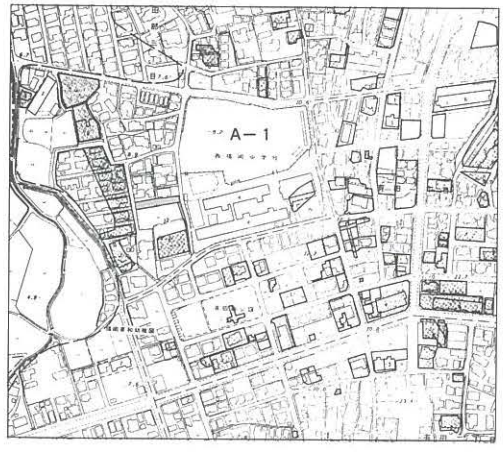
所　在　地　早良区小田部三丁目189－1,198　　調査面積　280㎡
調査原因　道路建設　　担　当　者　荒牧宏行
調査期間　930916～931020　　処　　置　調査後消滅

位置・環境　本調査地点は有田遺跡群の西側縁辺部に位置する。北西に派生していく丘陵尾根筋に占める第170次調査（市営住宅建設に伴う調査）につづく道路部の調査である。現況は畑地で、旧耕作土の上に1mの客土が施されている。遺構検出は黄褐色ローム（鳥栖ローム）で行なった。ローム面は調査区内においては傾斜がほとんど見られず、標高10.80mを測る。上層に約20cmの包含層が堆積する。

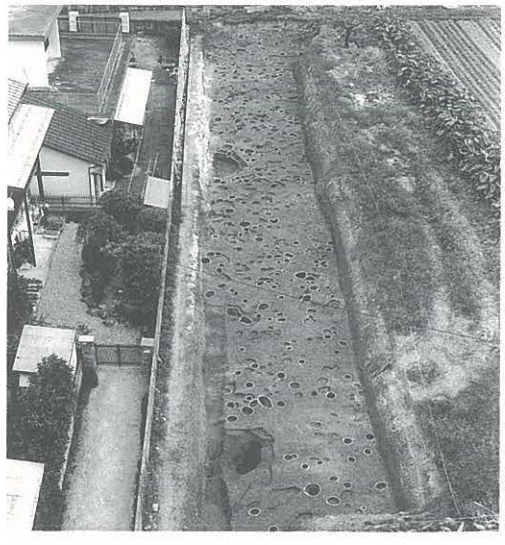
検出遺構　柱穴が多数検出されたが、削平が著しく竪穴住居は見いだせない。時期は弥生時代中期と中世が主体を占めているものと考えられる。奈良時代の井戸1基が検出された。方形の掘り方で、下部に径1mの円形井筒の痕跡を見いだした。

出土遺物　総量はコンテナ2箱分。柱穴からの出土で弥生土器と土師器の細片が多い。

まとめ　第170次調査で検出された弥生時代中期、中世集落の広がりを把握することができた。削平され竪穴住居が消滅しているが、柱穴は多く検出され、本来、遺構の密度が濃い。



1．調査地点の位置（原82－A－1）


2．調査区全景

3．井戸完掘状況

9339　次郎丸遺跡群第３次調査（JRM－３）

所　在　地　早良区次郎丸四丁目地内　　調査面積　560㎡
調査原因　道路拡幅　　担　当　者　中村啓太郎
調査期間　930921～931121　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は、早良平野を北へ流れる室見川中流域の東岸に位置する。道路をはさんだ北部で第１次調査、隣接する北東部で第２次調査が行われている。現況は駐車場となっていた。

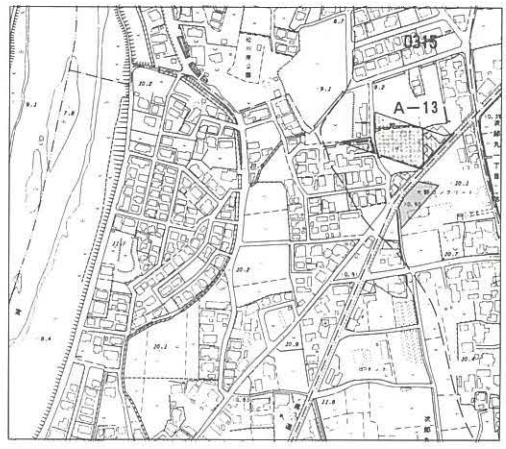
検出遺構　・古墳時代前期：溝　　１条
・中　　世：掘立柱建物　３棟＋α
溝　　数条
土坑　　６基
ピット　　多数

古墳時代前期の溝（10号溝）は調査区西で流れを北へ変える。この溝は第１次調査で検出された溝と接続するものとおもわれる。また、大量の土師器を出土し、祭祀が行われた可能性がある。中世の掘立柱建物は現時点で３棟を確認しているが、さらに増えるとおもわれる。第２次調査で検出された建物群と方向をほぼ同一にとり、一連のもののようであるが、若干時期が新しくなるようである。

出土遺物　遺物は総量でコンテナ30箱程出土したが、大半は10号溝出土の土師器である。高坏、坩等の器種が目立つ。また、土器に混じり鉄滓、羽口、研石が多くみられた。他に掘立柱建物、溝等に伴い青磁、白磁等が出土した。

まとめ　10号溝は古墳時代前期の溝における祭祀が行われたことをうかがわせる。廃棄された土器群と製鉄関連遺物との関連が興味深い。また、土器の出土状況から同時代の集落は溝の北部に存在するとおもわれる。中世の集落については調査区内がほぼ南限とおもわれる。

報告書は1996年発行予定である。



1．調査地点の位置（戸切092－A－13）

2．調査区北半部

3．調査区南半部

9340　有田遺跡群第174次調査（ART－174）

所　在　地　早良区小田部二丁目194，195　　調査面積　143㎡
調査原因　個人専用住宅兼共同住宅建設　　担　当　者　杉山富雄
調査期間　931007～931023　　処　　置　調査後破壊

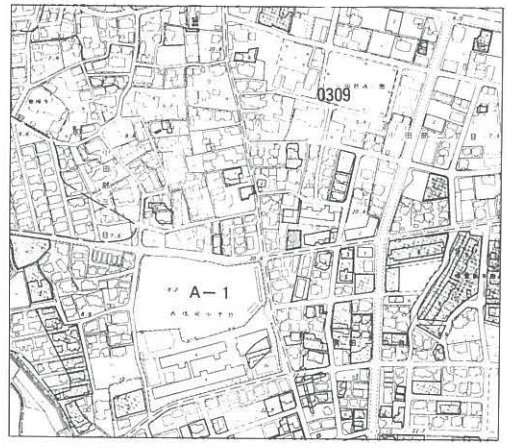
位置・環境　Aso 4 火山灰が形づくる有田台地を開折する谷の谷頭部付近の、やや南方向の傾斜をもつ地点に立地する。表土はクロボク様の黒色土で、現地表面で標高11m程である。

検出遺構　・弥生時代（中期）：竪穴住居１棟
・中　　世：掘立柱建物１棟、溝

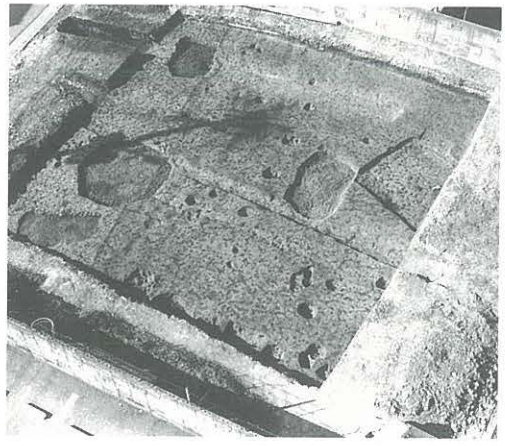
遺構は、0.3m程の表土下、Aso 4 火山灰層の上面で検出した。Aso 4 火山灰層は上部を失っている。竪穴住居は隅丸の方形で、柱穴を床面では検出できない。壁溝をもっている。中央部床面近くに焼土と１個体分の土器を残している。土器から弥生時代中期を考られる。鉇も出土している。掘立柱建物は、２間×３間を復原できる。柱穴は、浅い。溝は、調査区の南辺部をほぼ東西方向に走る。確認できた部分での幅が1.5m程である。断面では逆台形上を呈する。細部は不整な形状で、長期間露出した状態にあったことを窺わせる。覆土はクロボク様で、全体に一様である。遺物は、奈良時代以降中世までの資料が出土している。

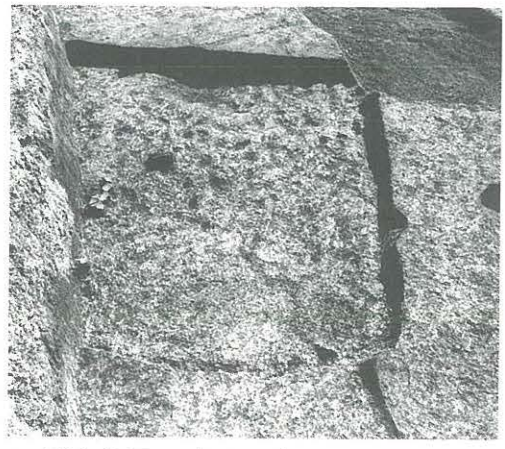
出土遺物　竪穴住居、溝以外からの出土遺物は、ごく少量である。土器の小破片、細片がおもな遺物である。竪穴住居からは１個体を復原できる資料が出土した。

まとめ　本調査地点は、表土の保存が良好であったが、Aso 4 上に風成層は残されていない。溝は、更に東に離れた調査地点において、これと平行するような位置関係で検出されており、この間直線状の道路を推定できよう。



1．調査地点の位置（原82－A－１）


2．調査区全景（北から）


3．竪穴住居５（西から）

9341　蒲田部木原遺跡第３次調査（KHH－３）

所　在　地　東区大字蒲田字部木原397外　　調査面積　2,900㎡
調査原因　建て貸し（倉庫建設）　　担　当　者　大庭康時
調査期間　931107～940531　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、粕屋平野の東縁に、東から西に張り出した舌状台地上に位置する。頂部から南向き斜面にかけて調査した。調査地点の南には、浅い谷を挟んで、弥生時代末期の墳丘墓とされる上大隈平塚古墳が望まれる。

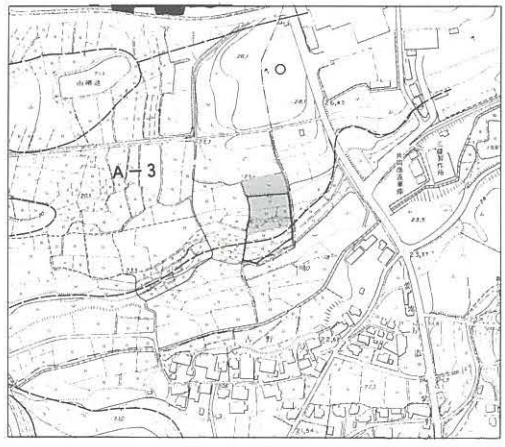
検出遺構　検出したのは、弥生時代後期から奈良時代にかかる竪穴住居跡34軒以上、奈良時代前後の掘立柱建物25棟以上である。

出土遺物　出土遺物は、弥生式土器・土師器・須恵器などがパン箱34箱、黒耀石チップ・石鏃・滑石製石製品やその未製品などが、１箱ほど出土した。

弥生時代後期後半の竪穴住居跡廃絶に伴い、大量に土器が廃棄されており、粕屋平野の弥生時代後期後半の土器を知るうえで、格好の資料を提供してくれよう。また、４世紀代の３軒の竪穴住居跡から、滑石製臼玉とその未製品が出土した。粕屋平野の縁辺部には、点々と滑石で玉作りをした遺跡が発見されており、本調査地点もその一翼を占めるものであろう。

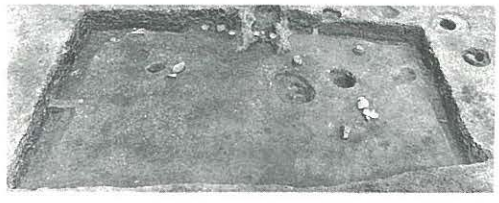
掘立柱建物は、大きく４方位にまとめることができる。それぞれのグループ内での規則性はあるが、柱間寸法・柱筋などは一致せず、一時に建てられたものとは考えがたい。それぞれの建物群が、時間幅をもって建て継がれたものとみられる。

まとめ　周辺の和田部木原遺跡や蒲田部木原遺跡第２次調査などでも、整然とした掘立柱建物跡が検出されており、周辺地点を含めた大規模な建物群が営まれていた可能性を考えなくてはならない。



1．調査地点の位置（蒲田２－A－３）

2．調査区全景


3．SC－32（南から）

9342　博多遺跡群第82次調査（HKT－82）

所　在　地　博多区下呉服町357－1外
調査原因　商業ビル建設
調査期間　931018～931222
調査面積　355㎡
担　当　者　宮井善朗
処　　置　調査後破壊

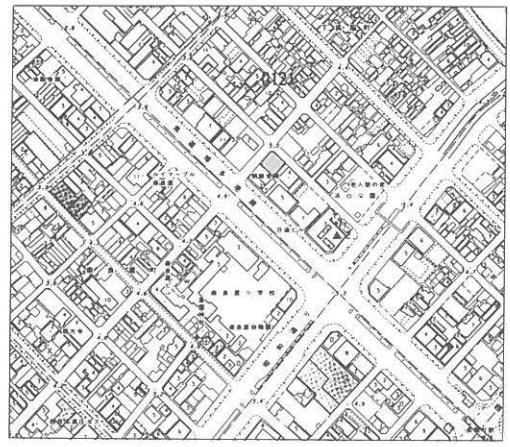
位置・環境　博多遺跡群第82次調査地点は博多遺跡群を構成する3か所の砂丘のうち、最北部に位置する沖の浜砂丘に立地するが、調査地点では風成砂層は認められず、地山砂層は海成砂と考えられる。試掘の結果、中世末から近世にわたる遺構、遺物が認められ、また、元寇防塁推定線の近くにもあたるため、発掘調査を行なった。

調査地点は現地表面から120cmほどまで近世後期以降に堆積した包含層が認められ、その下層に中世末から近世初頭(16世紀から17世紀初頭)頃の整地層と思われる層が認められた。調査期間等の関係からこの層の上面までを重機によって除去し、整地層上面およびその下層の地山砂層（海浜砂層）上面で遺構を検出した。

検出遺構　・近　世　後　期：井戸、土壙、柱穴
・中世末～近世初期：石組遺構、土壙、柱穴

出土遺物　本調査では、コンテナ59箱の遺物が出土した。出土遺物としては、明代の青花、李氏朝鮮の陶磁器、土師器、瓦類などがある。

まとめ　調査地点は近世初頭の博多の豪商伊藤小左衛門屋敷跡の伝承地に近く関連遺構の検出が期待されたが、残念ながら認められなかった。しかし、該期頃に大規模に居住地を拡大していることは確認できた。また、中世には聖福寺古図(調査地近くの大博通りに展示）に見られる海岸べりの作業場のような地点で、小規模な作業小屋が点在していたものと思われる。



1．調査地点の位置（千代博多48－A－Ⅰ）

2．調査区上面全景

3．下面出土石組遺構

9343　東那珂遺跡群第１次調査（ENK－１）

所　在　地　博多区東那珂一丁目423　　調査面積　2,400m²
調査原因　ビル建設　　担　当　者　吉留秀敏・佐藤一郎・吉武　学
調査期間　931015～940315　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は福岡平野東部の御笠川東岸の沖積地上にある。標高は７mを測る。遺構面の標高は約5.5mで、調査区内で西に緩く下っている。

検出構造　遺構は調査区の東寄りに密集し、西側は御笠川の旧流路内に含まれる。検出遺構は以下のとおり。

・弥生時代終末～古墳時代初頭：竪穴住居跡１、土坑１
・古　代：掘立柱建物５、土坑２、溝８条、井戸１、木棺墓１、包含層
・中　世：水田面１、土坑３、井戸１

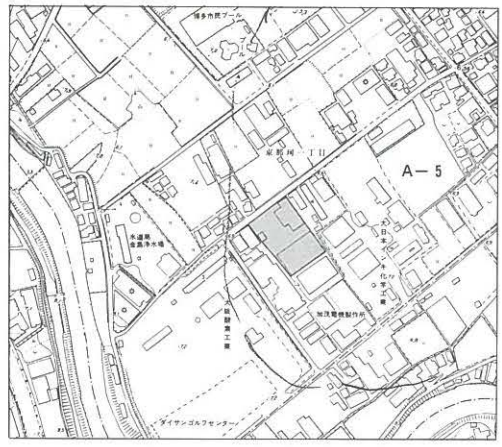
出土遺物　コンテナ約20箱の遺物が出土した。おもな遺物は、竪穴住居跡から破鏡１点が出土。単夔鏡の一種と思われるが、国内に類例はない。穿孔している。

土坑から底部に「屎丸」と墨書した土師器坏が出土。また、包含層から土師器・須恵器・瓦や中国産陶磁器等が多量に出土。陶磁器は越州窯青磁が大半を占める。

まとめ　集落の端部もしくは出小屋とか思われる住居跡から中国鏡が出土した。

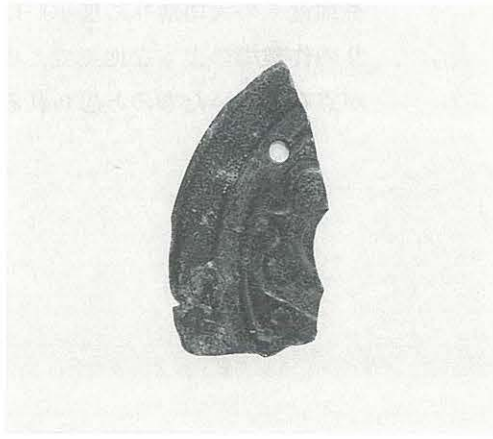
道路の側溝と思われる平行する溝が調査区を南北に、軸をほぼ磁北にとって抜けている。道路幅は２m弱で、集落の間を結ぶ里道のようなものであった可能性がある。掘立柱建物はすべてこの道路と方向を等しくして建てられており、道路には重ならない。また、越州窯青磁、墨書土器、布目瓦などが出土しており、何らかの官衙に関わる集落の一部である可能性がある。

水田跡が中心で、13世紀頃の遺物が出土した。この頃この一帯が水田化され、御笠川の治水などにより、以後継続して水田としての利用を受けたものと思われる。



1. 調査地点の位置（雀居23－A－５）

2. 調査区全景



3. 出土破鏡

9344　博多遺跡群第83次調査（HKT－83）

所　在　地　博多区奈良屋町27－１外　　調査面積　1,021㎡
調査原因　商業ビル建設　　担　当　者　杉山富雄
調査期間　931101～941001　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　博多遺跡は博多湾奥に発達した砂丘列上に立地する遺跡である。今回調査地点はそれのうち、もっとも海側に生成した砂丘の頂部付近に位置している。現地表面で標高5.5mの高度をもつ。

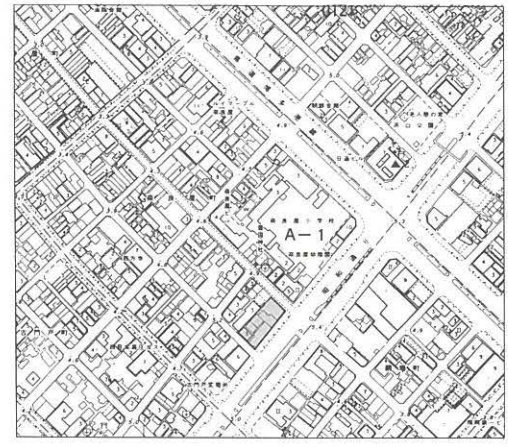
発掘調査は次年度にまたがり、本年度は調査対象地の東半部についての発掘調査をおこなった。

検出遺構　地表下1.4～1.7mまでを機力により鋤き取った位置から調査を開始した。もっとも遺存状態の良好な東部分では地山砂丘砂層面までに３部層に分けられる１m程の人為的な堆積層、遺構が認められ、各層理面を遺構確認面として調査をすすめることとした。掘り下げに際しては、グリッドを基準に土層断面を観察しながら進めた。結果として、第２面の遺構の調査と、一部第３層の掘り下げまでが本年度の調査となった。

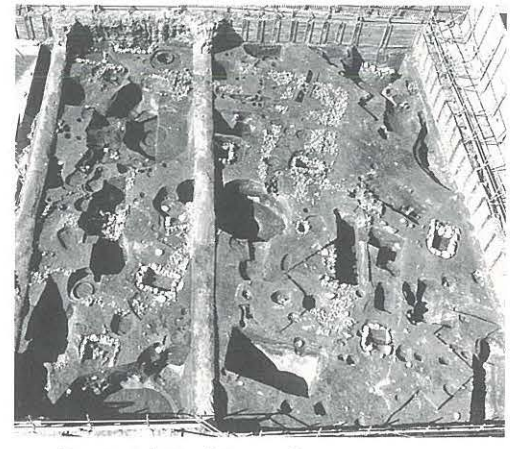
第１面検出遺構：第１層を掘り込む遺構である。石組の土壙と溝状の掘型に礫を詰めた暗渠状の遺構が特徴的である。掘立柱柱穴が多数検出されたほかに、礎石も遺存していた。焼土で埋める大規模な土壙も注意される。出土遺物から、16世紀～17世紀を中心とする時期のものと考えられる。

第２面検出遺構：第１層により埋め込まれた遺構を含め、第１層除去後に検出した遺構である。掘立柱柱穴が多数検出されたほかに、石組、瓦を埋め込むことで立ちあげる基壇、連続した柱穴が溝状を呈する棚列が注意される。出土遺物から15世紀を中心とする時期が考えられる。

まとめ　棚列、暗渠状の遺構などの軸の方向をたどるといずれも真北から30°前後西へ振れてほぼ一致しており、造作について一定の規制のあったことが考えられる。



1．調査地点の位置（千代博多48－A－１）



2．第１面遺構（南から）

3．石組みの土壙10（東から）

9345　福岡城第23次調査（FUE－23）

所　在　地　中央区赤坂二丁目270－7
調査原因　公園建設
調査期間　931213～940228
調査面積　220.3m²
担　当　者　井澤洋一
処　　置　調査後保存・復元

位置・環境　調査地点は、福岡城南側の赤坂山を切り通して作られた堀の南西部分に相当し、第6号堀の東側に位置する。切出櫓が北に接している。現状は宅地であるが、明治時代に川島女子洋裁学校を建築するために埋め立てられており、最近まで学徒援護会の建物が存在した。

検出遺構　堀の深さは調査区の東側では約6m以上を測り、隣接のレストランの工事ではH鋼が約13mに達したといわれる。西側の6号堀に接した部分では深さ約6mで岩盤に当たった。

また、絵図では堀の北側（城側）に石垣が築かれているが、今回は検出することができなかった。後世の土留めの石垣を長さ16mに亘って検出した。

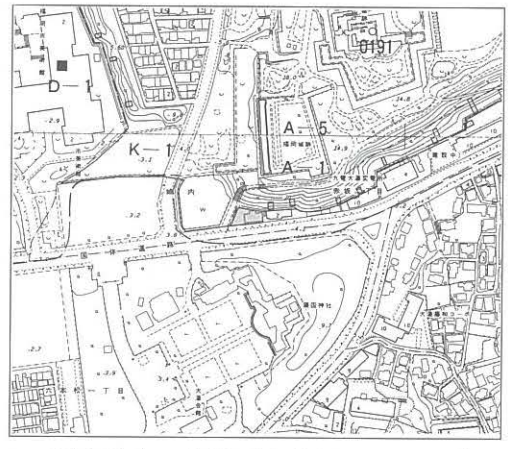
・江　戸　時　代：堀
・明治～昭和時代：石垣

出土遺物　遺物は堀の埋土、および黒色の腐食土から出土した。平瓦・丸瓦、ガラス瓶などがある。瓦類のなかには製作所銘を印したものもあり、江戸時代から大正・昭和時代までの遺物を含んでいる。

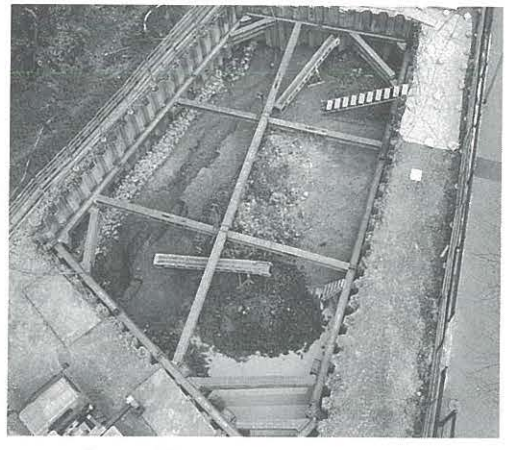
・コンテナ　10箱

まとめ　堀が予想以上に深く、安全対策上の制約から当初に目的とした石垣や堀の規模を確認することができなかった。しかし、赤坂山の掘削に伴って堀を構築する際に、当時は入り江状を呈していた大濠の海水の流水についての対策は当然、検討されるべき課題であったと考えられる。今回の調査では堀の深さに極端な開きがあることから、調査区の西側（6号堀）に堰堤が築かれていた可能性は充分に考えられる。

報告書は1994年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（六本松61－A－1）


2．調査区全景

3．石垣全景

9346　大原C遺跡群第Ⅰ次調査（OHC－Ⅰ）

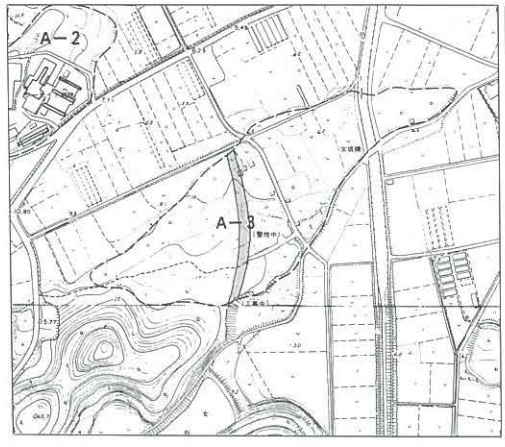
所　在　地　西区今津3750－1外
調査原因　道路建設
調査期間　931028～940124
調査面積　1,700m²
担　当　者　荒牧宏行
処　　置　調査後消滅

位置・環境　海岸部へ派生していく丘陵部に位置する。標高6.4～32mの範囲で山林部と畑地、水田を含む。山林部は丘陵尾根線より南側へ谷落ちする急傾斜面で、畑地は雛壇状に造成されている。丘陵部（山林・畑地）は表土下約30cmで地山の赤褐色粘質土、沖積地の水田部は耕作土下約90cmで明黄褐色砂礫層の基盤に達する。

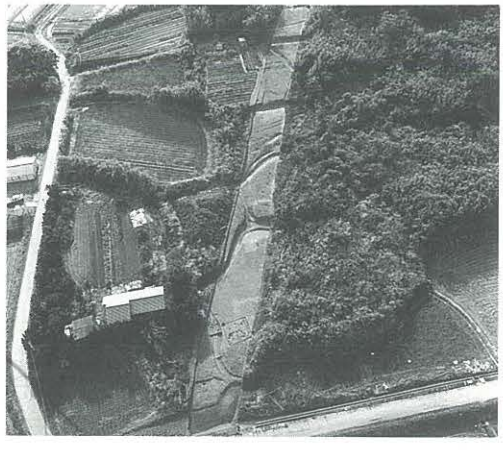
検出遺構　・古墳時代：竪穴住居跡1棟
・中世：溝6条、掘立柱建物跡4棟、井戸1基
丘陵の山林部では急斜面の為、遺構はないが、調査区範囲外の尾根線上に新たに古墳3基を発見した。緩斜面では削平のため遺存は悪いが、中世の柱穴、溝等が散在する。掘立柱建物跡は一部のみの検出であるが、2×3間が主体となろう。丘陵裾の沖積地との境付近で5世紀代の竪穴住居跡がほぼ完全に検出された。立て替えの跡が見られ、壁際にカマド焼土が認められた。沖積地（水田部）からは桶の井筒を有す井戸や6世紀後半以降の遺物とともに柱穴、溝が検出された。

出土遺物　中世の遺物が大半を占め、総量はコンテナ7箱分。輸入陶磁器、黒色土器、瓦器、土師皿等である。特筆すべきものに、丘陵部から頁岩製のポイント、5世紀代の竪穴住居跡から滑石製の石錘が出土。

まとめ　限られた道路部分の調査で、既往の調査もないため全容は測り知れないが、古墳時代と中世の集落跡の一端が見られた。丘陵部においては古墳群が発見され、集落との関連が留意される。また将来、縄文時代の遺構が発見される可能性もある。



1. 調査地点の位置（大原128－A－3）


2. 調査区全景

3. 竪穴住居跡

9347　那珂遺跡群第46次調査（NAK－46）

所　在　地　博多区竹下五丁目432－2　　調査面積　250m²
調査原因　共同住宅建設　　担　当　者　加藤隆也
調査期間　931101～931206　　処　　置　調査後破壊

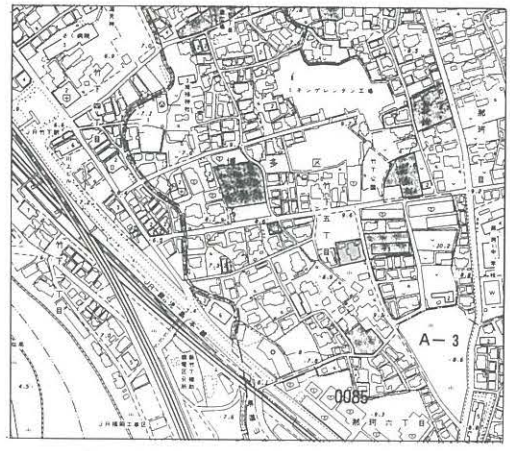
位置・環境　調査地は那珂遺跡群の西部にあたる。現況は宅地であり、20cm前後の表土を除去すると20cm前後の遺物包含層となりその直下の鳥栖ローム上面にて遺構が確認された。標高8.3mを測る。周辺の調査は、第9・41次調査がある。

検出遺構　・弥生時代中世期後半：井戸1基
・古墳時代後期：竪穴住居址7基、溝1条、柱穴群
・古　代：竪穴住居址2基、土壙2基、柱穴群

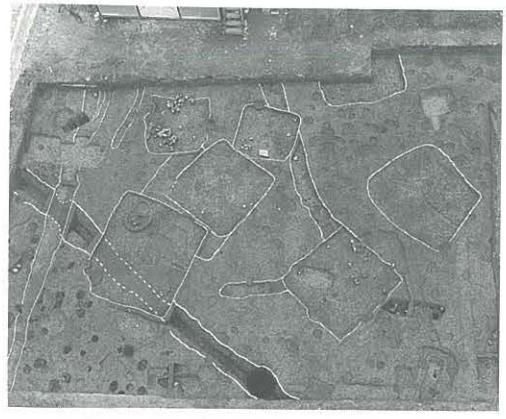
出土遺物　コンテナ15箱程度。弥生時代の土器類、石器。古墳時代の須恵器、土師器など。この他に奈良時代の瓦片が住居址内から数点出土している。

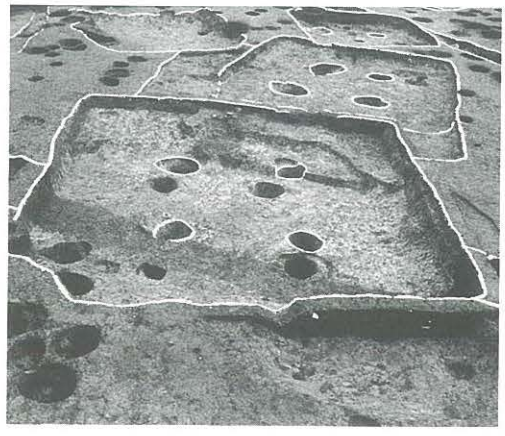
まとめ　調査区内では、鳥栖ロームを基盤とする台地に弥生時代・古墳時代・奈良時代の遺構が確認された。しかし、調査区周辺の調査と地形から大地の落ちは近いと考えられる。古墳時代後半期の竪穴住居址は第9次調査でも検出されており、その広がりが明らかになった。

報告書発行は1995年度を予定している。



1．調査地点の位置（塩原38－A－3）


2．調査区全景（南から）


3．SC－01（南から）

9348　東入部遺跡群第８次調査（HGI－８）

所　在　地　早良区大字東入部地内　　調査面積　218㎡
調査原因　歩道建設　　担　当　者　榎本義嗣
調査期間　931109～931126　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査は荒平山西麓の緩斜面上に位置する。隣接地では第４・５次が実施されており、弥生時代、奈良時代～平安時代の遺構が多数確認されている。

遺構は標高34～36mを測る黄褐色土上面で検出され、地形は北側に緩く傾斜する。

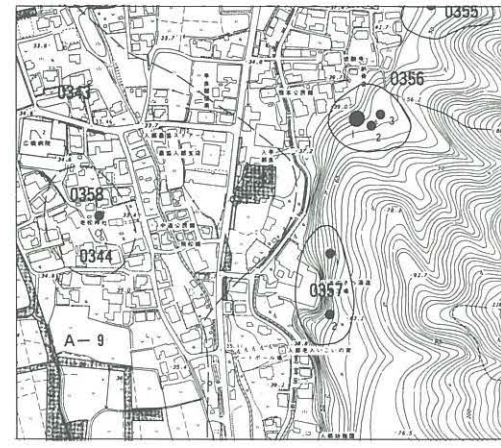
検出遺構　・弥生時代中期：竪穴住居１軒、ピット群
・奈良時代～平安時代：掘立柱建物４棟、旧河川２条、土坑、溝、ピット群

竪穴住居は大半が調査区外に延びるため詳細は不明であるが、円形プランを呈し、壁際に周溝が巡る。掘立柱建物は調査区が狭長なため全容は明らかでないが、うち１棟は２間（？）×３間と考えられ、柱穴掘方は径60～70cmを測る円形プランである。各柱穴からの出土遺物はないが、本調査に北接する第４次調査で検出された８世紀代の建物群と主軸方位を同じくする。旧河川は第４次調査の延長で、北西方向に流路をとる。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ14箱である。その大半は旧河川からの出土で、弥生土器、土師器・須恵器の他、多量の鉄滓が含まれる。第４次調査では９世紀代の製鉄遺構が検出されていることから、その排滓の流れ込みと考えられる。竪穴住居からは甕・丹塗磨研土器片が出土した。ピットの遺物には弥生土器・土師器・須恵器・鉄滓等がある。

まとめ　今回の調査は、隣接する第４・５次で確認された山麓斜面上に立地する弥生時代集落の範囲を把握する一助となる。また、上述した建物は第４次調査の大型建物に比すると規模に格差が認められ、付随施設の可能性が高い。

1994年度報告書発行予定。



1．調査地点の位置（入部85－A－９）

2．調査区北側全景

3．調査区南側全景（北から）

9349　雑餉隈遺跡群第３次調査（ZSK－３）

所　在　地　博多区西春町一丁目18　　調査面積　156㎡
調査原因　個人用住宅建設　　担　当　者　山口譲治・菅波正人
調査期間　931118～931204　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、御笠川・那珂川中流域間の標高20.５m前後の洪積台地上に位置し、第２次調査地の北側隣接地にあたる。調査前は盛土造成が行われていた。

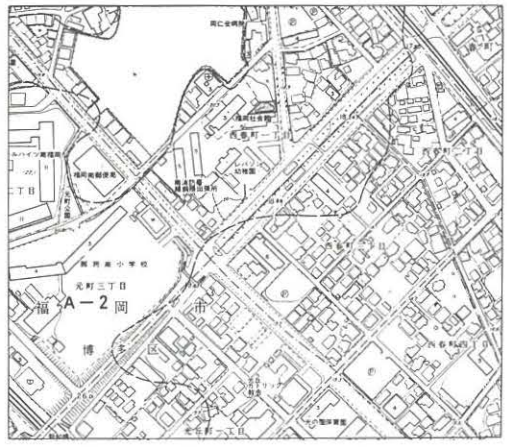
調査は、30cm前後の盛土および耕作土を除去することから始めた。その結果、鳥栖ロームを基盤として奈良時代の遺構を検出した。

検出遺構　・奈良時代（８C後半）：竪穴住居址４基　柱穴

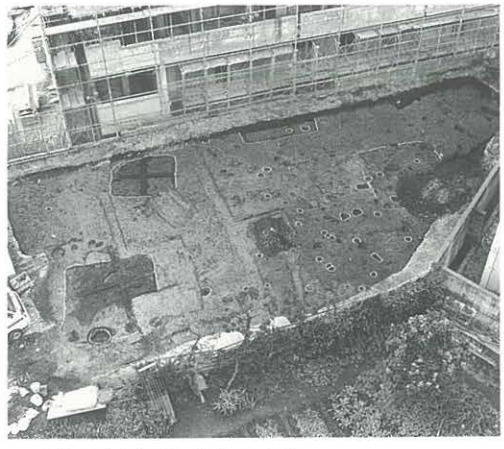
出土遺物　本調査ではコンテナ３箱の遺物が出土した。出土遺物としては、奈良時代の須恵器坏蓋・坏身・甕、土師器坏身・甕などの土器と刀子などの鉄器数点がある。

まとめ　本調査地は第２次調査と隣接しており、奈良時代の竪穴住居址が検出でき、本調査地周辺は、奈良時代の短期間集落が営まれていたことが分った。本調査地の竪穴住居址は、第２次調査地より遺構の遺存状態が悪いことから、旧地形を復元すると北西部に台地の高まりがあり、この台地は南東方向に傾斜をもっていたといえよう。

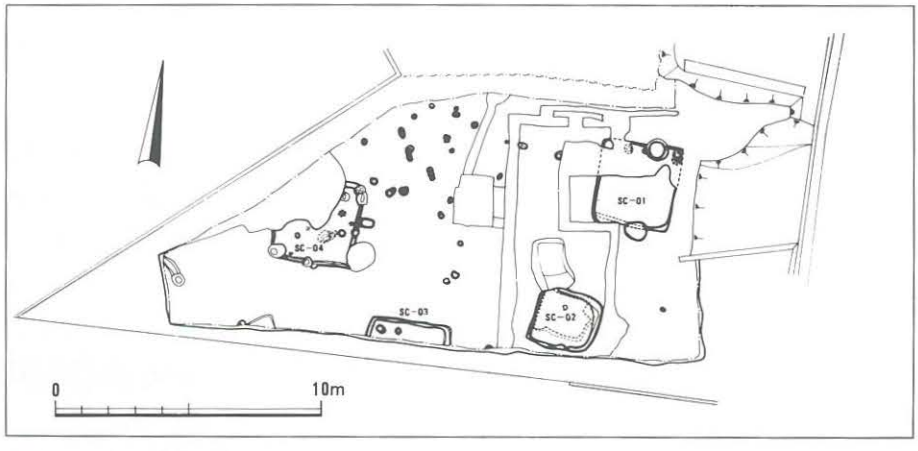
1994年度報告書発行予定である。



1．調査地点の位置（雑餉隈13－A－2）



2．調査区全景（北から）



3．遺構配置実測図

9350　四箇船石遺跡群第6次(SHF－6)

所　在　地　早良区大字東入部1905－1外　　調査面積　702.5㎡
調査原因　道路建設　　担　当　者　常松幹雄
調査期間　931101～931208　　処　　置　調査後破壊

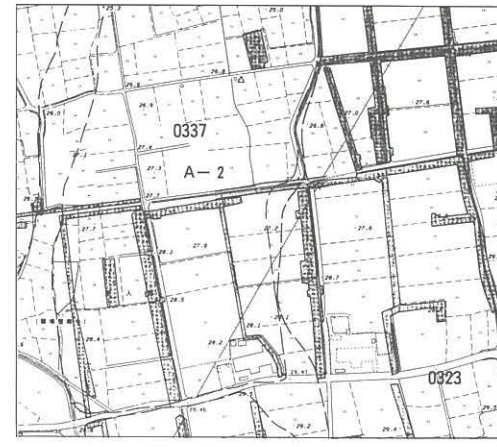
位置・環境　調査地は、室見川の東岸の沖積平野に位置する。標高は、26～27m前後である。調査区は、道路の拡幅・舗装という性格上狭長で、現況の舗装道路をはさんで東西に分かれる。ここでは西調査区と東調査区と呼ぶ。

検出遺構　西調査区は、幅約4mで、東西100mにわたる。東端から20mで旧河川の落ちを確認した。流路は、南北方向と考えられる。弥生土器の破片を含む。遺構は、掘立柱建物2棟、竪穴住居跡5基、このほか多数の柱穴が確認された。掘立柱建物は3個の柱穴を確認したのみであり、規模は不明である。円形プランの住居跡と切りあっており、時期は弥生後期以降としかいえない。住居跡は、全体のプランが確認できたものはなく、概数である。

東調査区の現況は、田であり、幅3～4mで全長40mにわたって掘削をおこなった。清掃の結果確認できたのは、旧田面にかかる杭列であった。基盤は、円礫を多く含んでいることから、古くは氾濫原であったと考えられる。

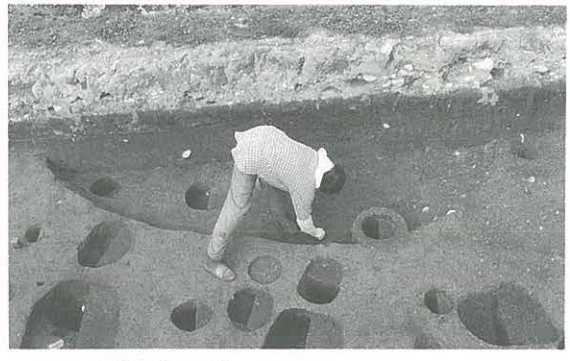
出土遺物　遺物は弥生土器と土師器の細片が主で、その量は、コンテナ5箱である。

まとめ　西調査区は、遺構の分布が密であり、未調査の北側の畑地についても同様の状況が想定できる。遺構の時期は特定できなかったが、弥生中期から古墳時代前期にかけてと推定される。



1. 調査地点の位置（入部85－A－2）

2. 西調査区全景（東から）


3. 円形竪穴住居跡

4. 東調査区全景（西から）

9351　熊本遺跡群第２次調査（KMM－2）

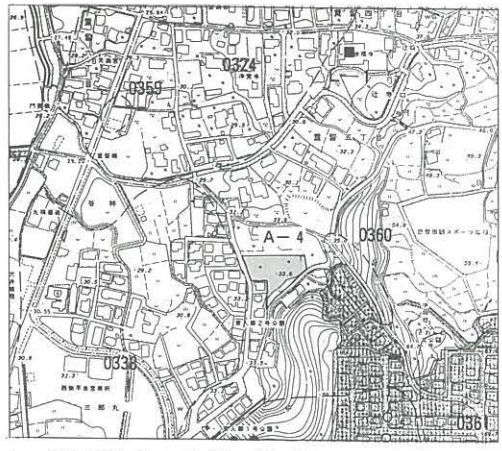
所　在　地　早良区大字東入部一丁目1667外　　調査面積　250㎡
調査原因　宅地造成　　担　当　者　常松幹雄
調査期間　931209～940114　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、早良平野の南端部に位置する。標高33m前後である。調査区の旧況は畑地で、客土がなされていた。これまでの調査で中世の集落跡が確認されている。今回の調査区は宅地の取付道路となる部分である。

検出遺構　柱穴が密集して検出されたが、幅４mで全長60mという狭長な調査区であったため性格を明らかにしえなかった。

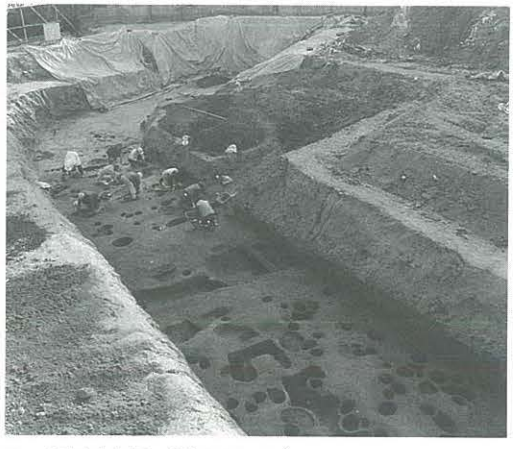
出土遺物　遺物は土師器や陶磁器の細片が主体をなす。コンテナ10箱

まとめ　今回の調査は遺構の広がりを確認するにとどまった。遺構の時期は奈良時代末から中世にかけて主体とすると推定される。



1．調査地点の位置（入部85－A－4）

2．調査区全景（西から）


3．調査風景（北西から）

4．調査風景（東から）

9352　天神森遺跡群第２次調査（STM－2）

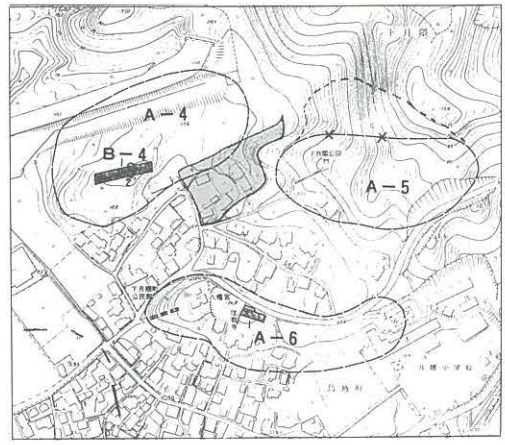
所　在　地　博多区大字下月隈501－１外　　調査面積　2,880㎡
調査原因　公園建設　　担　当　者　佐藤一郎
調査期間　931208～940313　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　福岡平野を東を限る三郡山地より派生した大城山山麓からは月隈丘陵が南東から北西に延びている。丘陵の西側には支丘がいくつも延びており、今回の調査区域は支丘間の谷部に位置する。

検出遺構　谷部からやや丘陵部寄りで弥生時代前期後半の甕棺墓１基を検出した。谷部では、８世紀末～９世紀前半の土壙、ピット状遺構、15世紀代の掘立柱建物10棟、それをコの字状に囲繞する溝８条、土壙７基、その他建物としてまとめきれない柱穴・ピット状遺構を多数検出した。谷の最深部は土すな流失により遺構の依存状態は不良で、さらに家屋解体の際に掘削された廃棄物処理坑、水田に伴う暗渠等の撹乱を広範囲で受けていた。

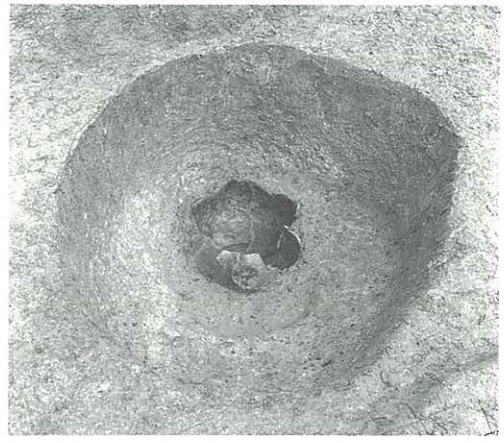
出土遺物　遺物は溝・土壙を中心に出土した。８世紀末～９世紀前半の遺構から土師器・須恵器・須恵器片、15世紀代の遺構からは土師器・輸入陶磁器（龍泉窯系青磁・枢府磁）・備前焼片が出土した。コンテナ22箱。

まとめ　15世紀代の掘立柱建物群、溝、土壙は重複関係から最低３期にわたって立て替えられている。８世紀末～９世紀前半のピット状遺構には完形の土師器坏を埋納したものがあり、鎮壇によるものであろう。



1．調査地点の位置（下月隈10－A－4）

2．調査区全景（南から）


3．甕棺基（南から）

9353　福岡城跡　－本丸－（FUE－24）

所　在　地　中央区城内5－2
調査原因　公園環境整備
調査期間　931211～931221
調査面積　80㎡
担　当　者　田中壽夫・瀧本正志
処　　置　埋め戻し保存

位置・環境　1601年より築城され、以後260余年の間、筑前国黒田家の居城となった福岡城は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の先端部、博多湾を望む高台の地（那珂群警固村）に築かれた平山城である。調査地は、約80万㎡の敷地中央を占地する本丸の西辺部に位置し、標高23mを測る。現況地は、明治期以降の造成により築城時の姿を知ることはできず、桜などの樹木に覆われた広場となっている。

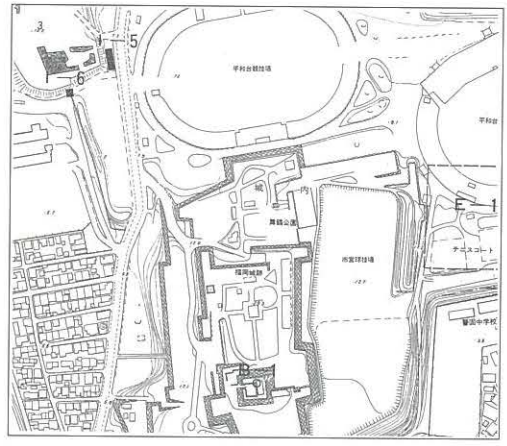
検出遺構　福岡城の造営に関する遺構には、平櫓の基壇石垣、および掘立柱建物の柱穴がある。

出土遺物　軒瓦等の瓦類がコンテナに30箱出土している。瓦の大半は丸・平瓦が占める。

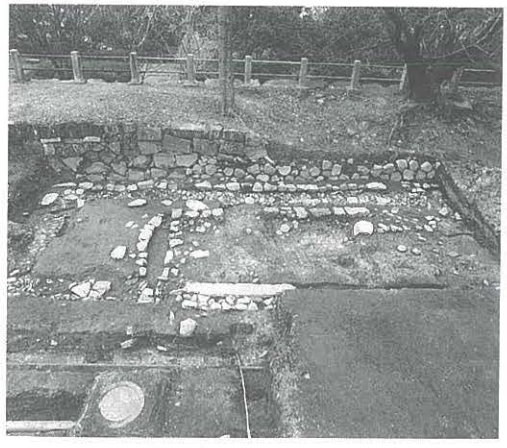
まとめ　福岡城本丸における建物配置は、史料が城絵図等に限定され、元禄12年(1699年)の福岡城下之絵図を初現とする数点の資料から類推するしかなかった。本丸の調査は、これまでに櫓跡(祈念櫓、月見櫓、時櫓）において実施されたが、直接的な本丸内調査という点からは今回が初めてである。

今回の調査では、平櫓の基壇石垣、および掘立柱建物の柱穴を検出した。平櫓の基壇石垣は、本丸の西辺を画す時櫓と本丸裏御門の西に接する太鼓櫓と連なる平櫓の基壇部で、幅4.2m、高さ1.65mが復元される。東側の本丸内には犬走り(幅0.4m)が設けられている。正保３年(1646年)の福博惣絵図を見ると、平櫓と土塀とを意識的に区別して描いていることからも明らかである。掘立柱建物の柱穴は、規模などは不明であるが、築城時に関わる施設と考えられる。

本丸内における遺構の遺存状況は後世の攪乱を受けているために良好とは言い難いが、調査を実施するうえで支障のない範囲であることから、今後の計画的調査が待たれる。



1．調査地点の位置（舞鶴60－E－２）


2．調査区全景（東から）

3．櫓基壇部・犬走り検出状況（北から）

9354　徳永A遺跡群第3次調査（TKU－3）

所　在　地　西区大字周船寺176－6
調査原因　九電鉄塔建て替え
調査期間　940108～940212
調査面積　400m²
担　当　者　屋山　洋
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は高祖山から北に延びる丘陵の先端部に位置する。戦時中の飛行機格納庫等の築造や最近の住宅地造成によって地形の変化が著しい。調査区は北東に傾斜しており、標高は約14.0mを測る。

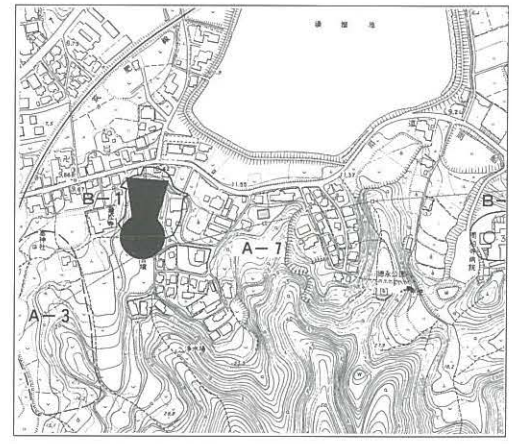
検出遺構　遺構面は4面確認された。

・第1面：ピット状遺構、土壙1基、溝1条。
・第2面：ピット状遺構、炉3基
・第3面：ピット状遺構、自然流路2条
・第4面：ピット状遺構、溝2条

出土遺物　最下層のV層から弥生時代の石斧が2点出土した。II～IV層は7世紀中頃から8世紀、I層は7世紀～12世紀と時期的には区別しずらい。その他、II～III層間の焼土や第3面の流路から土師質の土錘が出土している。遺物はコンテナで7箱程出土しているが、そのほとんどは包含層からで遺構からの出土は少ない。

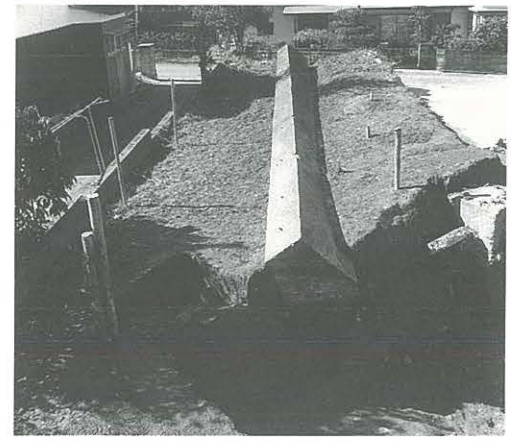
まとめ　包含層は各層とも同時期の須恵器を含んでおり、上下層で時期差はない。この調査区が急な斜面に位置していることから南側尾根上から流れ込んだ可能性も考えられる。

1995年度報告書発行予定である。



1. 調査地点の位置（周船寺I20－A－7）

2. 調査区全景



3. 飛行機格納庫跡

9355　丸隈山古墳群第４次調査（MKY－４）

所　在　地　西区大字周船寺271
調査原因　九電鉄塔建て替え
調査期間　940108～940212
調査面積　100m²
担　当　者　屋山　洋
処　　置　調査後破壊

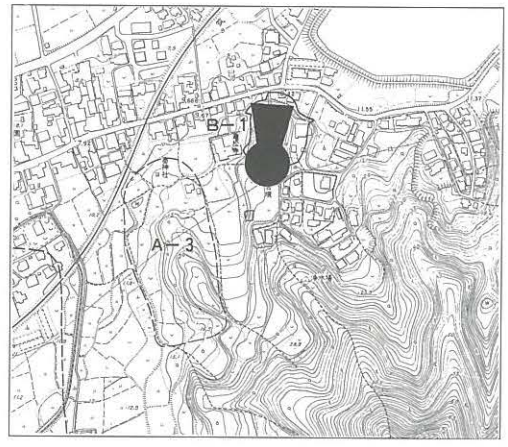
位置・環境　本調査区は高祖山から北に延びる丘陵の先端部分に位置し、丸隈山古墳の後円部から約70m南に所在する。調査地点は丸隈山古墳築造時の丘尾切断によって削平されており、周囲より約２mほど低くなっている。調査区周辺で須恵器高台付坏の小片を採集した。

検出遺構　調査の結果、土壙と思われたのはほとんどが現代の塵処理穴であったが、その他に溝２条、土壙状遺構を１基検出した。溝は遺物は出土しなかったが、近世の排水溝であると思われる。土壙状遺構は調査区の北東の隅にかかって検出したが、深さ４cmと遺存状態が悪かった。

出土遺物　土壙状遺構から土師質土器の小片が数点出土したが、時期は不明である。

まとめ　丸隈山古墳築造時の丘尾切断と畑の開墾によりかなりの削平を受けており、明確な遺構を確認することはできなかった。

報告書は1995年度発行予定である。



1．調査地点の位置（周船寺120－B－1）

2．調査区全景

3．調査区から見た風景

9356　藤崎遺跡群第25次調査（FUA－25）

所　在　地　早良区百道一丁目807－9, 854－2　　調査面積　270m²
調査原因　共同住宅建設　　担　当　者　荒牧宏行・中村啓太郎
調査期間　940117～940223　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　藤崎遺跡群は、早良平野の東北端の標高５～６mの砂丘上とその南側後背斜面に立地する弥生時代から中世を中心とする複合遺跡群である。特に弥生時代から古墳時代初頭にかけて一大墓地群を形成する。本調査区は当遺跡群の北部に位置し、１次調査の北隣である。

現況は駐車場であった。

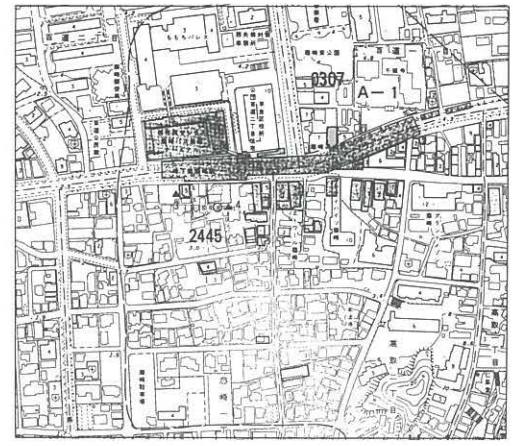
検出遺構　・弥生時代：甕棺墓12基
土坑数基
溝２条

甕棺墓は小児棺を中心に構成される。土坑には底部四隅に配石したものがある。木棺墓であろうか。溝は出土遺物がなく、明確な時期はわからないが、掘り込み面より甕棺墓以降である。

出土遺物　甕棺を中心に弥生土器をコンテナ10箱程度出土した。甕棺、小児棺に転用された甕、広口壺等がみられる。

まとめ　今回の調査で検出した明確な成人棺は１基のみであった。このため調査区北部を中心に下層を掘り下げたが、土坑を１基確認したに止まった。このことから小児棺群はこれまでに検出されてきた甕棺墓群の北部を囲むように配置されている可能性がある。そして墓地群はこれまで考えられていたより若干北へ広がるようである。

報告書は1995年発行予定である。



1．調査地点の位置（室見81－A－1）

2．調査区北半部

3．調査区南半部

9357　立花寺遺跡群第３次調査（RGG－3）

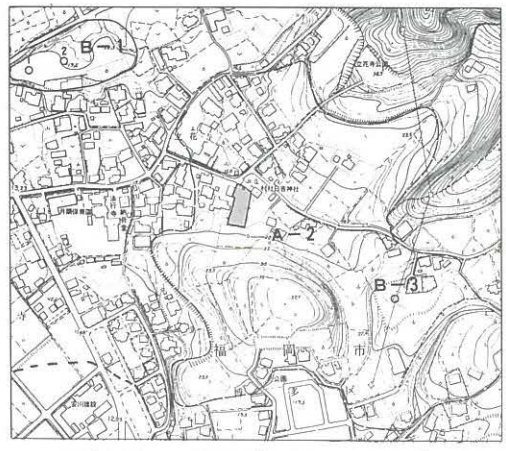
所　在　地　博多区大字立花寺字上の園694－３～５　　調査面積　241.7㎡
調査原因　専用住宅建設　　担　当　者　加藤隆也
調査期間　940124～940326　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は月隈丘陵から派生する丘陵の先端独立丘陵の北側斜面である。現況は、宅地で、現地表から20～90㎝の客土を除去すると遺物包含層となる。遺構は厚さ約20㎝の遺物含層上面とそれを除去した砂質土上面において検出された。本調査地の南東250mに立花寺遺跡群第１次調査、その東50mに第２次調査地点がある。調査地の標高は約17mを測る。

検出遺構　・弥生時代中期～後期：自然流路
・古墳時代後期：竪穴住居址１基、掘立柱建物１棟、土壙５基、柱穴群
中世：貯水を目的としたと考えられる溜井状遺構１基、掘立柱建物４棟、柱穴群

出土遺物　遺物の総量はコンテナ15箱程度あり、包含層と自然流路出土のものが大半を占める。弥生時代の土器類、抉入片刃石斧、蛤刃石斧。古墳時代の須恵器、土師器。中世の陶器、陶磁器など。

まとめ　今回の調査では丘陵間の谷部を流れる河川の状況、また、河川埋没後の遺跡群形成過程の一端を明らかにするうえで重要な資料を提供した。
報告書発行は1996年度を予定している。



1．調査地点の位置（金隈11－A－2）

2．調査区全景（南から）

3．SK－12出土状況（南から）

9358　田村遺跡群第17次調査（TMR－17）

所　在　地　早良区田村四丁目673－7
調査原因　道路建設
調査期間　940115～940205
調査面積　372.5m²
担　当　者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、室見川の東岸の沖積平野に位置する。標高14m前後である。調査区の現況は田である。

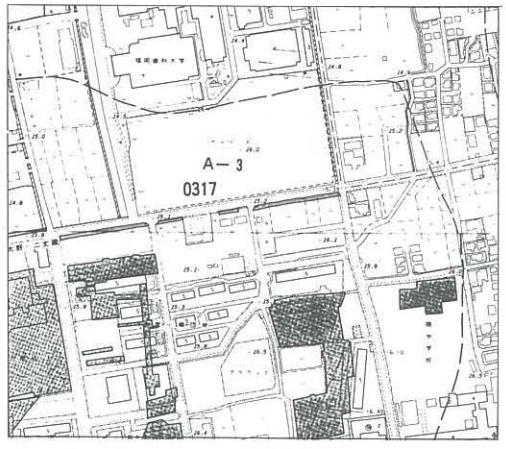
検出遺構　調査区は、幅５ｍで、東西75mにわたる。西端で旧河川の落ちを確認した。流路は、南北方向と考えられる。弥生土器の破片を含む。遺構は、竪穴住居跡３基、溝１基、土壙２基、このほか柱穴多数である。遺構および柱穴は調査区の西側に集中している。

竪穴住居跡の時期は弥生中期前半から中ごろにかけてである。円形プランの１号住居跡は、径約5.5mで太型蛤刃石斧などが出土した。長軸4.5mで小判形を呈する２号住居跡は、中央部に炉跡をもつ構造だが主柱穴は確認できなかった。３号住居跡は、旧河川によって切られている。

溝は、東側に向かって緩く弧を描く。弥生中期後半の土器を多く含んでおり、さらに南北に延びると予想される。

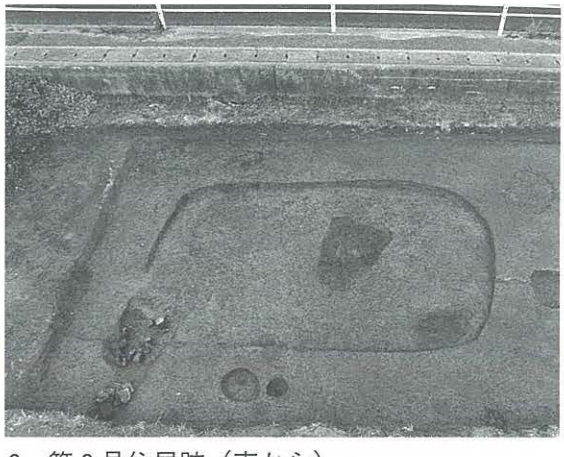
出土遺物　遺物は弥生土器と石器。コンテナ11箱。

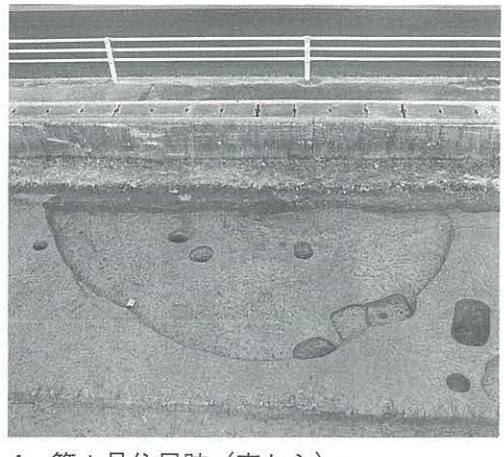
まとめ　今回は、これまで確認されていなかった弥生時代の集落後を検出できた。溝がどのように延びていくかは集落の拡がりと絡んで興味ある問題である。



1．調査地点の位置（野芥83－A－3）

2．調査区全景（東から）


3．第２号住居跡（南から）


4．第１号住居跡（南から）

9360　飯倉D遺跡群第Ⅰ次調査（IKR－D－Ⅰ）

所　在　地　城南区七隈三丁目844～847
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940202～940423
調査面積　6,800㎡
担　当　者　中村　浩
処　　置　調査後破壊

位置・環境　福岡平野・早良平野との境をなす油山が派生した丘陵端部に位置し、標高12mから20mの独立丘状をなしている。調査前は、山林だった。

調査は、重機で腐植土からなる30m前後の表土を除去することから始めた。その結果、花崗岩媒乱土を基盤として遺構を検出した。

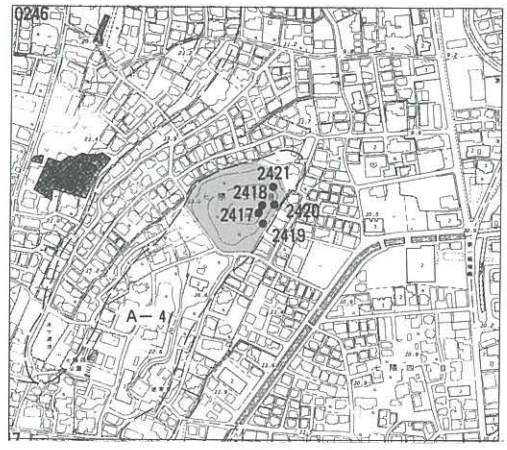
検出遺構
・弥生時代後期半中葉～後半：竪穴住居址、掘立柱建物、小児用甕棺墓、溝、土坑、貯蔵穴
・古墳時代後半：竪穴住居址、溝、土坑
・古代：竪穴状遺構、焼成遺構

出土遺物　本調査では、コンテナ101箱の遺物が出土した。遺物は、遺構検出時および各遺構から出土した。弥生時代の遺物としては、甕形土器、壺形土器、鉢形土器などの土器、石包丁、砥石などの石器、鏡鋳型、鉄鎌などの鉄器がある。古墳時代の遺物としては、坏などの須恵器、甕などの土師器、フイゴ羽口があり、古代のものとしては須恵器、鉄滓がある。

まとめ　鏡と矛の鋳型の出土、また、古墳時代・古代の溶鉱滓、鍛治滓の出土から、本集落は弥生時代後期以降、青銅器・鉄器などの生産集落遺跡であるといえよう。また、竪穴住居址は、弥生、古墳時代のものとも、斜面を利用した造成住居で、約1/2依存の状態で検出できた。さらに各竪穴住居はほぼ同位置で2、3回の建替えが行なわれている。

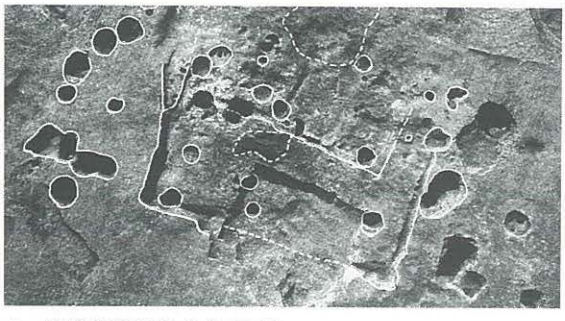
1994年度報告書発行予定である。

（山口記）



1．調査地点の位置（茶山73－A－4）

2．調査区全景


3．銅鏡鋳型出土住居址

4．銅鏡鋳型

9361　比恵遺跡群第52次調査（HIE－52）

所　在　地　博多区博多駅南五丁目139
調査原因　宿舎建設
調査期間　940216～940315
調査面積　682㎡
担　当　者　宮井善朗
処　　置　調査後破壊

位置・環境　比恵遺跡群第52次調査地点は遺跡群の北西端に位置する。従来は那珂川の氾濫源である沖積地と考えられていた場所であるが、今回試掘調査の結果、包含層および台地部が西側へ広がっているのが検出され、比恵遺跡群がさらに西側に広がることが確認された。そのため包含層および地山上の遺構の調査を中心に発掘調査を行なった。

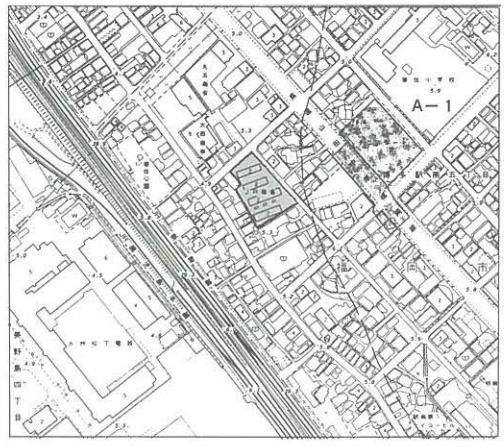
検出遺構　・弥生時代：土坑・柱穴・包含層
・古墳時代：土坑・柱穴・包含層
・古代：溝

出土遺物　本調査は、コンテナ31箱の遺物が出土した。遺物は、土坑・柱穴や包含層から出土し、弥生土器、須恵器、土師器と石器がある。

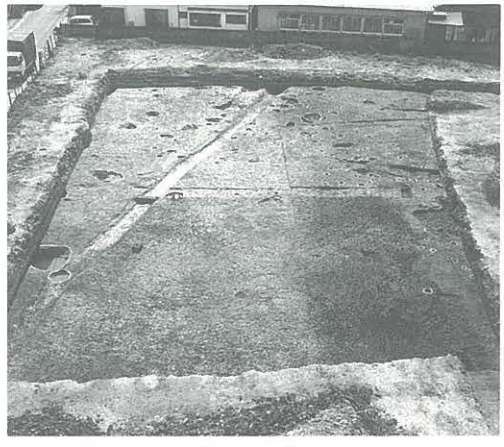
まとめ　包含層は黒色から黒褐色の粘土質であり、厚いところでも20cm～30cm程しか堆積していない。この中に弥生時代前期初頭から古墳時代後期頃までの遺物が混在している。このことからこの包含層は流れ込みによる堆積と思われる。

包含層下には八女粘土層が広がるが、一部西側に残る鳥栖ローム層上まで包含層が乗る部分がある。鳥栖ローム上、および八女粘土上には、ピット、土坑などの遺構が検出された。いずれも遺存の悪い浅いものであるが土坑の内には円形から楕円形プランを持ち、床面近くから木材片、土器などが出土するものがある。台地間の谷部に立地することを考えると貯木土坑、貯蔵穴などの残存である可能性がある。

今回調査の成果として、比恵遺跡群の西側への広がりが確認されたことが大きい。現地表面は西側那珂川へ向かって下がっていくが、遺構の乗る鳥栖ローム層は、むしろ西側に高くなっている。この台地部と那珂川氾濫源との境界を確認することが今後の課題と言えよう。



1．調査地点の位置（東光寺37－A－1）


2．調査区全景（北から）

3．刻目突帯文甕出土状況

9362　永浦遺跡群第Ｉ次調査（NGU－I）

所　在　地　東区大字三苫平原外　　調査面積　(2,067m²)
調査原因　区画整理事業　　担　当　者　吉留秀敏
調査期間　940215～(940331)継続中　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は福岡市東部の丘陵地帯にあり、博多湾と新宮浜の分水嶺となる丘陵の南斜面に立地する。標高は13～17mである。本遺跡のすぐ北側には前方後円墳である永浦１号墳と同２号墳がある。また、同じ丘陵に沿って三苫京塚古墳、人丸古墳など本地域の大型古墳が分布する。

調査前はイモ畑で、斜面は三段の畑地に造成されていた。区画整理事業地内にA～K地区の11ヶ所の遺跡があり、本年度はこのうちD地区のみの調査を行なった。他の地区は次年度に調査する予定である。

1. 調査地点の位置（三苫北部27－A－2）

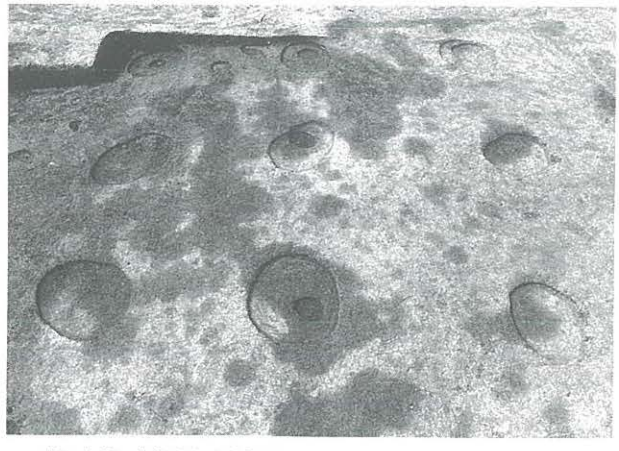
検出遺構　・古墳時代：竪穴式住居跡３棟、建物４棟、柱穴多数、墓穴１

出土遺物　古墳時代後期の須恵器類、土師器類が多い。他に土錘や鉄滓も出土した。この他に古墳時代の遺構内から縄文時代の石器類や弥生時代中期の土器類も多く出土した。総量コンテナ10箱。

2. 調査区全景

まとめ　この地区では古墳時代後期の集落と墓地が発見された。竪穴式住居は斜面に段上の平坦面を造って建てられている。建物のうち２棟は高床式の倉庫である。集落内からは７世紀前～中頃の土器類の破片が多い。墓穴は集落の北側にあり、長さ約２m、幅約0.4mを測る。墓壙の形態から北頭位で、北端に壺２個が供献されていた。７世紀中葉のものである。

この集落と墓地は遺物などから７世紀前～中葉の時期のものである。土錘（漁網錘）や鉄滓などがあり、この集落に住んだ人々は漁業や鉄生産に関係していたと考えられる。



3. 掘立柱建物検出状況

9363　福岡城跡　－潮見櫓跡－（FUE－25）

所在地　中央区城内18－2
調査原因　史跡整備
調査期間　940301～940328
調査面積　65㎡
担当者　力武卓治・田中壽夫・瀧本正志
処置　埋め戻し保存

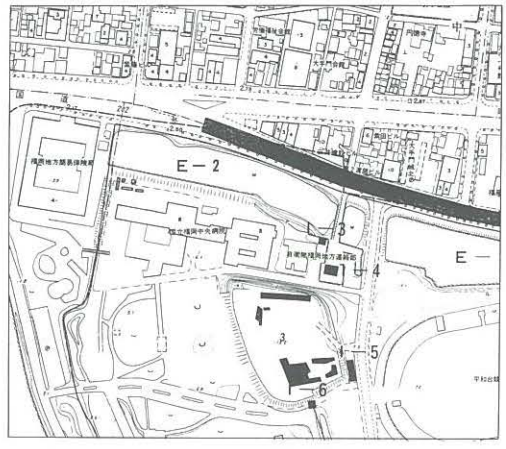
位置・環境　1601年より築城され、以後260余年の間、筑前国黒田家の居城となった福岡城は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の先端部、博多湾を望む高台の地（那加郡警固村）に築かれた平山城である。調査地は、約80万㎡の敷地西北隅の土塁上に築かれた潮見櫓跡で、標高７ｍを測る。現況地は、土塁上にわずかに石垣の一部と思われる石が露出している。

検出遺構　福岡城の造営に関する遺構には、櫓建物の基壇部と思われる石積みがある。

出土遺物　軒瓦等の瓦類がコンテナに30箱出土している。瓦の大半は丸・平瓦が占める。軒丸瓦の紋様は三ツ巴藤だけである。

まとめ　福岡城内には47を数える櫓が築造されていたと云われている。調査地である城郭の北西隅に位置する潮見櫓は、城郭を画す土塁の上に石積みによる独立基壇を構築し、単層の付櫓を付設した二層の東西に棟を配する瓦葺き建物であったことが現存する城絵図で確認される。

調査の結果、調査地に露呈していた石列は、基壇の西面石垣の一部であることが判明した。石垣は、西面と北面で遺存していたが、他の面においては検出されなかった。規模は、東西12.5m、南北16.2m、残存高1.6mを測る。基壇上の礎石等は残存していない。崇福寺への移築時もしくはその後に削平を受けたものと思われる。このため、石垣、建物の規模や改築等は不明である。以上の点から、崇福寺に払下げられ、現在は本市所有となっている潮見櫓建物との整合性の検証は困難な状況である。



1．調査地点の位置（舞鶴60－E－２）

2．調査地全景（西から）

3．西面石垣検出状況（北から）

9364　西新町遺跡群第６次調査（NSJ－６）

所　在　地　早良区西新五丁目634－4外
調査原因　マンション建設
調査期間　940301～940615
調査面積　667m²
担　当　者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

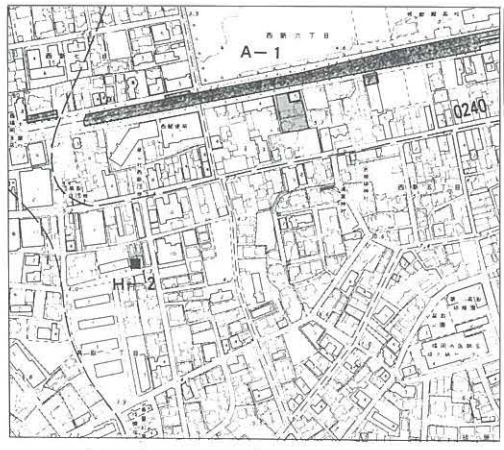
位置・環境　調査地は、博多湾に面する古砂丘上に立地する。標高３～４m前後である。これまでの調査で弥生時代の墓地や古墳時代の集落跡が確認されている。今年度の調査区は東西に延びる砂丘の南斜面にあたる。

検出遺構　溝１条と竪穴住居跡８基である。住居跡は、ほとんどが在来の土器で占められていた。いわゆる西新式の段階に属する。溝は、住居跡を切っているが須恵器などは含まれていない。

竪穴住居跡の構造は一辺２～３mの隅丸方形プランが７基、長方形プランが１基である。遺構の分布は北側にあたる砂丘の頂部は削平によってうすくなっている。隅丸方形プランの主柱穴は２本で、長方形プランのみ主柱穴４本が確認できた。

出土遺物　土器は、ほとんど床面から浮いた状態で出土した。コンテナ15箱。碇石１点と石錐３点が床面で検出された。コンテナ１箱。

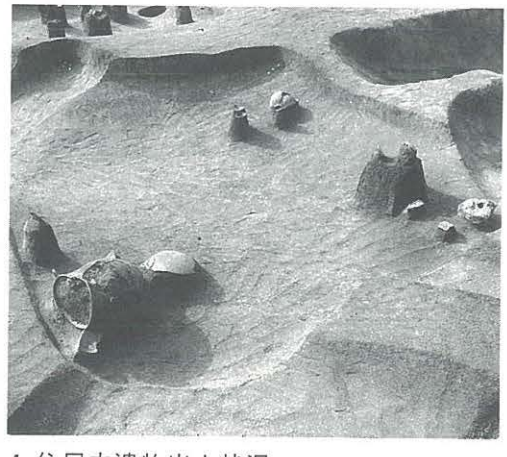
まとめ　今回の調査は、住居出土の土器が必ずしも帰属を表すものかどうか疑義を投げかけるなど、弥生から古墳時代へ移行する段階の集落の分布を知るうえで興味ある所見を示している。



1. 調査地点の位置（荒江72－A－1）

2. 調査区全景（北西から）

3. 遺構掘り下げ風景


4.住居内遺物出土状況

9365　堀の内遺跡群第２次調査（HRU－２）

所　在　地　西区今宿青木竹の内378－2外　　調査面積　940m²
調査原因　老人ホーム建設　　担　当　者　荒牧宏行
調査期間　940302～940331　　処　　置　調査後消滅

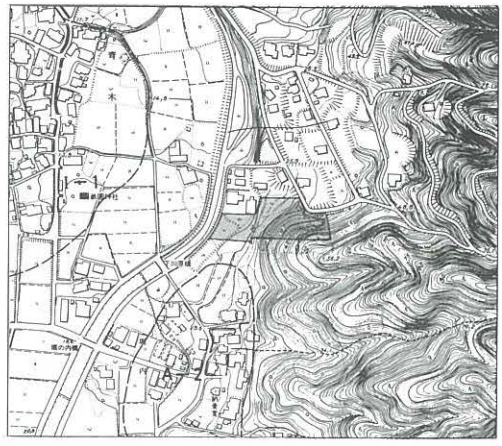
位置・環境　叶岳（341m）から派生した丘陵裾部に位置する。蛇行する七寺川が流下し、丘陵落ち際を崖状に開析している。調査地点は造成された丘陵部と川沿いの沖積地からなる。現況は田、雑種地、畑で標高18～23mを測る。

検出遺構　・古墳時代：柱穴、炉跡１
・中世：柱穴
・近世：土壙墓３基、火葬墓１基

テラス状に造成した丘陵部に２層の包含層が堆積し、中世の柱穴が多数検出された。現代の段状の造成により集落（館跡の可能性もある）の規模が不明であるが、下方の沖積地にも遺構（柱穴）の広がりが見られる。近世になると丘陵部は墓地として利用され、現代にまで至る。古墳時代（６世紀後半）の遺物が丘陵落ち際の流路砂層中に多く出土した。この時期の遺構は丘陵斜面上に不整形土壙と焼土を見いだされたのみで、流失した可能性がある。

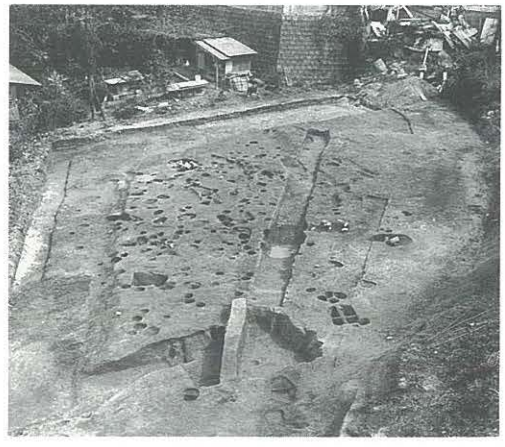
出土遺物　総量はコンテナ17箱分。中世の遺物が大半を占めるが、砂層中の古墳時代の遺物５箱分が含まれる。輸入陶磁器も多く玉縁白磁、龍泉、同安窯青磁、ロハゲ白磁等を含む。銅銭「熙寧重寳」（1072）も出土。

まとめ　堀の内遺跡の北限が拡大されることが判明した。丘陵裾部をカットし、狭い平坦面を居住地とした土地利用は館跡の可能性も含め注意される。



1．調査地点の位置（青木113－A－2）

2．丘陵裾部～沖積地全景



3．丘陵部全景

9366　警弥郷Ｂ遺跡第３次調査（KYB－３）

所　在　地　南区弥永五丁目1－1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940303～940331
調査面積　300㎡
担　当　者　白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　那珂川中流右岸の沖積地に所在し、標高18.5mを測る。警弥郷B遺跡の東側隣接地と考えられていた。南に約500mで日拝塚古墳にいたる。

耕作によって若干の削平を受けており、遺構は耕作土直下（地表下約30cm）の黄褐色土層上面で検出した。

検出遺構　遺構は、竪穴住居跡６棟、掘立柱建物跡１棟（３間×３間）、土壙10基、溝４条、柱穴多数を検出した。

竪穴住居跡は、弥生時代後期以降から古墳時代にかけてのものである。遺存状態はよくない。溝の上に営まれた住居では、溝に当たる部分の貼床を厚くしている。

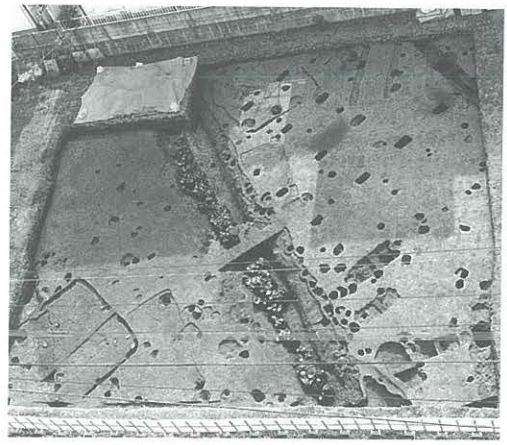
掘立柱建物跡は、弥生時代後期のものと思われる。３間×３間の総柱である。

溝は、おおむね古墳時代前期のものである。ほぼ平行しており、いずれも断面逆台形上を呈する。そのうち１基では土師器を大量に廃棄している。

出土遺物　遺物は、弥生土器、土師器などが50箱分出土した。

まとめ　警弥郷B遺跡では、これまでも土師器が採集されるなどしていたが、古墳時代の集落は今回初めて確認された。溝は環濠となるものと思われる。

1．調査地点の位置（警弥郷41－A－4）



2．調査区北側全景

3．調査区南側全景

9367　雑餉隈遺跡群第４次調査（ZSK－4）

所　在　地　博多区新和町二丁目13
調査原因　社屋兼個人用住宅建設
調査期間　940309～940324
調査面積　105㎡
担　当　者　山口譲治・菅波正人
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、御笠川・那珂川中流域間の標高22.7m前後の洪積台地上に位置している。調査前は盛土造成されていた。

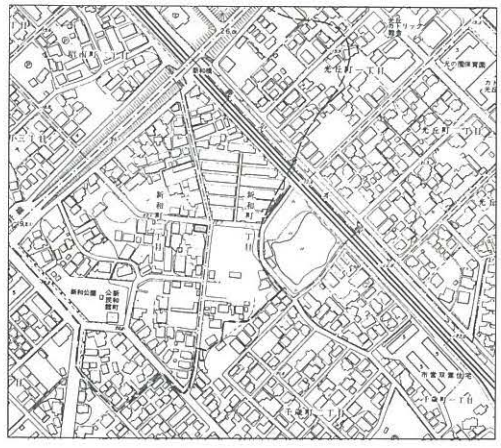
調査は、40cm前後の盛土および耕作土を除去することから始めた。その結果、鳥栖ロームを基盤とした奈良時代の遺構を検出した。

検出遺構　・奈良時代：掘立柱建物２棟、土壙１基、柱穴

出土遺物　本調査ではコンテナ２箱の遺物が出土した。遺物は遺構検出時と土壙・柱穴から奈良時代の須恵器・土師器の坏蓋・坏身・甕などが出土した。

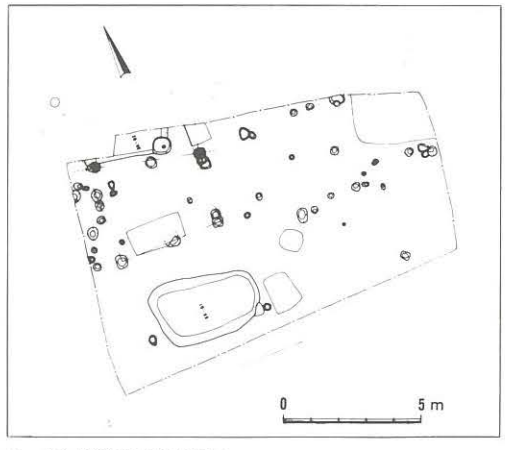
まとめ　本調査地周辺は、これまでの調査で弥生時代から奈良時代の複合遺跡であることが確認されているが、本調査地では、奈良時代の掘立柱建物と土壙からなる集落が検出できた。

1994年度報告書発行予定。



1．調査地点の位置（雑餉隈13－A－2）

2．調査区全景（東南東から）



3．遺構配置実測図

9368　高畑遺跡群第14次調査（TKB－14）

所　在　地　博多区板付五丁目8－4
調査原因　共同住宅建設
調査期間　940314～940331
調査面積　566m²
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　福岡平野を貫流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地、中位段丘に高畑遺跡は位置する。第14次調査区は高畑遺跡の北端部にあたり、標高9mを測る。現況は水田で、遺構面は耕作土直下の鳥栖ローム層で確認されたが、かなりの削平を受けており、八女粘土との境に近い。

検出遺構　検出された遺構は8～9世紀の溝2条、それ以前の旧河川である。

出土遺物　遺物はおもに溝から土師器、須恵器片が出土した。総数コンテナ8箱。

まとめ　調査区の南端から南北に延び屈曲して東側にのびるSD－01溝は第7次調査で検出されたSD－03溝の延長部である。

報告書刊行予定1995年度

1. 調査地点の位置（板付24－A－9）

2. 調査区全景（西から）

9370　脇山B遺跡群第Ⅰ次調査（WKB－Ⅰ）

所　在　地　早良区大字脇山地内
調査原因　圃場整備
調査期間　930713～930807
調査面積　1,895㎡
担　当　者　浜石哲也・榎本義嗣
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は油山南麓斜面に位置し、南側には小笠木川が西流する。調査区は2地点に分かれており、西側をA区、東側をB区と呼称した。両調査区ともに現況は斜面を段状に造成した水田で、段部は遺構面が著しく削平されており、遺構の遺存状況は悪い。遺構は標高約80～84mを測る黄褐色粘質土上面で確認され、削平を受けた箇所ではバイラン土が露出する。

検出遺構　・A区：土坑8基、焼土坑1基、ピット
隅丸長方形を呈する焼土坑の四隅には、深さ10～20cmの小ピットが掘り込まれる。また、調査区の南側で検出されて小規模な土坑の覆土には炭化物が認められた。時期は各遺構に出土遺物が希少で不明である。なお、焼土坑はこれまでの周辺調査成果から中世の所産と考えられる。

・B区：土坑3基、ピット
土坑はいずれも不整形で、人為的な掘り込みであるかは疑問が残る。出土遺物が皆無で時期不詳である。

出土遺物　遺物の総量は両調査区を合わせてもコンテナ1箱程度と少量である。

・A区：遺構からの出土の大半は遺構検出時に採集したもので、黒曜石の剝片、近世の陶磁器等がある。

・B区：遺構検出時に採集した遺物には押型文土器、近世の陶磁器等がある。

まとめ　遺構の時期・性格については不明な点が多いが、縄文時代の遺物を確認しており、本調査区の北側斜面上に該期の集落が存在した可能性もある。

なお、本報告は1994年度の予定である。

1. 調査地点の位置（早良10－A－5）

2. A区全景（上空から）

3. B区全景（上空から）

9371　志水A遺跡群第１次調査（SMA－１）

所　在　地　早良区大字小笠木地内
調査原因　圃場整備
調査期間　930809～931002
調査面積　4,254m²
担　当　者　濱石哲也・榎本義嗣
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、脊振山系より北西方向に舌状に派生する丘陵部に位置する。調査区は４地点に分かれており、先端部より順にA～D区と呼称した。遺構は黄褐色粘質土上面で検出され、標高は約99.5～111.5mを測る。現況は丘陵斜面を段状に造成した水田・畑地である。

検出遺構　・A区：土坑２基、焼土坑１基、ピット
周辺調査成果から焼土坑は中世の所産と考えられる。

・B区：焼土坑８基、ピット
焼土坑の分布は散漫で、主軸方向も不規則である。

・C区：中世掘立柱建物１棟、焼土坑２基
掘立柱建物は梁間３間以上で柱間は約1.4m、桁行30数間で柱間は約0.7mを測る特異な柱穴配置である。

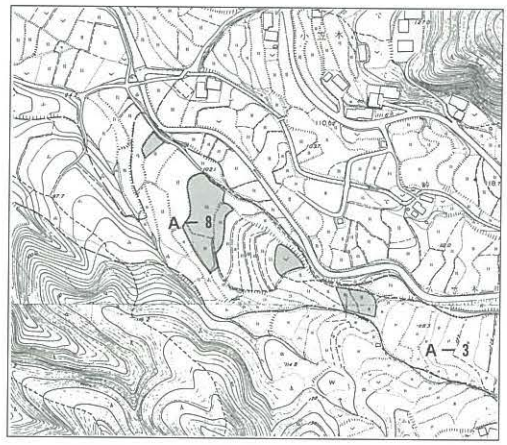
・D区：中世土坑２基、焼土坑２基、ピット

出土遺物　遺物の総量は４調査区をあわせてコンテナ１箱程度である。遺構からの出土は中世の土師器・陶磁器が少量である。その他に遺構検出時に採集した遺物に中世の瓦質土器、陶磁器等がある。

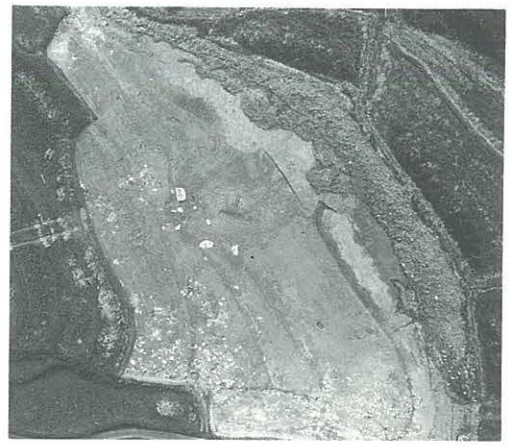
まとめ　今回の調査では本調査地西側の脇山地区圃場整備地内の調査で広範囲に検出された焼土坑の分布が、密度は薄いものの、さらに東側に拡大することが確認された。

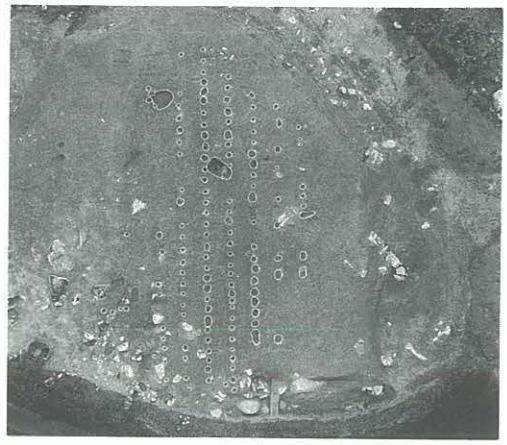
C区で検出された掘立柱建物は機能・構造等に不明な点が多く、類例の探知を含め検討が必要である。なお、時期比定については柱穴からの出土遺物が磁器の細片数点で、困難をきわめるが、北側の谷部包含層から16世紀後半代の瓦質土器・李朝磁器・明代染付等が出土しており、消極的ながら建物の帰属時期と推定される。

なお、本報告は1994年度の予定である。



1．調査地点の位置（早良10－A－8）


2．B区全景（上空から）


3．C区全景（上空から）

9372　脇山遺跡群第８次調査（WK－８）

所　在　地　早良区大字小笠木地内
調査原因　詳細分布調査
調査期間　930416～930430
調査面積　1,420㎡
担　当　者　濱石哲也・榎本義嗣
処　　置　調査後破壊

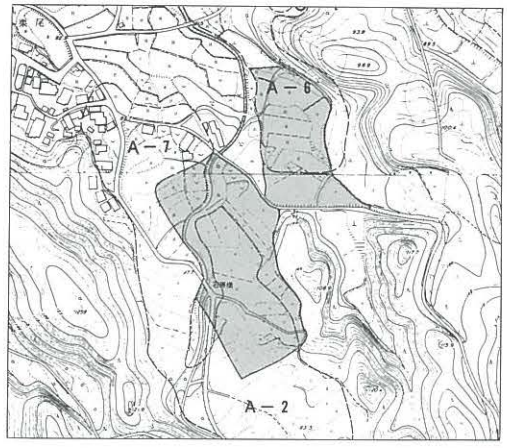
位置・環境　調査地は脊振山系より北側に派生する丘陵上および裾部に位置する。該地東側は「栗尾A遺跡」、西側は「栗尾B遺跡」に含まれる。現況は丘陵を造成した水田で、標高は約83～108mを測る。

今回の調査は86年度より継続する脇山地区圃場整備事業の93年度事業予定地を対象に詳細分布調査として実施した。遺構分布範囲及び遺構面までの深度の確認を目的とし、重機によるトレンチ開削、平面図・土層図の略図作成、写真撮影を行った。

検出遺構　現水田面に計33本のトレンチを設定した。その結果、棚田造成時に比較的削平の少ない丘陵裾部の黄褐色砂質土上面で焼土坑を少数確認した。丘陵上は削平のためバイラン土、礫が露出する。また、該地東端および中央部には狭隘な谷が認められた。

出土遺物　トレンチ内採集遺物部は縄文土器、中世・近世の土師器、陶磁器がある。コンテナ１箱未満である。

まとめ　調査地内は全体に削平が著しく、遺構は希少である。縄文土器を採集したトレンチに関しては、精査を行なったが明確な遺構・包含層を確認するには至らなかった。



1. 調査地点の位置（早良10・11）

2. 調査前風景（南から）

3. 第15トレンチ遺構検出状況（南から）

9373　脇山遺跡群第９次調査（WK－９）

所　在　地　早良区大字小笠木地内
調査原因　詳細分布調査
調査期間　931027～931108
調査面積　1,261㎡
担　当　者　濱石哲也・榎本義嗣
処　　置　調査後破壊

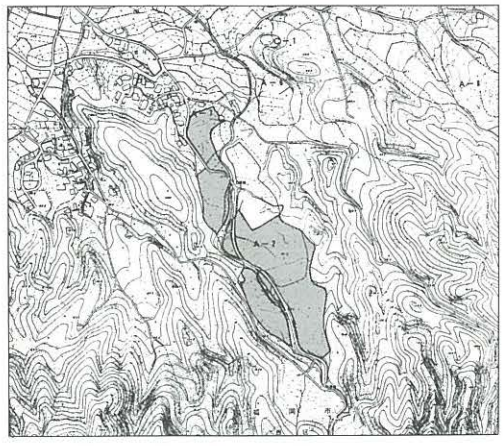
位置・環境　調査地は脊振山系より北に派生する丘陵上に位置する。該地の一部は「栗尾B遺跡」に含まれ、中央には栗尾川が北流する。現況は丘陵を造成した水田で、標高は約91～130mを測る。

今回の調査は86年度より継続する脇山地区圃場整備事業の最終年度である94年度事業予定地を対象に詳細分布調査として実施した。遺構分布範囲および遺構面までの深度の確認を目的とし、重機によるトレンチ開削、平面図・土層図の略図作成、写真撮影を行なった。前年度事業地の北側および西側に該当する。

検出遺構　現水田面に計23本のトレンチを設定した。栗尾川西側の丘陵斜面は棚田造成により削平が著しく遺構は未検出に終わった。東側丘陵では中央に浅い谷を確認し、比較的削平の少ない両側斜面の黄褐色粘質土上面で焼土坑を検出した。その分布は密ではないが、広範囲に認められた。

出土遺物　トレンチ内の採集遺物には縄文土器、中世・近世の土師器、陶磁器がある。コンテナ１箱未満である。

まとめ　脇山地区西側に広がる扇状地の一部では12世紀後半以降に集落化が進むが、栗尾川流域の丘陵部ではその様相は看取されない。



1. 調査地点の位置（早良11）

2. 調査前風景（南から）

3. 第７トレンチ（西から）

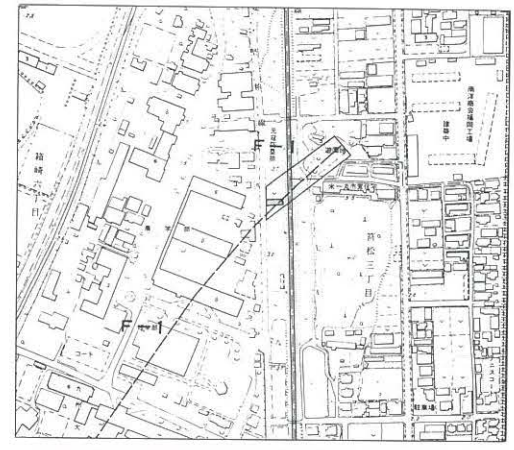
9305　地蔵松原防塁（GKB－I）

所　在　地　東区箱崎六丁目3575－12
調査原因　仮設鉄道建設
調査期間　930513～930531
調査面積　500m²
担　当　者　井澤洋一・長家　伸
処　　置　埋め戻し後仮設鉄道建設

位置・環境　元寇防塁は、文永11年(1274年)の蒙古襲来の後に幕府の命により、九州各国の分担で博多湾岸に総延長20kmに渡って築造された高さ３m程の石築地である。昭和６年に国史跡として指定されて、現在10ケ所が知られている。

本調査は、箱崎土地区画整理事業に係るJR鹿児島本線の立体交差事業に伴い、防塁保存区域内に仮設鉄道が建設される計画であることから、工事区域内の元寇防塁の遺存状況を確認し、盛土高および建設工法を決定するために行なったものである。

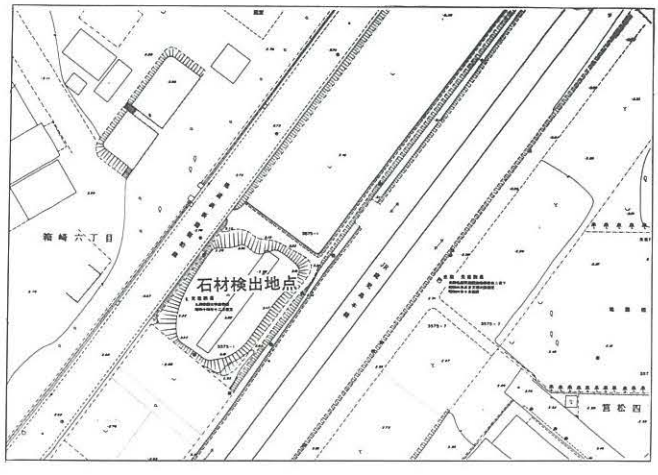
対象地は地蔵松原地区防塁として国史跡の範囲内であり、現在は九州大学農学部の演習農場として利用されている。



1．調査地点の位置（箱崎34－F－I）

調査概要　調査は防塁線におおよそ直交する幅約３mのトレンチ状の調査区を設定して、掘り下げを行なった。層序は　１層　表土、２層　黄褐色砂(盛砂)、３層　黄褐色砂（風成砂）、４層　青灰色砂(風成砂)、５層　黄褐色粗砂である。遺物は出土していない。地表下1.8mの３層上面で防塁を構成すると考えられる石材を検出した。材質は花崗岩もしくは礫岩と思われ、大きさは約50cm程である。防塁の残存状態は良いとはいえず、構築方法等は不明である。石材は確認後、埋め戻している。以上のように防塁の存在が確認されたため、現在仮設鉄道建設の工法を協議中である。

2．石材検出状況



3．調査地周辺測量図

4．トレンチ土層堆積状況

9315　那珂遺跡群第43次調査（NAK－43）

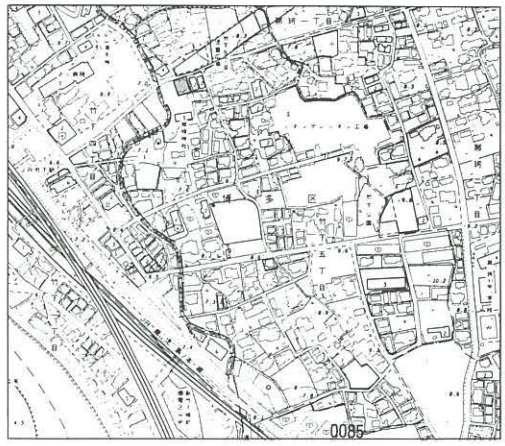
所　在　地　博多区竹下五丁目112－2　　調査面積　132㎡
調査原因　倉庫建設　　担　当　者　山口譲治・菅波正人
調査期間　930607～930608　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は那珂遺跡群の中央西端に位置する。現況の標高は約８ｍを測る。遺構面は厚さ40～60㎝の表土を除去した鳥栖ローム層である。

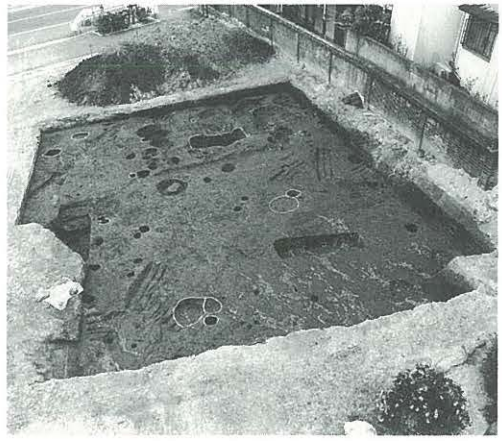
検出遺構　遺構面はかなりの削平をうけており、遺構の遺存状況は悪い。遺構は土坑、柱穴等を検出した。

出土遺物　遺物は中世末～近世初頭の土師器、磁器片が数点出土した。（コンテナ１箱）

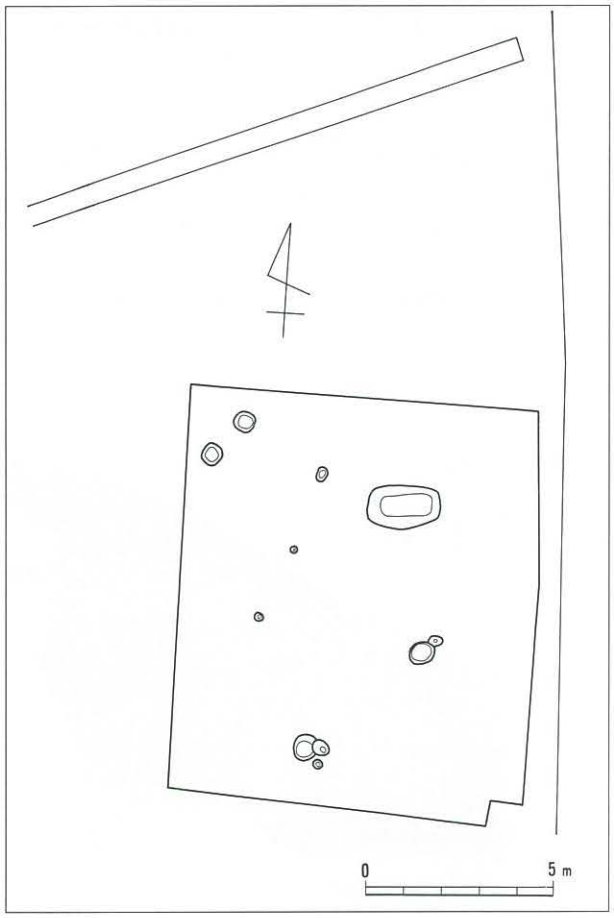
まとめ　今回の調査では中世末～近世初頭の土坑、柱穴等を検出した。調査地の全面で行なわれた第19次調査でも当該期を中心とした遺構が検出されている。



1．調査地点の位置（東光寺37－A－３）



2．調査区全景



3．第43次調査地点全体図（1/200）

9333　那珂遺跡群第45次調査（NAK－45）

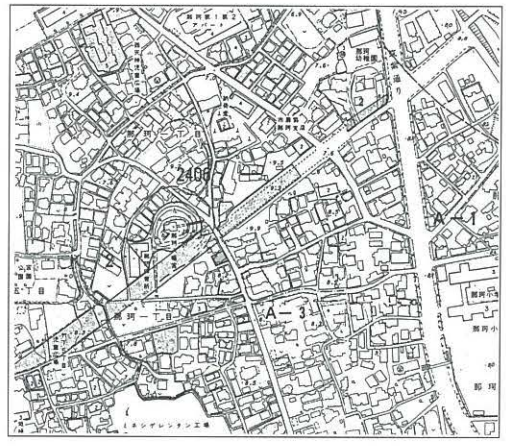
所　在　地　博多区那珂一丁目829　　調査面積　162.5m²
調査原因　事務所兼個人専用住宅建設　　担　当　者　白井克也
調査期間　930823～930826　　処　　置　調査後破壊

位置・環境　那珂川と三笠川に挟まれて位置する那珂遺跡群のうちでも、那珂八幡古墳の周濠を検出した第34次調査地点に南接する。標高は約９ｍで、地表下0.1～0.2mで基盤の鳥栖ローム層に達する。

検出遺構　削平と家屋解体に伴う撹乱により遺構の遺存は不良であり、竪穴住居の掘方様の遺構と、これを切る土坑１基を検出したが、いずれも時期・性格は不明である。

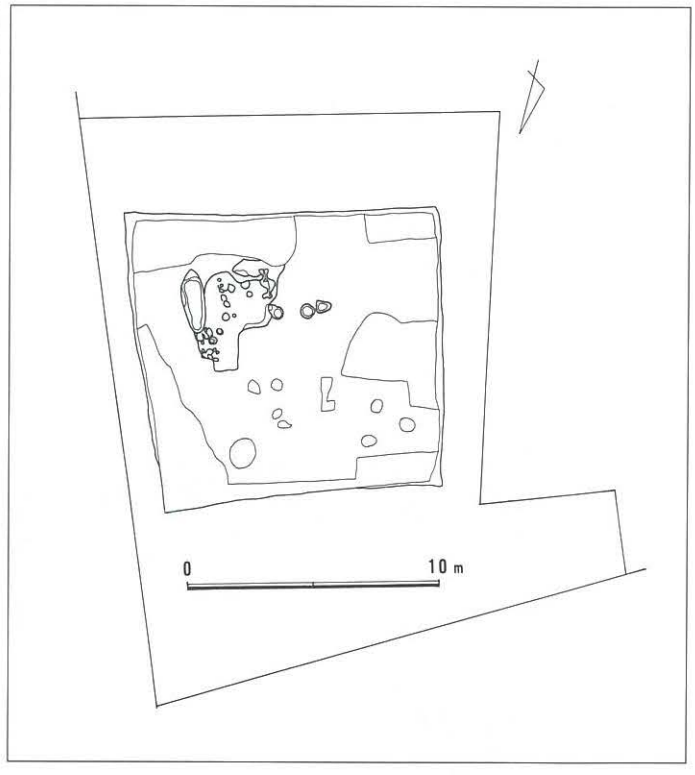
出土遺物　撹乱坑等より、土器片、陶磁器片等が１箱分出土した。

まとめ　今回の調査地点はかなりの削平を受けており、遺構の遺存状態は極めて悪く、時期も不明である。



1．調査地点の位置（東光寺37）

2．調査区全景



3．調査区全体図（1/300）

9359　羽根戸古墳群G・N群第2次調査(HDK－G・N2)

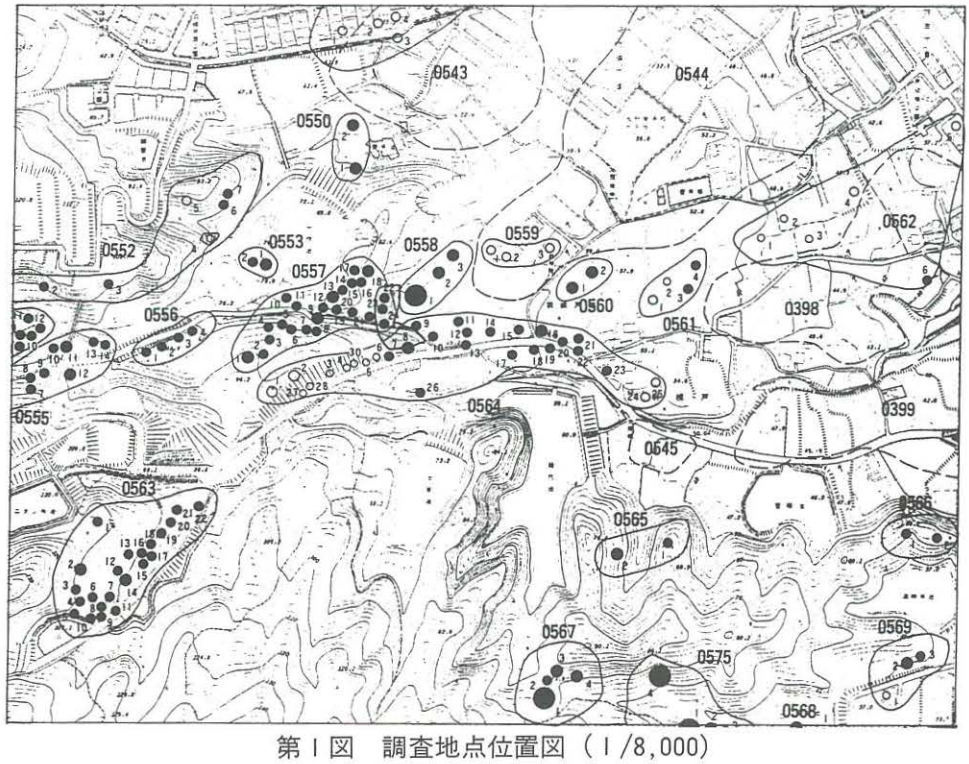
所　在　地	早良区大字羽根戸地内	調査面積	160㎡
調査原因	公園建設	担　当　者	長家　伸
調査期間	940121～940211	処　　置	盛土保存(調査後一部を破壊)

1．調査に至る経過

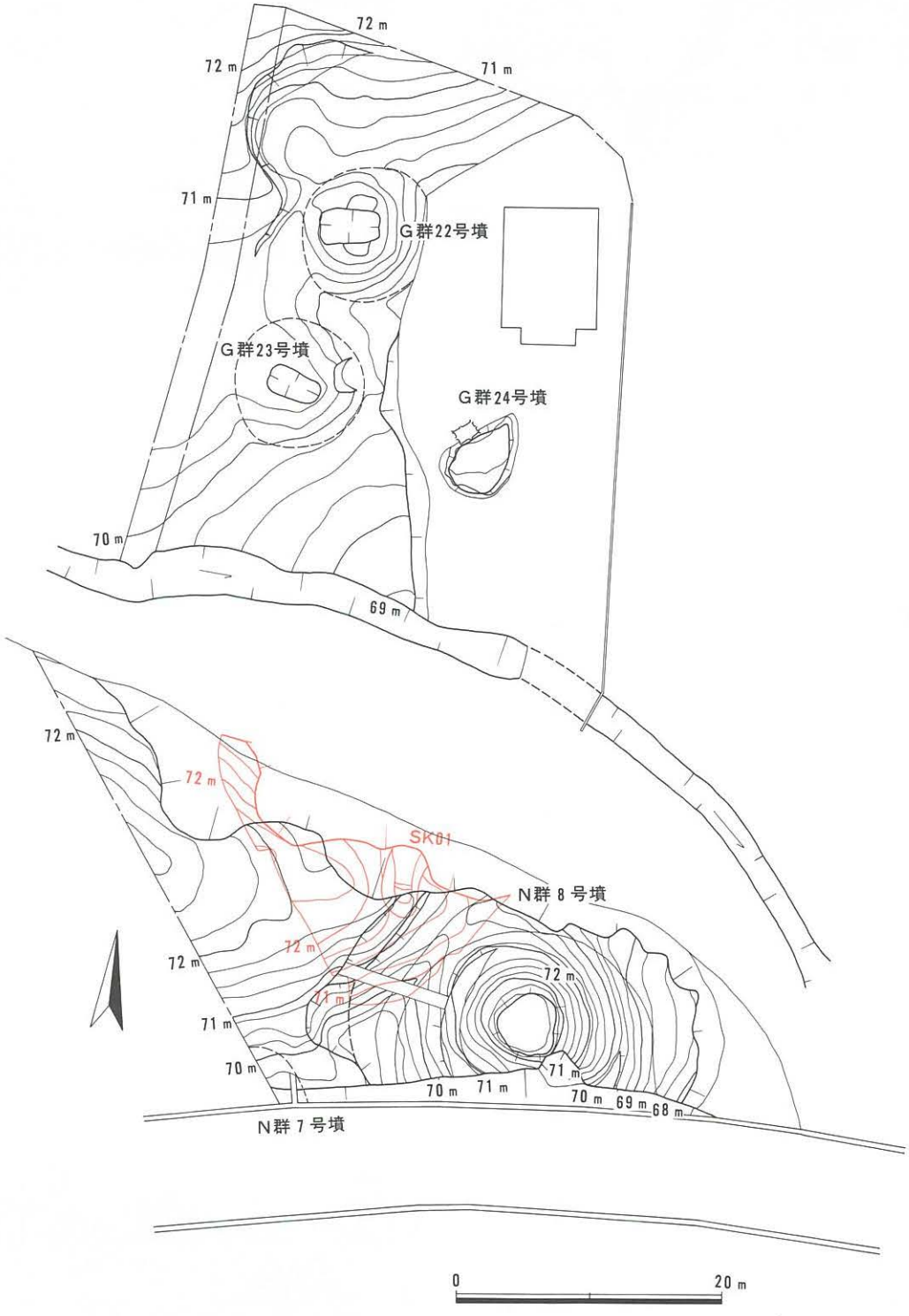
平成5年5月17日付け、都整第313号で公園建設課より、大正公園の整備事業に関して事前審査願いが提出された。当該地は羽根戸古墳群G群およびN群に当り、現況であわせて5基の円墳が確認されている。また、N群については昭和60年10月19日～昭和61年6月18日に西部墓園建設に伴う進入道路拡張工事に先行して1～8、27、28、30号墳の調査を行っている。計画された公園は当初、現存の墳丘を破壊し平坦面を造成するというものであった。これを受け埋蔵文化財課では、当該古墳群の遺存状況がきわめて良好であり、特にN群8号墳については墳丘規模も大きく非常に貴重なものと考えられるため、古墳群の現状での保存を要請し、公園建設課と設計協議を行なった。

その結果G群に関しては排水路の整備工事を除いて掘削工事を行なわないこととし、各古墳に関しては22・23号墳については石室陥没部分に土を充塡し全体に20～30cmの盛土を施すこととした。また、24号墳については周囲に石垣の工事を行なうため石室・墳丘の確認調査を行ない石室・墳丘を破壊しないように石垣を構築することとした。N群に関しては、8号墳は現況で保存することとし、その西側に藤棚設置のための造成を行うことにした。そのためおおよそ標高71mのラインから西側で掘削・盛土が行なわれるのでこの部分については発掘調査を行なうこととした。また、8号墳の規模確認のため墳丘裾部にトレンチ設定している。なお、7号墳については藤棚造成地内に入るが盛土保存部分であり、前回調査後埋め戻されているため今回調査対象にはしていない。

羽根戸古墳群については今後西部墓園の整備などとも併せ、古墳群としての保存・活用を図っていく必要があろう。また、今回の調査に関しては設計の協議等について地元の方々および公園建設課に



第1図　調査地点位置図（1/8,000）



第２図　現況測量図および調査区全体図（１/500）

はご理解と御協力をいただいた。記して感謝する次第である。

２．位置と環境

羽根戸古墳群の位置する早良平野は福岡市の西部に開ける平野で、中央部を室見川が北流しこれを中心とした沖積作用による扇状地平野と三角州平野によって形成されている。早良平野の西側を画し

第３図　Ｎ群８号墳現況（東から）

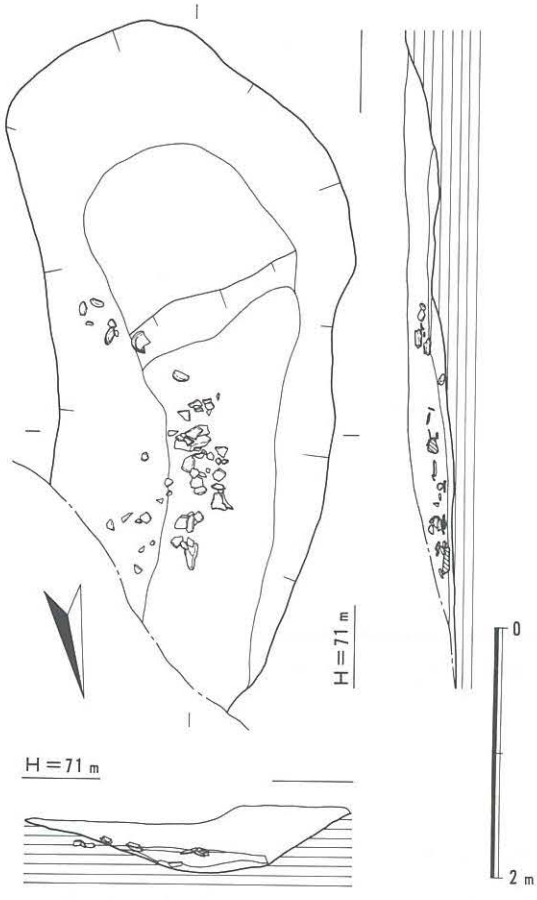
第４図　Ｎ群調査区全景（西から）

ている背振山から派生し叶岳・長垂山に至る山塊および東側段丘上には多くの遺跡が知られている。

当該地の古墳は金武～羽根戸～叶岳に至る山麓上に大小の古墳群が多数築かれており、市内でも有数の大古墳群を形成している。今回調査を行なった羽根戸古墳群G･N群もこれら古墳群を形成するもので群集墳のあり方を考える上で貴重な資料となるものである。

３．調査の記録

藤棚設置のため削平を受ける部分については発掘調査を実施し、N群８号墳の規模確認とG群24号墳の石室確認調査を同時に行った。



第５図　ＳＫ－01（1/60）

N群内の発掘調査は、20～40cmの表土を除去したところで検出した小礫混じりの赤褐色土を遺構面として遺構検出を行い、土壙を１基検出した。出土遺物も多く古墳に伴う周溝もしくは祭祀土壙と考えられる。また、前回の調査で７号墳周辺より縄文時代早期土器破片、石器等出土しているが、今回の調査ではまったく出土していない。

N群８号墳に設定したトレンチでは外護列石および周溝底面に掘込みを検出した。

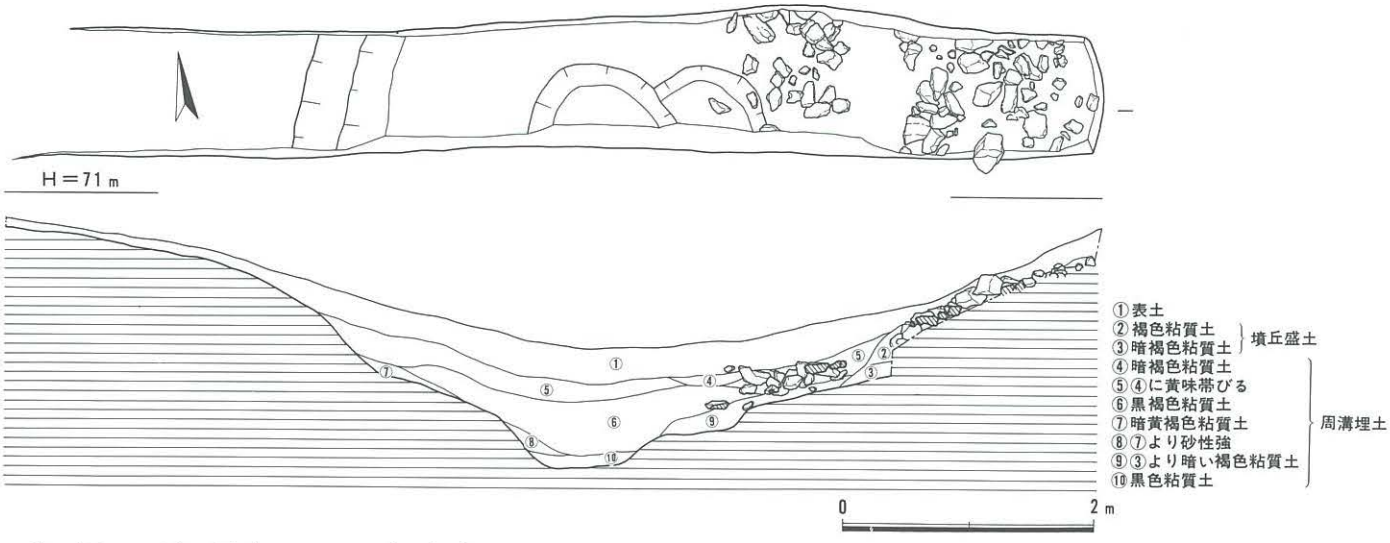
G群24号墳は小型の竪穴石室で、墳丘は大半が失われている。

第６図　ＳＫ－01出土状況（西から）

遺物には土師器・須恵器があり、総量でパンケース２箱分出土した。

SK－01（第５図）　N群８号墳の北東部で検出した。やや西側に膨らみながら湾曲して東西方向に伸びる。南側は一段立ち上がり、平坦面を有して終息する。北側は進入道路開設時の削平により消失している。現存長５m、最大幅2.5mを測る。埋土上層には拳大礫が多数混入しており、これを除去したところで、土師器椀、須恵器蓋坏・横瓶・甕等が多く出土した。蓋坏は完形に近い形で出土しているものが多く、甕については破砕状態での出土であったがほぼ完形に復元された。祭祀に関係する土壙もしくは別の古墳に伴う周溝と考えられる。

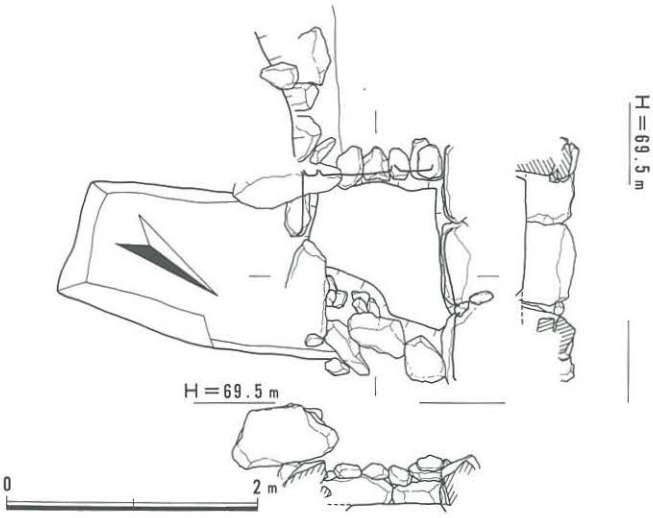
出土遺物（第12図１～17）　出土遺物には土師器・須恵器があり、まとまった量の出土をみた。１～12、16、17は須恵器、15は土師器である。１～６は坏蓋である。口縁端部内面にはいずれも段を有し、口縁部と天井部の境は突起状をなすもの（１～３、６）と沈線状をなすもの（４、５）の二つのタイプがある。７～13は坏身である。口縁端部内面には段を有し、立ち上がりは高く伸びるため器高が深い。立ち上がりの内傾度から２類に区別できそうである。また９・13の底部外面には異なるヘラ記号が施されている。14は無蓋高坏である。脚部に長方形の透かしを３カ所に有する。16は破砕状態で出土した、ほぼ完形に復元できる甕である。対外面に擬格子のタタキを施し、内面には当て具痕が残っている。17は横瓶である。外面にはタタキを行った後に縦方向のカキ目を施し、内面には荒い当て具痕が残る。15は土師器椀である。図示できたのはこの１点のみであるが、SK－01からは土師器の破片が数



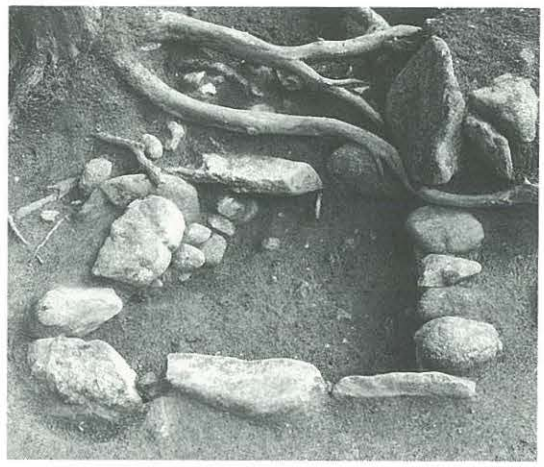
第７図　N群８号墳トレンチ（１/60）

第８図　トレンチ検出状況１（西から）

第９図　トレンチ検出状況２（南西から）



第10図　G群24号墳（1/60）



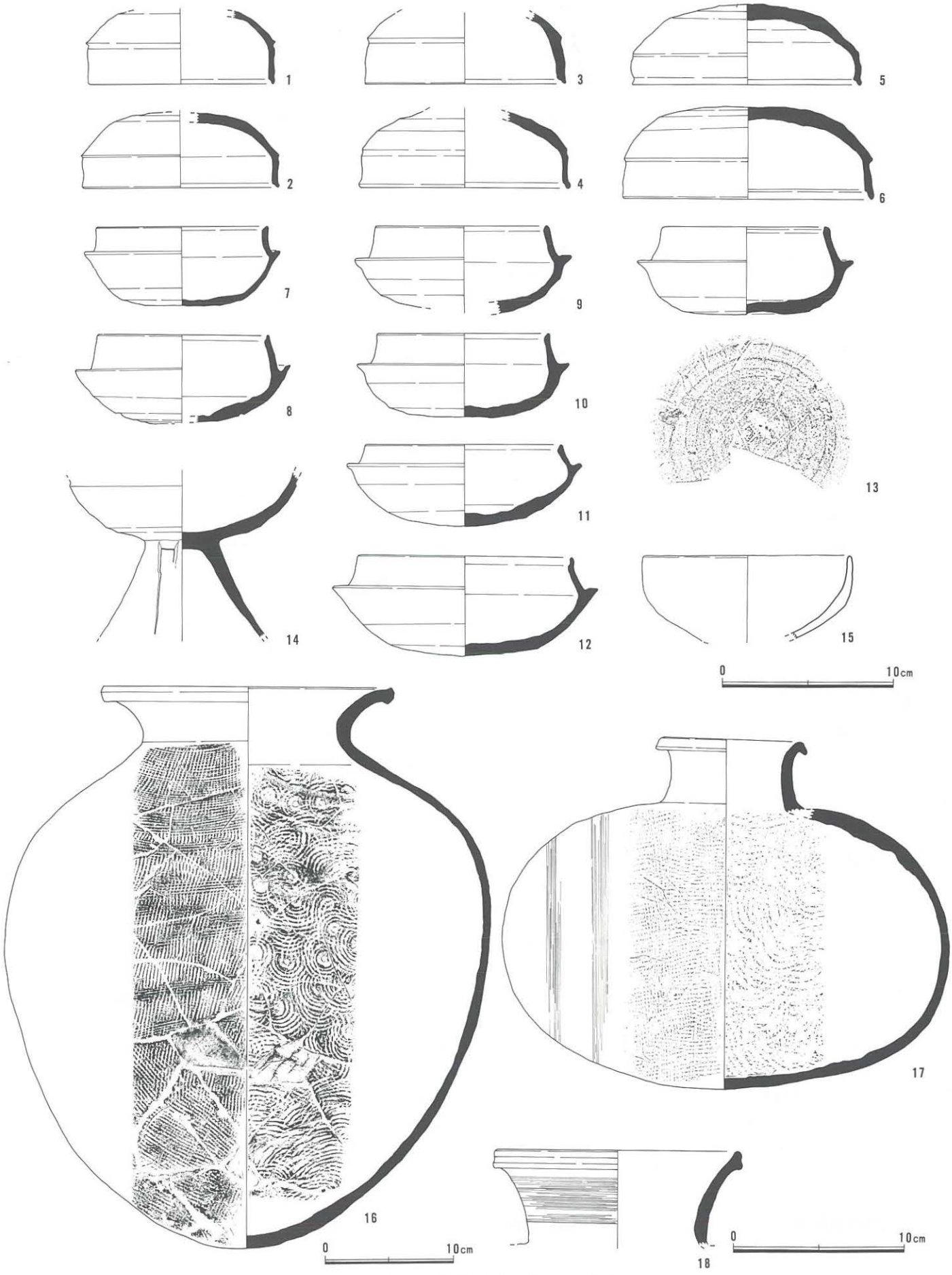
第11図　G群24号墳検出状況（北から）

点出土している。

N群8号墳（第7図）　8号墳墳丘範囲を確認するため墳丘西側の平坦面より西側にトレンチを設定した。（第2図）墳丘斜面上に20cm～30cm大の花崗岩礫による列石が認められる。前回調査においても墳丘斜面を覆う角礫が検出されており、今回もその位置を確認したといえる。列石にはかなり崩落が認められ、周溝内に転落している。周溝幅は4m強を測る。また、周溝中央部にはスロープ状に2段に掘削された掘り込みが確認された。これは形態的に福岡市比恵遺跡36次調査SD－01内で検出した、木柱の依存していた掘り込みに類似するものであるが、詳細は不明である。須恵器破片が出土している。

出土遺物（第12図18）　須恵器口縁部破片が1点のみ出土している。口縁端部は玉縁状を呈し頸部以上にはカキ目が施される。

G群24号墳（第10図）　現況で石材の配列が認められたため、石室の確認を行なった。墳丘は削平を受けており遺存状況は非常に悪い。石室は残りが悪く南・東側が乱されている。石室内法は120cm×100cmを測る小型の竪穴式石室である。北壁は60cm程度の石材を3石並べて腰石としている。西側小口は50cm×30cm程度の石材を腰石とし、上に人頭大の偏平な石を積んでおり、現状で3段目まで残っている。床面には敷石等は見られず、遺物も出土していない。



第12図　出土遺物（1/3、1/4）

平成５年度調査遺跡索引（五十音順）

遺　跡　名	次数	調査番号	P
〔ア行〕			
有田（ありた）遺跡群	171	9301	27
有田遺跡群	172	9332	56
有田遺跡群	173	9338	61
有田遺跡群	174	9340	63
飯倉（いいくら）Ｄ遺跡	1	9360	82
井尻（いじり）Ｂ遺跡群	4	9335	58
板付（いたづけ）遺跡	64	9330	54
板付遺跡	65	9331	55
今宿（いまじゅく）遺跡群	4	9336	59
大原（おおばる）Ｃ遺跡	1	9346	69
小笠木（おかさぎ）遺跡群	2	9322	46
〔カ行〕			
蒲田部木原（かまたへきばる）遺跡	3	9341	64
熊本（くまもと）遺跡群	2	9351	74
警弥郷（けやごう）Ｂ遺跡	3	9366	88
〔サ行〕			
雀居（ささい）遺跡	5	9317	41
雀居遺跡	6	9319	43
雑餉隈（ざっしょのくま）遺跡群	2	9324	48
雑餉隈遺跡群	3	9349	72
雑餉隈遺跡群	4	9367	89
四箇船石（しかふないし）遺跡群	6	9350	73
志水（しみず）Ａ遺跡群	1	9371	92
次郎丸（じろうまる）遺跡群	2	9303	29
次郎丸遺跡群	3	9339	62
〔タ行〕			
太平寺（たいへいじ）遺跡群	1	9314	39
高畑（たかばたけ）遺跡群	14	9368	90
田村（たむら）遺跡群	15	9320	44
田村遺跡群	16	9321	45
田村遺跡群	17	9358	81
地蔵松原防塁（じぞうまつばらぼうるい）	1	9305	95
天神森（てんじんもり）遺跡群	2	9352	75
徳永（とくなが）Ａ遺跡群	3	9354	77
都地（とじ）遺跡群	5	9311	36
〔ナ行〕			
那珂（なか）遺跡群	42	9308	33
那珂遺跡群	43	9315	96
那珂遺跡群	44	9328	52
那珂遺跡群	45	9333	97
那珂遺跡群	46	9347	70
永浦（ながうら）遺跡群	1	9362	84
〔ナ行〕			
西新町（にしじんまち）遺跡	6	9364	86
野方中原（のかたなかばる）遺跡群	3	9325	49
野芥大藪（のけおおやぶ）遺跡群	1	9307	32
〔ハ行〕			
博多（はかた）遺跡群	80	9309	39
博多遺跡群	81	9323	47
博多遺跡群	82	9342	65
博多遺跡群	83	9344	67
橋本一丁田（はしもといっちょうだ）遺跡	2	9327	51
羽根戸（はねど）古墳群Ｎ・Ｇ群	2	9359	59
比恵（ひえ）遺跡群	49	9318	42
比恵遺跡群	50	9329	53
比恵遺跡群	51	9334	57
比恵遺跡群	52	9361	83
東入部（ひがしいるべ）遺跡群	7	9312	37
東入部遺跡群	8	9348	71
東那珂（ひがしなか）	1	9343	66
福岡城（ふくおかじょう）	22	9326	50
福岡城	23	9345	68
福岡城	24	9353	76
福岡城	25	9363	85
藤崎（ふじさき）遺跡群	24	9306	31
藤崎遺跡群	25	9356	79
堀の内（ほりのうち）遺跡群	2	9365	87
〔マ行〕			
丸隅山（まるくまやま）古墳群遺跡群	4	9355	78
女原上ノ谷（みょうばるうえのたに）	1	9337	60
麦野（むぎの）Ａ遺跡群	3	9316	40
席田青木（むしろだあおき）遺跡群	2	9304	30
持田ケ浦（もったがうら）Ｄ古墳群	2	9310	35
〔ヤ行〕			
吉塚本町（よしづかほんまち）遺跡群	4	9302	28
〔ラ行〕			
立花寺（りゅうげじ）遺跡群	3	9357	80
〔ワ行〕			
脇山（わきやま）	8	9372	93
脇山	9	9373	94
脇山Ｂ遺跡群	1	9370	91
和田（わだ）Ｂ遺跡群	1	9313	38

III　文化財調査の概要

(1)　文化財調査

i　福岡城関係資料調査

史跡福岡城跡の環境整備の基礎資料として関係資料の調査・収集を継続している。

さきにまとめた『福岡城関係資料年表稿』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第237集所収、1991）に引き続き、平成５年度は『福岡城の櫓』（Ａ４版、52頁、うち写真頁30頁）を公刊した。「四十七」あったと伝えられる福岡城の櫓について、それらの名称・位置等を明らかにしようとしたものである。その結果、櫓跡を含む46余棟の存在が確かめられ、33棟については名称と位置を指摘できた。

ii　福岡市の絵馬調査

民俗・美術・歴史資料として貴重な文化財である絵馬の所在調査を実施した。現在、元禄から平成まで2,000余点の所在を確認した。社殿改築や絵馬自体の老朽化により廃棄されるなど、今後この傾向は進むものと思われた。もとより画面の剝落は年毎に進行しており、調査の緊急性を痛感させられる現状にある。引き続き、目録の作成を計画している。

(2)　平成５年度の文化財指定

南方録　実山書写校合奥書

所有者・所在地　圓覚寺　博多区御供所町13番11号

『南方録』は千利休の茶の湯の教えを整理した記録と伝えられる。福岡藩士立花実山は貞享３年（1686）、元禄３年（1690）の参勤交代の途時、本書の存在を知り、これを書写して帰国した。利休によって完成された侘茶の理念を今日に伝える随一の茶書と評価される。

南方録　宝永二年乙酉臘月実山校合奥書（寧拙書写本）

所有者・所在地　立花俊彦　中央区御所カ谷123－１

立花実山の実弟である寧拙が書写した『南方録』。宝永２年（1705）、実山は弟寧拙以下四名に『南方録』の書写を許し相伝を図った。現在、この４書写本のうち、立花家に伝えられた寧拙書写本のみ所在が確認される。江戸その他各所に流布した転写本の原典として高い資料価値を持つ。

洪山宗範墨蹟　上堂語　至徳乙丑冬節後三日

所有者・所在地　崇福寺　博多区千代町７番79号

洪山宗範（1318～1396）は大応国師南甫紹明の法孫で、崇福寺第三十二世の住持。至徳２年（1385）、修行者に対する恒例の説法に際し、自分に代わって説法を行なった首席の僧へ感謝の言葉を述べたもの。資料に乏しい大宰府横岳時代の崇福寺を知ることができる貴重な墨跡である。竪34.7cm、横83.3cm。

東入部遺跡出土資料

所有者・所在地　博多区井相田二丁目１番94号（福岡市埋蔵文化財センター）

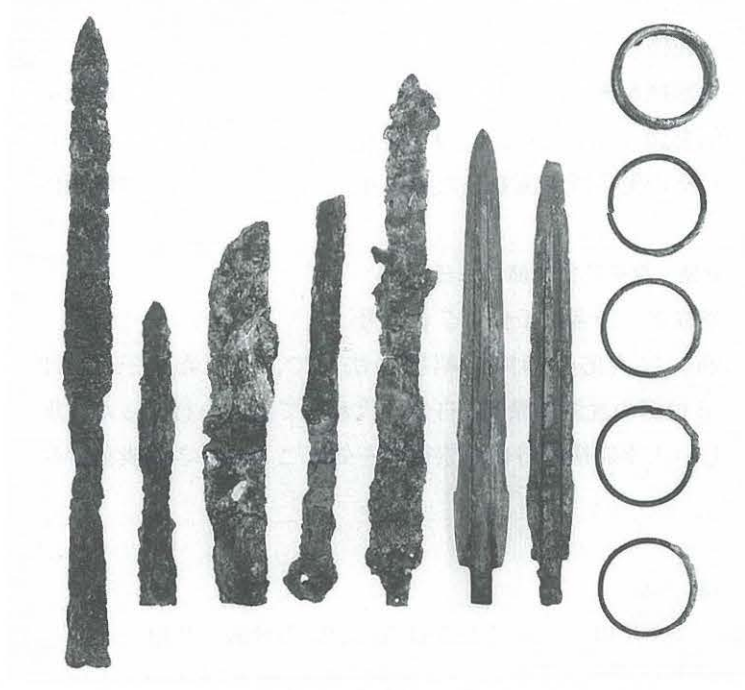
東入部遺跡は早良平野の南側、油山の西麓から西北方向に延びる低丘陵上に立地する。本資料はその西側斜面に営まれた計160基の弥生時代の墓地から出土したものである。前期末の細形銅剣、中期前

半の銅釧、中期後半の鉄製武器など34点からなり、弥生時代の社会遺構を解明する上での重要な資料である。

南方録　実山書写校合奥書

南方録　宝永二年乙酉臘月実山校合奥書（寧拙書写本）

洪山宗範墨蹟　上堂語　至徳乙丑冬節後三日



東入部遺跡出土資料

附　平成５(1993)年度刊行報告書一覧

（　）内は、報告された遺跡の調査番号

第356集　「席田青木遺跡１」(9206)
第357集　「席田遺跡群７」(9210)
第358集　「麦野Ｂ遺跡II」(9257)
第359集　「笹原遺跡Ｉ」(9203)
第360集　「奈多砂丘Ｂ遺跡１」(9239)
第361集　「中・南部(3)－那珂遺跡群第29次・麦野Ｃ遺跡調査報告－」(9026・8949)
第362集　「板付周辺遺跡調査報告書(16)」(8901)
第363集　「五十川赤目遺跡」(7809)
第364集　「那珂遺跡９」(9122)
第365集　「那珂10－那珂遺跡群第32・34次調査報告－」(9115・9144)
第366集　「那珂11」(9224)
第367集　「那珂遺跡12－那珂40次調査の記録－」(9256)
第368集　「比恵(13)」
第369集　「比恵遺跡群(14)」(9245)
第370集　「博多41」(9062)
第371集　「博多42－第72次調査概報－」(9113)
第372集　「鴻臚館跡IV－平成４年度発掘調査概報－」
第373集　「中村町遺跡Ｉ」(9044)
第374集　「吉塚本町遺跡－第４次調査報告書－」(9302)
第375集　「西新町遺跡３」(9246)
第376集　「藤崎遺跡９」(9223・9224)
第377集　「有田・小田部第19集」(7712・8112・8120・8123・8206・8208)
第378集　「有田・小田部第20集」(8803・8822・8836)
第379集　「飯倉Ｆ遺跡１」(8940・9031・9108)
第380集　「山崎古墳群－第２次調査－」(9263)
第381集　「東入部遺跡群１」(9208)
第382集　「東入部遺跡群２」(9226)
第383集　「東入部遺跡群３」(9227)
第384集　「田村（IX)」(8847・9059・9247)
第385集　「田村（X)」(9242)
第386集　「脇山VI」(9215)
第387集　「飯倉唐木遺跡－飯倉Ｃ遺跡第２次調査－」(9063)
第388集　「鋤崎遺跡１」(9202)
第389集　「今宿遺跡」(6906・9336)
第390集　「飯氏遺跡群II－国道202号今宿バイパス関係文化財調査報告Ｖ－」(8921)

「福岡城の櫓」
「福岡市埋蔵文化財年報」　Vol. 7　1992年度
「福岡市文化財分布地図（西部Ｉ）」

福岡市埋蔵文化財年報Vol. 8
ー平成 5 （1993）年度ー

発　行　日　1995年 3 月31日
編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
福岡市中央区天神一丁目 8 － 1

印　　刷　正光印刷株式会社

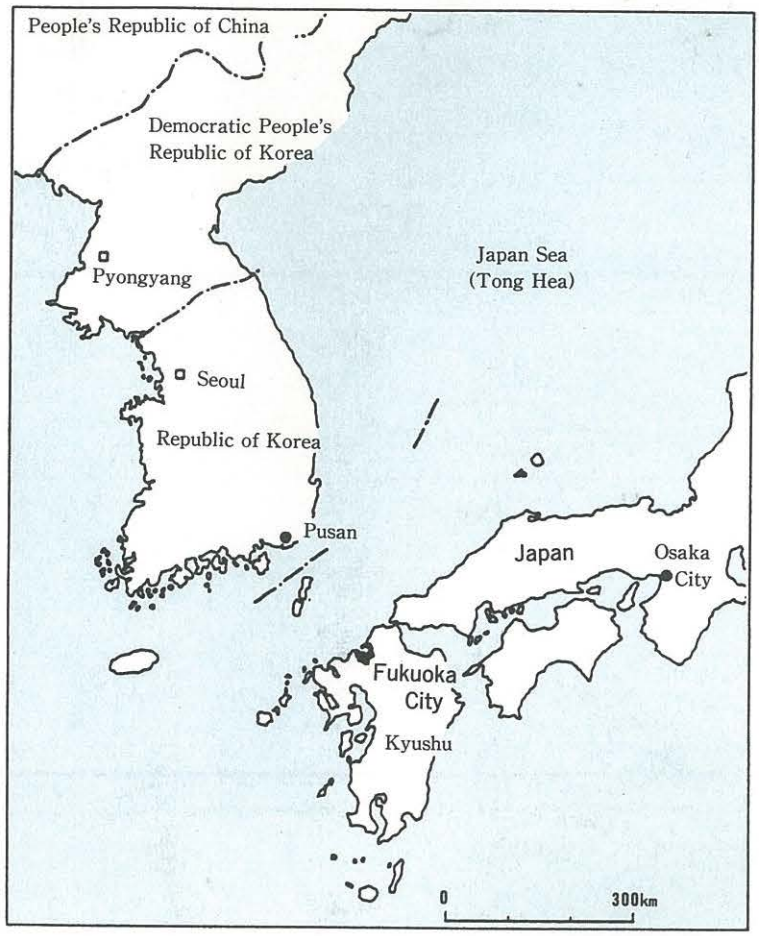
THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 8

1993



THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1995

Japan